

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I		野田 明	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。 主に Reading 力を伸ばすことを目的とします。高校までに学習した文法事項、構文などを実際の文章の中で確認しつつ、その応用と読解力の強化を図ります。						
到達目標	英文の大意を把握するとともに、重要部分は正確に訳すことができる。また、表現やニュアンスの違いも理解することができる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	イントロダクション			16	Dr. Shinya Yamanaka 前半		
2	The Washington Cherry Trees 前半			17	Dr. Shinya Yamanaka 後半		
3	The Washington Cherry Trees 後半			18	Made in Japan 前半		
4	Modern Day Japanese Knight 前半			19	Made in Japan 後半		
5	Modern Day Japanese Knight 後半			20	Youth 前半		
6	Mona Lisa 前半			21	Youth 後半		
7	Mona Lisa 後半 小テスト			22	Deadly Progress 前半		
8	Space Shuttle Challenger 前半			23	Deadly Progress 後半 小テスト		
9	Space Shuttle Challenger 後半			24	John Matthew Ottoson 前半		
10	Honesty Wins 前半			25	John Matthew Ottoson 後半		
11	Honesty Wins 後半			26	It' s a No-brainer! 前半		
12	he Miracle on the Hudson 前半			27	It' s a No-brainer! 後半		
13	he Miracle on the Hudson 後半			28	The Genius in You 前半		
14	The Family Bridge 前半			29	The Genius in You 後半		
15	The Family Bridge 後半 小テスト			30	学修内容の振り返り		
予習内容 復習内容	決められた範囲について、知らない単語の意味については辞書で調べてから出席する。 授業後は学習した英文の内容が理解できたかを確認しておく。						
教科書	松尾秀樹・Stephen Edward Rife『リーディング・コンパス 英文読解の総合演習』（三修社） 進度に応じて題材を追加します。						
成績評価	授業での取り組み、発表を 30%、前期・後期の学期末に行う筆記試験を 70%として評価します。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I		萩 三恵	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	本授業では文構造を見抜き、文法力を高めることによりリーディング力向上につなげます。なんとなく単語の意味をつなげて文の意味を取ろうとせず、主語と述語の対応や、修飾語句の範囲などを常に押さえながら長文読解を行います。さらに、ユニット毎に小テストを実施して各ユニットの理解度を確認します。なお、正答と解説は小テスト返却時に行います。						
到達目標	① 英語の基本的な構造を十分に理解できる。 ② 既習の英文法の重要事項についてさらに理解を深めることができる。 ③ やさしい英文を速読し理解できる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス			16	Unit 8 Listening Part		
2	Unit 1 Listening Part			17	Unit 8 Reading Part		
3	Unit 1 Reading Part			18	Unit 9 Listening Part、Unit 8 小テスト		
4	Unit 2 Listening Part、Unit 1 小テスト			19	Unit 9 Reading Part		
5	Unit 2 Reading Part			20	Unit10 Listening Part、Unit 9 小テスト		
6	Unit 3 Listening Part、Unit 2 小テスト			21	Unit10 Reading Part		
7	Unit 3 Reading Part			22	Unit11 Listening Part、Unit10 小テスト		
8	Unit 4 Listening Part、Unit 3 小テスト			23	Unit11 Reading Part		
9	Unit 4 Reading Part			24	Unit12 Listening Part、Unit11 小テスト		
10	Unit 5 Listening Part、Unit 4 小テスト			25	Unit12 Reading Part		
11	Unit 5 Reading Part			26	Unit13 Listening、Unit12 小テスト		
12	Unit 6 Listening Part、Unit 5 小テスト			27	Unit13 Reading Part		
13	Unit 6 Reading Part			28	Unit14 Listening Part、Unit13 小テスト		
14	Unit 7 Listening Part、Unit 6 小テスト			29	Unit14 Reading Part		
15	Unit 7 Reading Part			30	総括		
予習内容 復習内容	予習：READING PART Find Out の長文について事前学習を行う。 復習：本文の内容と、単語・表現、構文、文法について事後学習を行う。						
教科書	『AMBITIOUS Elementary』（金星堂）						
成績評価	・試験：60%、小テスト：30%、平常点（授業に対する取り組み）：10%の基準で評価する。 ・出席回数が全授業数の 3 分の 2 に満たない場合は、出席不足により成績評価要件を満たしていないと判断し、評価対象外とする。						
実務経験							
その他 特記事項	授業欠席事由が公欠、あるいはそれに相当する場合は小テスト未受験について配慮します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I		吉岡 みのり	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		環境問題への取り組みや高齢化社会の問題、映画やファッション、メディアや YouTube など、現代社会の様々な話題を各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業（1回目はテキスト読解中心、2回目は語彙やリスニングなどの練習問題）で読了する予定。1ユニット 300 語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには内容理解度を問う問題や、簡単な英作文、語彙や文法に関する問題、リスニング問題などが用意されている。様々な課題への取り組みを通して、英語力を総合的に向上させることを目的とする。					
到達目標		①英文の内容を速く的確に把握する力をつける。 ②語彙や文法に関する基礎的な知識を確認する。 ③簡単な英文を作成する力や聞き取る力を養う。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）			16	前期試験返却・Unit 7 The Gossip Media(副詞)		
2	Unit 1 Millennials－ミレニアル世代			17	Unit 8 Replanting the World’ s Forest－森林再生		
3	Unit 1 Millennials（現在完了形）			18	Unit 8 Replanting the World’ s Forest（形容詞・副詞）		
4	Unit 2 Green Profits－環境問題への取り組み			19	Unit 9 Adventure Tourism－旅行		
5	Unit 2 Green Profits（副詞節）			20	Unit 9 Adventure Tourism（前置詞）		
6	Unit 3 Well-Loved Pets－ペット			21	Unit 10 The Cannes Film Festival－映画祭		
7	Unit 3 Well-Loved Pets（形容詞＋前置詞）			22	Unit 10 The Cannes Film Festival（代名詞）		
8	Unit 4 Italy’ s Fashion Kings－ファッション			23	Unit 11 Giving Away Billions－寄付		
9	Unit 4 Italy’ s Fashion Kings（副詞）			24	Unit 11 Giving Away Billions（形容詞節）		
10	Unit 5 Viral Marketing－マーケティング			25	Unit 12 Computer Actors－CGI		
11	Unit 5 Viral Marketing（前置詞）			26	Unit 12 Computer Actors（受動態）		
12	Unit 6 TED Talk－TED トーク			27	Unit 13 New York City－ニューヨーク市		
13	Unit 6 TED Talk（助動詞）			28	Unit 13 New York City（数量詞）		
14	Unit 7 The Gossip Media－ゴシップとメディア			29	Unit 14 Fresh Water－水をめぐる危機		
15	前期のまとめと試験			30	後期のまとめと試験		
予習内容 復習内容	テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。						
教科書	『リーディング・パス 2』（南雲堂）						
成績評価	試験（前期と後期に実施）50%＋平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30% 小テスト 20%(各ユニットを学習した後実施する) 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I		花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標		中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス・声調			16	前期の復習		
2	単母音と複母音			17	年齢の言い方とたずね方・量詞		
3	子音・鼻韻母			18	数をたずねる疑問詞		
4	軽声・声調の変化			19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方		
5	アール化・人称代名詞			20	中国の通貨・値段のたずね方		
6	「是」述語文①			21	年月日と曜日・時刻の表現		
7	「是」述語文②・名前の言い方答え方			22	助動詞「想」・連動文		
8	動詞述語文			23	存在文		
9	疑問詞疑問文			24	前置詞①・反復疑問文		
10	副詞「也」・省略疑問文			25	完了形		
11	指示詞・助詞「的」			26	文末につける「了」・前置詞②		
12	副詞「都」・語気助詞			27	助動詞②・助動詞③		
13	数字・所有を表す「有」・程度副詞			28	二重目的語をとる動詞		
14	形容詞述語文			29	進行形・動詞『～が好きだ』		
15	前期の総復習			30	後期の総復習		
予習内容 復習内容		予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書		『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）					
成績評価		出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験							
その他 特記事項		予習復習を欠かさずに行うこと。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I		嶋田 宏司	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	ドイツ語というゲルマン語から見た、ヨーロッパの言語の概観をえることを目的とします。 これまでの英語の学習を土台にして、新しい言語の学びかたを身につけることを最終目標とします。 参加型の授業のため、年間 10 回を超えて欠席した場合は評価の対象外とします。						
到達目標	1. ドイツ語の文が音声を伴って発音できること。 2. 基礎文法を踏まえて、簡単な作文ができること。 3. 1 と 2 を合わせることで会話の糸口を作ることができること。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ドイツ語と英語の関係について。ドイツ語の文字を発音してみる。			16	Fahrkarte bitte! 形容詞と格変化（1）		
2	Ich reise nach Deutschland. 人称代名詞、動詞の現在人称変化（1）			17	形容詞と格変化（2）		
3	動詞の現在人称変化（2）、文型			18	An der Rezeption 動詞の時制について（三基本形 1）		
4	Wie lange bleiben Sie in Deutschland? 名詞の性、冠詞と格変化（1）			19	動詞の時制について（三基本形 2）		
5	冠詞と格変化（2）、不定冠詞			20	過去、過去分詞（1）		
6	Willkommen in München! 不規則動詞（1）			21	Konzertabend 分離動詞（1）		
7	不規則動詞（2）			22	分離動詞（2）、非分離動詞		
8	定冠詞類（1）			23	zu 不定詞		
9	定冠詞類（2）			24	Im Kaffeehaus 話法の助動詞（1）		
10	不定冠詞類（1）			25	話法の助動詞（2）		
11	不定冠詞類（2）			26	再帰動詞、再帰代名詞（1）		
12	In München gibt es viele Sehenswürdigkeiten. 前置詞			27	再帰動詞、再帰代名詞（2）		
13	前置詞			28	Einchecken bitte! 未来形		
14	Was wünschen Sie? 人称代名詞、目的語の語順			29	完了形		
15	試験			30	試験		
予習内容 復習内容	予習：Google などの音声認識アプリで教科書の本文を読み、発音を確認しておくこと。 復習：教科書の練習を再び解いてみて、一つの文として書き写すこと。そして発音しておくこと。						
教科書	『Deutsch, der erste Schritt ドイツ語、始めてみよう』伊藤真／高橋幸雄／木村高明、同学社						
成績評価	前期末、後期末の 2 回の試験（70%）、出席状況、課題への取り組み、積極的な発言や明瞭な発声など（30%）						
実務経験							
その他 特記事項	5 月以降は辞書を持参すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I		今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。 教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。					
到達目標		①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を音読できる。 ②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を理解し、自分でも作ることができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、アルファベット			16	前期の復習		
2	アルファベットと単語の読み方			17	第 4 課 定冠詞の仲間		
3	単語の読み方（挨拶、数字など）			18	第 4 課 練習問題		
4	第 1 課 文の作り方（動詞について）			19	第 4 課 不定冠詞の仲間		
5	第 1 課 重要な動詞、語順の原則			20	第 4 課 練習問題、会話文		
6	第 1 課 練習問題、会話文			21	第 5 課 名詞の複数形		
7	第 2 課 名詞について（名詞の性別）			22	第 5 課 人称代名詞		
8	第 2 課 名詞の「格」について			23	第 5 課 練習問題、会話文		
9	第 2 課 重要な動詞			24	復習と中間テスト		
10	第 2 課 練習問題、会話文			25	第 6 課 前置詞の使い方		
11	復習と中間テスト			26	第 6 課 練習問題、会話文		
12	第 3 課 不規則動詞			27	第 7 課 形容詞の使い方		
13	第 3 課 不規則動詞の練習問題、命令形			28	第 7 課 練習問題、会話文		
14	第 3 課 練習問題、会話文			29	後期の復習		
15	前期の復習			30	前期・後期の復習		
予習内容 復習内容	予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。 復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。						
教科書	①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社 ②独和辞典（4 月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※ 5 月以降は必ず①②両方持参すること						
成績評価	前期試験と後期試験の点数に基づいて成績評価を行う。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも 10 回以上講義に出席しないと評価対象外となる（遅刻・早退は 0.5 回の出席とみなす）。						
実務経験							
その他 特記事項	体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけではなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語 I		井出 勉	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはずです。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。 また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検 5 級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。					
到達目標		①仏検 5 級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	授業の進め方、フランスの紹介・発音		16	数字（特に 1～20）と年齢			
2	綴り字の読み方・出合ったときの挨拶		17	部分冠詞			
3	発音練習・別れの挨拶		18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方			
4	自己紹介の仕方		19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方 ＊仏検 5 級受講希望者がいる場合：仏検対策①			
5	名詞の性と数・不定冠詞		20	～に行く・～から来た 仏検対策②			
6	形容詞の性と数		21	所有形容詞・人称代名詞強勢形			
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞		22	比較級			
8	基本動詞の活用		23	命令形			
9	3 通りの疑問文の作り方		24	曜日と日付の表記の仕方			
10	指示代名詞・～が好き（大好き）		25	天候・時刻			
11	否定文		26	近接未来・近接過去			
12	動詞～を持つとその慣用表現		27	過去分詞の作り方			
13	疑問形容詞		28	複合過去（助動詞 avoir ）			
14	動詞～をするとその慣用表現		29	複合過去（助動詞 être ）			
15	前期の総括		30	後期の総括			
予習内容 復習内容		予習：配布した講義資料に基づき、教科書付属の CD を聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。 CD も繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。					
教科書		藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社					
成績評価		平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間 10 回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。					
実務経験							
その他 特記事項		辞書・参考文献については、第 1 回の講義や講義中に随時紹介する。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話		ジョン・リチャーズ	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course.					
到達目標		My goal is to encourage students to improve their communication skills and to gain the confidence necessary to obtain an intermediate level of communication in English.					
回	学習内容			回	学習内容		
1	Introduction and Orientation			16	Unit 7 Then and now		
2	Assessment of Students' Abilities			17	Unit 7 Then and now		
3	Unit 1 Hello Everybody			18	Unit 8 A date to remember		
4	Unit 1 Hello Everybody			19	Unit 8 A date to remember		
5	Unit 2 Meeting people			20	Unit 9 Food you like!		
6	Unit 2 Meeting people			21	Unit 9 Food you like!		
7	Unit 3 The world of work			22	Unit 10 Looking Good!		
8	Unit 3 The world of work			23	Unit 10 Looking Good!		
9	Unit 4 Take it easy!			24	Unit 11 Life is an Adventure		
10	Unit 4 Take it easy!			25	Unit 11 Life is an Adventure		
11	Unit 5 Where do you live?			26	Unit 12 Have you ever?		
12	Unit 5 Where do you live?			27	Unit 12 Have you ever?		
13	Unit 6 Can you speak English?			28	This day is reserved for unfinished work in the textbook.		
14	Unit 6 Can you speak English?			29	This day is reserved for unfinished work in the textbook.		
15	End of First Semester Test			30	End of Second Semester Test		
予習内容 復習内容		Students comprehension will be assessed through weekly activities and homework.					
教科書		American Headway 1 (3rd edition. ISBN 978-0-19-472565-1) By Riz and John Soars (Oxford University Press)					
成績評価		Homework -50% Mid Term Exam - 20% Final Exam - 30%					
実務経験							
その他 特記事項		It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読		村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		科学技術や教育、文化、環境問題など現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。 1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。					
到達目標		①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。 ②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却 Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害			
2	Unit 1：pandemic の語源をたどる		17	Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害			
3	Unit 1：pandemic の語源をたどる		18	Unit 9：持続可能な都市づくりのために			
4	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		19	Unit 9：持続可能な都市づくりのために			
5	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		20	Unit 10：ブルーカーボンとは？			
6	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		21	Unit 10：ブルーカーボンとは？			
7	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		22	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響			
8	Unit 4：指紋認識精度を高める		23	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響			
9	Unit 4：指紋認識精度を高める		24	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション			
10	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		25	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション			
11	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		26	Unit 13：色の認識について			
12	Unit 6：ルービックキューブの歴史		27	Unit 13：色の認識について			
13	Unit 6：ルービックキューブの歴史		28	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性			
14	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		29	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性			
15	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		30	Unit 15：情報のオーバーロードへの対策			
予習内容 復習内容		テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。					
教科書		『リーディングプロスペクト 英文読解の総合演習』（三修社）					
成績評価		試験（前期と後期に実施）70% ＋ 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30% 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。					
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
実用英語		伊藤 怜	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	TOEIC 受験を意識しつつ、TOEIC 形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙や文法事項を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEIC の問題に準拠した、テーマ別 20 ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上と TOEIC の得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを課します。						
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで 400 点以上をとることができる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	授業の説明・TOEIC 出題形式の概観		16	前期の復習・前期期末試験の解説			
2	Unit 1: Shopping		17	Unit 11: Office Equipment			
3	Unit 2: Health		18	Unit 12: Entertainment			
4	Unit 3: Travel		19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting			
5	ここまでの復習		20	ここまでの復習			
6	Unit 4: Weather		21	Unit 14: Contracts			
7	Unit 5: Communication		22	Unit 15: Shipment & Delivery			
8	Unit 6: Home & Family		23	Unit 16: Meetings			
9	ここまでの復習		24	ここまでの復習			
10	Unit 7: Requests & Negotiation		25	Unit 17: Environment & Energy			
11	Unit 8: Transportation		26	Unit 18: Hotels & Restaurants			
12	ここまでの復習		27	ここまでの復習			
13	Unit 9: Production & Control		28	Unit 19: PR & Advertising			
14	Unit 10: Economy & Management		29	Unit 20: Events & Parties			
15	ここまでの復習		30	ここまでの復習			
予習内容 復習内容	予習：各ユニット Step 1 の単語を確認し、「英語の仕組み」を読み、並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭でおこなう確認小テストの準備をしておく。						
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編（アルク）						
成績評価	「前期・後期期末試験」50%（50 点*2 回：計 100 点）＋「小テスト」50%（5 点*20 回：計 100 点） 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。						
実務経験							
その他 特記事項	・ 毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席 5 回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・ 小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。 ・ 授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅱ		花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、より多彩な中国語の表現を学びます。教科書は初中級レベルのものを使用し、無理なくじっくり進めていきます。 リスニング、簡単な会話・音読や自由作文など、中国語を実際に使うトレーニングを行います。 また、中国語の背景にある文化や社会についても、引き続き学びます。					
到達目標		語彙や表現を増やし、中国語を使用した日常的な会話、作文ができるようになることを目標とします。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス・一年次の復習			16	前期の復習・『～と思う』・『～だそうだ』		
2	比較文・『～以外に』・動詞を使った名詞句			17	本文講読・第5課トレーニング		
3	結果補語・会話練習			18	『もうすぐ～だ』・『過ごす』・動詞「祝」		
4	本文講読・第1課トレーニング			19	前置詞「為了」・会話練習		
5	『～のとき』・方向補語「起来」			20	本文講読・第6課トレーニング		
6	副詞「才」・動詞「知道」			21	『たとえ～でも』・『～もあれば～もある』		
7	本文講読・第2課トレーニング			22	「一定要～」・会話練習		
8	『～したばかり』・「把」構文			23	本文講読・第7課トレーニング		
9	「因為」・「原来」・会話練習			24	『～しながら…する』・副詞「只好」・可能補語		
10	本文講読・第3課トレーニング			25	動詞「希望」・会話練習		
11	前置詞「対」・二つの「要」			26	本文講読・第8課トレーニング		
12	『なぜ』・『～だけれども…だ』・会話練習			27	『～だけではなく、また…』・持続		
13	本文講読・第4課トレーニング			28	『少しも～ない』・会話練習		
14	『～とは思わなかった』・蓋然性の助動詞「会」			29	本文講読・第9課トレーニング		
15	前期の総復習			30	後期の総復習		
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。						
教科書	鄭高咏著『音読&会話で深める中国語 中級アイテム15』（朝日出版社） この他、授業内で補助資料の配布があります。						
成績評価	平常点 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅱ		今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または「ドイツ語Ⅰ」と同時に履修する方のための科目です。 「ドイツ語Ⅰ」で学ぶ文法事項をベースにして、聴き取り、発音、会話、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験 5 ～ 4 級程度）を使って口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。					
到達目標		①初歩的なドイツ語（検定試験 5 ～ 4 級程度）を聴いて理解することができる。 ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイドダンス、発音の復習		16	第 5 課 住まい、値段の表現、数字			
2	発音の復習、挨拶		17	第 5 課 聴き取り、会話練習			
3	第 1 課 挨拶、自己紹介の表現		18	第 5 課 読解、文法の確認			
4	第 1 課 聴き取り、会話練習		19	第 6 課 家族について話す			
5	第 1 課 読解、文法の確認		20	第 6 課 聴き取り、会話練習			
6	第 2 課 職業をたずねる／答える表現、数字		21	第 6 課 読解、文法の確認			
7	第 2 課 聴き取り、会話練習		22	第 7 課 趣味について話す			
8	第 2 課 読解、文法の確認		23	第 7 課 聴き取り、会話練習			
9	第 3 課 友人を紹介する表現		24	第 7 課 読解、文法の確認			
10	第 3 課 聴き取り、会話練習		25	第 8 課 プレゼントをする／探す、数字			
11	第 3 課 読解、文法の確認		26	第 8 課 聴き取り、会話練習			
12	第 4 課 レストランでの会話表現		27	第 8 課 読解、文法の確認			
13	第 4 課 聴き取り、会話練習		28	第 9 課 予定、規則、願望などについて話す			
14	第 4 課 読解、文法の確認		29	第 9 課 聴き取り、会話練習			
15	前期の復習		30	第 9 課 読解、文法の確認			
予習内容 復習内容	予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、教科書の音声聴き、音読する。 復習：学んだ表現の音読練習をする。参考書や「ドイツ語Ⅰ」の教科書などで文法の復習をする。						
教科書	①『Spitze！ 1』（シュピッツェ！ 1）朝日出版社 ②独和辞典（「ドイツ語Ⅰ」と同じものでよい）						
成績評価	前期課題 40%、後期課題 60%程度の割合で成績評価を行う。講義内で行う小テスト等は参考程度（マイナス評価の材料にはしない）。成績評価を受けるには、前後期とも 10 回以上の出席が必要（遅刻・早退は 0.5 回の出席とみなす）。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語Ⅱ		青木 幸美	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語をはじめて学ぶ人のために作られた教科書を用います。したがって、初心者も受講可能です。教科書の表題『C'est bon! セ・ボン!』は「おいしい!」という意味で、各課の話題のテーマは「食」と、比較文化です。最小限の文法事項を理解し、最大限の実践を試みて、フランス語を味わい、文化について考えることが目的です。						
到達目標	フランス語日常会話の基本的表現を使うことができ、自然なリズムで会話をするができるようになる。フランス語のレシピを読んで実際に試作し、和食のレシピをフランス語で書いて説明できるようになる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	Leçon 0: Bonjour! 挨拶・授業の進め方		16	Leçon 6: Vous avez pris ~? ~を注文しましたか? 複合過去			
2	Leçon 0: un, deux, trois 数字		17	Leçon 6: レストランのフランス語			
3	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. ~をください。		18	Leçon 7: Il faut ~. ~が必要です。			
4	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. 名詞表現		19	Leçon 7: 「faire する」「pouvoir できる」			
5	Leçon 2: Qu'est-ce que c'est? 何ですか?		20	Leçon 8: もっと濃いコーヒーが欲しい。			
6	Leçon 2: C'est ~. ~です。		21	Leçon 8: 比較級、最上級			
7	Leçon 2: Je suis cuisinier. 私は料理人です。		22	Leçon 9: おすすめは何ですか?			
8	Leçon 3: Vous aimez ~? ~は好きですか?		23	Leçon 9: 好みの表現			
9	Leçon 3: Je n'aime pas le poisson. 魚は好きではありません。		24	Leçon 10: Écoute bien! ちゃんと聞いて!			
10	Leçon 3: 料理名のフランス語		25	Leçon 10: C'est sympa! いい!			
11	Leçon 4: Vous avez une réservation? 予約していますか?		26	Leçon 11: どれくらいかかりますか?			
12	Leçon 4: Vous avez ~? ~はありますか?		27	Leçon 11: キッチンのフランス語			
13	Leçon 5: Je vais prendre ~. ~をください。		28	Leçon 12: Je me lève tôt. 私は早く起きます。			
14	Leçon 5: Je n'ai pas très faim. あまりおなかがすいていません。		29	Leçon 12: フランス語のルセット(レシピ)を読む。和訳する。			
15	Leçon 5: 近接未来、近接過去		30	Leçon 12: 和食のレシピを仏訳する。			
予習内容 復習内容	毎回、学習した語彙や基本文の発音、聞き取りを繰り返し復習すること。授業のはじめに基本文の聞き取りをおこなうので、その準備として既習の基本文を確認し、練習しておくこと。						
教科書	黒木秀房、畠山香奈、加藤三和、Sonia Silva 『C'est bon! セ・ボン!』駿河台出版社						
成績評価	授業中におこなう聞き取り 60%、ルセットの和訳とレシピの仏訳の筆記 40%。						
実務経験							
その他 特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		盛田 健人	実習	1		4	3
授業概要 授業目的		現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。					
到達目標		目的に合わせて Word・Excel を正しく使い分けて資料を作成できる。					
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Word の基礎 (1) : 文書の見た目の整え方						
4	Word の基礎 (2) : 表の使い方						
5	Word の基礎 (3) : 図の使い方						
6	Word の基礎 (4) : レポートとしての体裁の整え方						
7	演習 (1) : Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1) : シートの見た目の整え方						
9	Excel の基礎 (2) : 数式・関数の使い方						
10	Excel の基礎 (3) : グラフの使い方						
11	Excel の基礎 (4) : データベースの使い方						
12	演習 (2) : Excel のまとめ						
13	Word と Excel の連携						
14	資料を作る際の心構え						
15	演習 (3) : 総合演習						
予習内容 復習内容	予習 : 教科書の学習内容の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。 復習 : 演習時間中に終わらなかった課題に取り組み理解を深める。						
教科書	『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office 活用術』noa 出版、2019						
成績評価	課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。配点の比率は、毎回の課題あわせて 40%、演習はそれぞれ 20% である。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3 回以上となった場合は成績評価を不可とする。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		松下 真也	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などではコンピュータを用いた資料・書類作成が頻繁に行われている。この実習では、資料・書類作成で頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) および office ソフト (Word, Excel) を対象とした各課題をこなし、コンピュータの基本操作の習得をめざす。また、PowerPoint を題材にして図表・グラフの正確さや見やすさを学習し、「わかりやすい資料」への意識を養う。						
到達目標	1 コンピュータの基本操作を身につける。 2 office ソフトを用いて資料・書類作成ができる。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作、プレゼンテーションの基本 (PowerPoint)						
3	Word の基礎 1 基本操作の確認						
4	Word の基礎 2 表の作成						
5	Word の基礎 3 図形の挿入・編集						
6	Word の基礎 4 スタイルの適用 PowerPoint の基礎 プレゼン資料作成時の心構え						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 1 基本操作の確認とグラフ作成、誤解を招きやすい図表・グラフ (PowerPoint)						
9	Excel の基礎 2 関数の設定						
10	Excel の基礎 3 データベースの活用①						
11	Excel の基礎 4 データベースの活用②						
12	演習 Excel のまとめ						
13	Word と Excel の活用						
14	資料・書類作成時の心構え						
15	最終課題 Word, Excel のまとめ						
予習内容 復習内容	予習：事前に教科書を読み、不明な用語・操作方法は調べておくこと。 復習：課題提出後、教科書の練習問題や発展問題に取り組むこと。						
教科書	「リファレンス動画付き！実戦ドリルで学ぶ office 活用術 演習問題全 173 題」 Noa 出版, 2019/2/22, 商品コード 1522						
成績評価	成績は、課題・演習・最終課題の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が 3 回以上の場合は成績を不可とする。 配点：課題 30%、演習 30%、最終課題 40%						
実務経験							
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本などを読むだけでは習得が困難である。したがって、この授業では実習に参加して、課題をこなすことに評価の主眼がある。受講の際には、この点に留意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		眞田 耕輔	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel, PowerPoint) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作および情報リテラシーに対する習得することをめざす。						
到達目標	情報リテラシーおよびコンピュータ基本操作を理解したうえで、Word、Excel、PowerPoint の基本ソフトウェアを使用して、資料作成およびプレゼンテーションができること。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作,						
3	Word の基礎 (1): 基本操作						
4	Word の基礎 (2): 表の作成						
5	Word の基礎 (3): 図の挿入						
6	Word の基礎 (4): Word を用いたレポート作成						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1): 基本操作						
9	Excel の基礎 (2): 関数の使い方						
10	Excel の基礎 (3): 図の作成						
11	Excel の基礎 (4): データベース						
12	演習 Excel のまとめ						
13	Excel 演習の復習, Power Point 実習 (プレゼンテーションスライド作成)						
14	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (1): 発表 1 日程						
15	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (2): 発表 2 日程						
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。毎回の演習課題を取り組みながら講義内容の復習をすること。						
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2019 対応』noa 出版、2019 ISBN978-4908434341						
成績評価	成績は、課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・プレゼンテーション実習) の結果を総合して判定する。なお、最終回の講義の時点で課題の未提出が 3 個以上の場合は成績を不可とする。配点は、word、Excel、プレゼンテーションの 3 回の演習 (各回 30% 程度) の合計点で評価する。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	第 14 回、第 15 回ではプレゼンテーション演習を行う。第 13 回で発表用スライドを Power Point で作成し、第 14 回、第 15 回では 2 週にわたって発表演習と受講者間での発表評価採点を行う。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		高瀬 治彦	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。						
到達目標	Microsoft のオフィスソフトを用いて、レポート・プレゼンテーション資料等を、作成できるようになる。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Word の基礎 (1)						
4	Word の基礎 (2)						
5	Word の基礎 (3)						
6	Word の基礎 (4)						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1)						
9	Excel の基礎 (2)						
10	Excel の基礎 (3)						
11	Excel の基礎 (4)						
12	演習 Excel のまとめ						
13	Word と Excel の連携						
14	資料を作る際の心構え						
15	総合演習						
予習内容 復習内容	予習：教科書の関連範囲を事前に読んでおくこと。 復習：実習で取り上げなかった教科書の演習課題に取り組むこと。						
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版, 2019 ISBN978-4-908434-34-1						
成績評価	成績は、各回の課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。それぞれ、指示の達成状況 (正確さ)・提出までの時間 (速さ) を主に評価する。配点の比率は、課題あわせて 40 点程度、演習はそれぞれ 20 点程度である。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習Ⅱ		笠 浩一郎	実習	1		4	3
授業概要 授業目的		現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excel を用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。					
到達目標		問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容						
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作						
2	Excel の基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）						
3	Excel の応用 1（統計的な関数、プルダウンメニュー）						
4	Excel の応用 2（情報の可視化、グラフの作成方法）						
5	Excel の応用 3（相関分析、CORREL 関数、オープンデータ）						
6	Excel の応用 4（データによる予測、e-Stat）						
7	Excel の応用 5（データベース、クロス集計、ピボットテーブル）						
8	中間課題						
9	RESAS の基本操作 1（RESAS を用いたデータ収集）						
10	RESAS の基本操作 2（RESAS を用いたデータ分析）						
11	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、分析の模式図の作成）						
12	最終課題の作成 2（分析の模式図の修正と発表資料の作成）						
13	最終課題の作成 3（発表資料の作成）						
14	最終課題の発表						
15	最終課題の発表と本講義のまとめ						
予習内容 復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。						
教科書	適宜資料を配布する。						
成績評価	小課題（30%）、中間課題（20%）、最終課題（50%）						
実務経験	なし						
その他 特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報と社会		笠 浩一朗	講義	2		4	4, 5
授業概要 授業目的	講義は、以下の三つの内容で構成されている。一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ICT の発達により誰もが簡単に情報を取得・発信できる社会になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷などの新たな問題が発生している。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすための方法を解説する。二つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。三つ目は、人工知能（AI）に関することである。近年、AI を活用したシステムを身近に利用できる状況にあり、そのシステムの仕組みを紹介する。						
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、情報科学の進歩により社会で起きている変化						
2	インターネットの仕組みと利用におけるマナー						
3	個人情報とプライバシー、社会で活用されているデータ						
4	電子商取引						
5	知的財産権・メディアリテラシ						
6	ネットワーク不法行為、データを扱う上での留意事項						
7	情報技術とセキュリティ、データを守る上での留意事項						
8	システム開発とマネジメント						
9	システム構成と故障対策、業務改善と分析手法						
10	AI の歴史と現在システム開発とマネジメント						
11	AI 利活用の最新動向システム構成と故障対策						
12	AI 活用領域について						
13	AI 利活用のための技術						
14	AI 利活用の現場						
15	情報倫理と情報リテラシ						
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。 前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。						
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。						
成績評価	毎回の小テスト（100%）						
実務経験	なし						
その他 特記事項	なし						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
プログラミング基礎		眞田 耕輔	講義	2		4	3
授業概要 授業目的	現在、情報分野に携わる人材だけでなく、あらゆる分野を専門とする人にとって、プログラミングの技能を身につけることは必要になってきている。本講義では、Python を用いて、変数、関数、制御文（条件分岐、繰り返し）など、プログラミングの基本的な概念、記述方法を解説するとともに、プログラミングの演習を行い、実践的にも学びます。Python の基礎を修得することを本講義の目的とする。						
到達目標	基本的な問題が与えられたときに、それを解くアルゴリズムを考え、実際にプログラミングできることを到達目標とする。						
回	学習内容						
1	プログラミングとは、変数とデータ型						
2	コレクション						
3	条件分岐						
4	繰り返し						
5	関数						
6	オブジェクト						
7	モジュール						
8	中間テスト						
9	機械学習とは						
10	機械学習によるデータ分析						
11	機械学習を用いた分類						
12	機械学習を用いた回帰						
13	期末課題のテーマ決め						
14	期末課題の分析の実施						
15	期末課題の分析結果の報告						
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 授業で紹介した内容を、実際にプログラミングして復習すること。						
教科書	スッキリわかる Python 入門、インプレス、（ISBN:9784295006329）						
成績評価	中間テスト（40%）、期末課題（60%）						
実務経験							
その他 特記事項	予習、復習のために Windows または Mac の PC を所有していることが望ましい。 統計学についての基礎知識を取得済みであることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義		木野村 嘉則	講義	2		2	2
授業概要 授業目的	これまで、体育を通じて、健康や運動の重要性について学んできました。また、人々の健康志向も高まり、健康や運動に関する情報に溢れています。本科目では、運動によって人間のからだに意図的に働きかけ、構造的あるいは機能的な変化を目指すトレーニングについて扱います(この際、スポーツのトレーニング方法を参考に考えます)。適切な情報をもとに健康づくりや身体づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てることを目指します。特に、生理学的、運動学的な基礎的な知識について理解することを目指します。						
到達目標	トレーニングに関係する生理学的な知識を身につける。 体力的なトレーニングについての原則や方法を説明できる。 健康づくりや体力づくりを目指した運動プログラムについて考えることができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション、トレーニング科学の概論（体力とは何か）						
2	筋肉の構造と収縮の仕組み						
3	骨格の構造と関節の運動						
4	筋力を高めるトレーニング方法						
5	筋力トレーニングに係わる筋の特徴						
6	スピードを高める筋力トレーニングについて						
7	運動に必要なとなる身体のエネルギー						
8	無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニング						
9	持久力を高めるインターバルトレーニング						
10	トレーニングの原則						
11	体格や体力の発達						
12	トレーニング時の障害予防、加齢に伴う体力の変化						
13	体力や体格の性差、運動処方						
14	トレーニングの目標設定						
15	トレーニングの計画						
予習内容 復習内容	予習：次回講義に向けた課題に関連した情報について検索し目を通すなど。 復習：講義資料とノートの整理などを通じて基礎的な用語を理解する。						
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。						
成績評価	授業時に取り組む課題にて評価します（100%）。						
実務経験							
その他 特記事項	運動は健康に重要な役割を果たします。生活の中に運動を取り入れることを意識していくことが重要です。この講義が生涯にわたって運動を楽しんでいくきっかけになってくれたらと思います。みなさんがお互いのこれまでの経験をシェアしながら、講義で扱う知識を具体的にイメージできるようになってほしいです。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技		石川 拓次	講義	1		2	4
授業概要 授業目的		様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。					
到達目標		1 健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。（知識・理解） 2 それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。（思考・判断） 3 生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。（思考・判断）					
回	学習内容						
1	オリエンテーション・体力測定						
2	バドミントン (1) 基本的なストローク						
3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦 1						
4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦 2						
5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)						
6	バスケットボール (2) 総当たり戦 1						
7	バスケットボール (3) 総当たり戦 2						
8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール						
9	バレーボール (2) 総当たり戦 1						
10	バレーボール (3) 総当たり戦 2						
11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス						
12	卓球 (2) 総当たり戦 1						
13	ニュースポーツ (1) インディアカ						
14	ニュースポーツ (2) インディアカ						
15	体力測定						
予習内容 復習内容	授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。（毎回 90 分程度）						
教科書	指定しない						
成績評価	定期試験（筆記）は行わない。 授業への積極的態度 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	なし						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生命科学		狩野 幹人	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	生命科学（Life Science）は、21 世紀の科学技術を担う重点分野の 1 つである。2003 年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。 本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。						
到達目標	①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（科学とは？自然科学とは？生命科学とは？を中心に）						
2	細胞の構造						
3	細胞の形質、機能						
4	細胞の活動						
5	タンパク質の役割						
6	多細胞生物への展開（1）－細胞間の情報交換						
7	多細胞生物への展開（2）－体細胞分裂と DNA の複製						
8	免疫システム（1）－生体防御機構の概要						
9	免疫システム（2）－T 細胞と細胞性免疫						
10	免疫システム（3）－B 細胞と体液性免疫						
11	細胞の再生と死						
12	環境の認識、調節						
13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは						
14	生命科学と知的財産（1）－知的財産とは						
15	生命科学と知的財産（2）－生命科学の発展と知的財産の役割						
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。						
教科書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（第 4 版）、和田勝、羊土社（2020）」を教科書として用いる。また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。						
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（2 回を予定）により成績を評価する。						
実務経験	2022 年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト（文部科学省）」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。						
その他 特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自然と科学		松井 博和	講義	2		2	4、5
授業概要 授業目的	自然と科学について、いわゆる理系の人でも理解していない現象も、簡単な説明や実験で理解してもらおう。講義の間に、毎回の授業において、主として計算問題を解き、レポートとして提出してもらおう。これにより、主体的に現象理解に取り組めるようにする。私自身が体験した事象や、ニュースなど世間で注目されるものについて、科学的に説明できるものであれば、適宜授業に取り込む。						
到達目標	身近な生活の中で体験したり、利用する自然現象や科学技術を理解してもらおう。						
回	学習内容						
1	長さ、速さ、時間などの単位と定義について						
2	天体（地球と月と太陽）について						
3	天体（恒星と惑星）について						
4	機械機構（車輪など）について						
5	電気（電力量と生活）について						
6	私の研究紹介・中間試験						
7	光と色について（物理的説明）						
8	光と色について（生体的説明）						
9	音（周波数・音量・デシベル）について						
10	音（音声）について						
11	波動と量子力学について						
12	生命と遺伝について						
13	人工知能について						
14	天体（宇宙と科学）について						
15	自然と科学についてのまとめ・期末試験について						
予習内容 復習内容	予習内容：各学習内容の項目をキーワードにネットなどで簡単に調べてみる。 復習内容：講義内容に対して疑問をまとめる。						
教科書	教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。						
成績評価	毎回提出する授業内レポート計 40(=2 点*15 回+10)点満点（レポート提出が 7 回以下は成績不可とする）。中間試験 20 点、期末試験は 40 点満点。合計 100 点満点で成績評価する。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	前年度までは実施しなかった中間試験を取り入れ、間違い易い内容理解を確認し復習する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学		高橋 彩	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。						
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。						
回	学習内容						
1	心理学とはどのような学問か						
2	知覚（大きさの恒常性、錯視）						
3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）						
4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）						
5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）						
6	感情（感情の機能、ストレス）						
7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）						
8	臨床 精神的健康						
9	知能（知能検査と IQ）						
10	思考（推論、ヒューリスティックス）						
11	対人認知（印象形成、対人魅力）						
12	発達（遺伝と環境）						
13	集団 1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）						
14	集団 2（リーダーシップ、態度変容）						
15	心理学の応用						
予習内容 復習内容	予習：講義中に指示した文献を読む 復習：授業課題で分からなかった部分を調べる						
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6						
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論		古山 歩	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。						
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、生物の分類・生物多様性、生態系とそのサービス						
2	基礎的な生態学						
3	環境問題の概要						
4	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響						
5	地球温暖化Ⅱ：対策と課題						
6	再生可能エネルギーの利点と課題						
7	都市開発						
8	海洋汚染						
9	生物の乱獲・混獲						
10	捕鯨						
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響						
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題						
13	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト						
14	生物の保護・増殖事業						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。						
教科書	なし。講義にて資料を配布する。						
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60% 1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
教育学		伊東 直人	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。						
到達目標	1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション、教育の意義と本質						
2	教育の必要性と可能性						
3	社会化と学校教育の位置・役割						
4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて						
5	国における教育政策の動向						
6	教育行政の変容						
7	教育委員会制度の見直し						
8	生涯学習体系への移行						
9	学校の経営と学校評価						
10	令和の日本型学校教育						
11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて						
12	教育の機会均等Ⅱ 不登校・いじめ問題・貧困・ヤングケアラー等子どもをめぐる課題を踏まえて						
13	学校危機管理						
14	学校における ICT 活用						
15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育						
予習内容 復習内容	最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。						
教科書	適宜資料を配布する。						
成績評価	最終レポート（40％）、小レポート・授業振り返り（40％）、授業の参加意欲・討議への参加度（20％）						
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務						
その他 特記事項	なし						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生涯学習論		長島 洋	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	*生涯学習の基礎知識を学ぶとともに、身近な問題を取りあげ、生涯学習社会の重要性を学びます。 *「いつでも、だれでも、どこでも学習することができ、その成果が活用される社会をめざす」生涯学習社会の実現にむけて生涯、学ぶことのできる方策を考え、プランニングをします。 *自分のふるさとやその他、市町村、県等をモデルに、地域の課題解決のためにどのような生涯学習プランが必要かを考察し、生涯学習プログラムを作成し、生涯学習社会の実現にむけて考えます。 *地域を見つめなおし、様々な課題解決にむけた取り組みを進めるための学習プログラム作成します						
到達目標	1 生涯学習について国の政策も交え、基礎知識を身につけ、自ら学び続けることができる。 2 モデル市町村の地域課題を把握し、課題解決に向けた学習プランを作成することができる。 3 地域の課題を解決するために、自らが、行動できる力を身につけることができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション 生涯学習とは何か 生涯学習社会の実現にむけて						
2	生涯学習の基礎 理念・考え方 日本国憲法、教育基本法 社会教育法等						
3	社会教育と生涯学習 社会教育法より 生涯学習理念の理解および、社会教育の理解						
4	まちづくりと生涯学習 課題解決にむけて人々の生涯学習とまちづくりとの関係						
5	公民館と生涯学習 地域に根差した生涯学習の拠点としての公民館の役割及び社会教育施設の役割						
6	人権学習と生涯学習 人権学習の重要性 学びをとおして 生涯学習社会の柱としての人権学習						
7	青少年教育と生涯学習 青少年をめぐる、学校と地域・家庭との連携の必要性 学社融合						
8	防災学習と生涯学習 災害を通して、防災についで地域の住民の学習の重要性と学習プログラム						
9	幸せのための生涯学習 さまざまな地域課題解決にむけて生涯学習プログラム作成のための基礎						
10	生涯学習プログラムの作成 モデル市町村の概要、特色等 調査及び理解						
11	生涯学習プログラムの作成 地域住民の生活状況・教育文化施設等の整備状況 課題等の理解						
12	生涯学習プログラムの作成 地域課題の把握・課題解決にむけた考察 プログラム作成						
13	生涯学習プログラムの作成 学習プログラムの具体的ノウハウと企画 広報 実施にむけて						
14	生涯学習プログラムの作成 予算・場所等 企画実施にまでの準備と実施 リスクマネジメント						
15	試験（プログラムの完成）と生涯学習プログラムのシェアリングおよびプレゼン PR						
予習内容 復習内容	予習 事前にモデル市町村の情報を収集すること 復習 毎回だされる課題の整理						
教科書	資料は毎回配布します。 テキストは使用しない。 参考文献については資料に提示。						
成績評価	毎回提出してもらう課題またはレポート 60% 試験（生涯学習プログラムの完成物） 40% 6回以上欠席の場合、無資格となります。						
実務経験	文部科学省生涯学習局、三重県教育委員会生涯学習課 三重県熊野少年自然の家、三重県生涯学習センター所長として勤務。長年の生涯学習分野での実務をとおして生涯学習の重要性を示します。						
その他 特記事項	様々な学びのチャンネルをとおして、自分たちが幸せに生きるために、大切な「学び」を伝え、受講者自ら企画してもらうプログラムを楽しみにしています。一緒に、学びましょう。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権		伊藤 信也	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。 2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために。随時映像資料を上映する予定です。						
到達目標	①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。						
回	学習内容						
1	授業概説：現代社会と人権						
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生						
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由						
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題						
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち						
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい						
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態						
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題						
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～						
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～						
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ						
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制						
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造						
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史						
15	21 世紀の人権問題への視点を考える						
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。						
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は 40％）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は 40％）、3. 積極的な受講姿勢（配点は 20％）						
実務経験							
その他 特記事項	歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。人権問題や差別問題に関心のある学生による積極的な授業参加と授業環境の保持を求めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ジェンダー論		松田 いりあ	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的		この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。 授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標		この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。					
回	学習内容						
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明						
2	ジェンダーとは						
3	セクシュアリティとは						
4	ジェンダーの社会化						
5	ジェンダーと子育て、教育						
6	パートナーシップ、セクシュアリティとジェンダー						
7	ジェンダーと労働						
8	ジェンダーと身体						
9	ジェンダーとスポーツ						
10	ジェンダーと空間						
11	ジェンダーに関する条約、法律						
12	「男性性」と男性学						
13	広報・広告における女性表象						
14	ファッション・メディアにおける女性表象						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。						
教科書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に伝える。						
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学		望月 秀人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的		西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思います。					
到達目標		西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス：歴史学とは						
2	大航海時代と世界の一体化						
3	宗教改革と宗派分裂						
4	宗教戦争と世俗化						
5	中世の封建制						
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ						
7	「絶対王政」の意義と限界						
8	フランス革命の勃発						
9	「市民革命」と近代国家						
10	革命とナショナリズムの時代						
11	工業化とその影響						
12	第一次世界大戦の衝撃						
13	戦後処理方法の変化						
14	大恐慌とファシズム						
15	近代という時代について						
予習内容 復習内容		予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書		テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。					
成績評価		定期試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験							
その他 特記事項		言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地理学		山崎 智博	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的		日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。					
到達目標		・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。 ・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。					
回	学習内容						
1	オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）						
2	都市・地域とは						
3	都市・地域の歴史						
4	都市・地域の結合関係						
5	都市の内部構造						
6	都市の商業・サービス業						
7	都市の工業						
8	都市のオフィス立地						
9	都市・地域の交通						
10	都市のエスニック集団						
11	大都市圏構造						
12	住宅と住居						
13	都市問題・都市計画						
14	都市を歩く						
15	地域・都市の人文地理学まとめ						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献等に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。						
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	1回の授業で1つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学		吉本 陵	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。						
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。 上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス&イントロダクション						
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論						
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味						
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて						
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について						
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について						
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則						
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状						
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想						
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について						
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について						
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題						
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状						
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題						
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？						
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りを行うこと。						
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。						
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅰ		今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的		この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。					
到達目標		①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）						
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕						
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕						
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕						
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕						
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕						
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕						
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕						
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』						
10	シェリー『フランケンシュタイン』①						
11	シェリー『フランケンシュタイン』②						
12	シェリー『フランケンシュタイン』③						
13	メリメ『カルメン』						
14	デュマ・フィス『椿姫』①						
15	デュマ・フィス『椿姫』②						
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。						
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。						
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。						
実務経験							
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ		今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。						
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）						
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部						
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部						
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』						
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半						
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半						
7	ゲーテ『魔王』						
8	グリム童話						
9	シャミッソー『影をなくした男』						
10	ホフマン『砂男』						
11	シュピーリ『ハイジ』①						
12	シュピーリ『ハイジ』②						
13	カフカ『変身』						
14	シュリンク『朗読者』第1部						
15	シュリンク『朗読者』第2、3部						
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。						
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。						
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。						
実務経験							
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
美学		岡野 智子	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学などとも深い関わりをもつ。 本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。						
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表し、その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う事ができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション・日本美術の成立 1（縄文～平安）						
2	日本美術の成立 2（平安～桃山）						
3	日本美術の成立 3（江戸）						
4	吉祥の意匠―福を招く図様―						
5	桜の意匠―桜への想いとその表象―						
6	涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―						
7	秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―						
8	冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―						
9	月次絵の楽しみ 1―年中行事と景物―						
10	月次絵の楽しみ 2―花鳥と風俗―						
11	伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―						
12	源氏物語の意匠―留守模様に遊ぶ―						
13	動物の意匠―霊獣からペットまで―						
14	渡来の意匠と表現 1―憧れの南蛮ファッション―						
15	渡来の意匠と表現 2―西洋画風の影響―						
予習内容 復習内容	各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを推奨する（現況では感染防止策を十分に講じて実施すること）。						
教科書	教科書は使用しない。資料を毎回配布。参考文献は初回の講義でリストを配布。						
成績評価	①授業時に出席時に提出するコメント内容 50% ②展覧会等の見学レポート内容 20% ③期末レポート内容 30%（②については感染状況により比率を③と調整することがある）						
実務経験							
その他 特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中からコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として 10 回以上の者のみ③の提出資格が得られる。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論		嶋田 宏司	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。 芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。						
到達目標	西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。 美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。						
回	学習内容						
1	フランスにおける、レアリズムから印象主義まで						
2	ギュスターヴ・クールベ						
3	バルビゾン派 1						
4	バルビゾン派 2						
5	印象主義とクロード・モネ						
6	印象主義の展開と技術的、および理論的側面						
7	黒田清輝、久米桂一郎						
8	藤島武二						
9	青木繁						
10	梅原龍三郎						
11	梅原龍三郎、安井曾太郎とフォーヴィスム						
12	安井曾太郎						
13	萬鉄五郎						
14	萬鉄五郎とキュビズム						
15	学んできた美術史を振り返る						
予習内容 復習内容	予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもみるのも良いですが、『そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019 年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。						
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。						
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外とします。						
実務経験							
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域史		山崎 智博	講義	2		3	4, 5
授業概要 授業目的	三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけるようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。						
到達目標	・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。 ・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。						
回	学習内容						
1	三重県の近現代（オリエンテーション）						
2	明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行						
3	明治の三重：鉄道の開設と三重						
4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化						
5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重						
6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合						
7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争						
8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画						
9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画						
10	戦後復興期の三重：復興期の交通						
11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街						
12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展						
13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通						
14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光						
15	三重県の近現代史まとめ						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。						
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。 ・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自治体行政特論		石原 洋介	講義	2		3	5
授業概要 授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することで理解が深まる。						
到達目標	現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深められる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）						
2	津市の政策について（政策財務部）						
3	財政について（政策財務部）						
4	津市の福祉について（健康福祉部）						
5	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）						
6	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）						
7	津市の教育について（教育委員会事務局）						
8	都市計画について（都市計画部）						
9	環境行政について（環境部）						
10	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて						
11	津市議会傍聴【12月】※津市議会 HP の映像配信の市長						
12	津市シティプロモーション（広報課）						
13	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）						
14	参加と協働のまちづくりについて（市民部）						
15	自治体経営（市長）						
予習内容 復習内容	予習：各講義内容について津市 HP 等を活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。						
教科書	教科書・参考文献の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。						
成績評価	出席時の講義ノート（60％）、議会傍聴レポート（40％）を併せて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外とする。						
実務経験	講師は、現職の津市長をはじめ各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かし、実践的な自治体基礎知識の養成に努める。						
その他 特記事項	毎回、講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート（A4 判）」を提出する。 12 月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート（A4 判）」を提出する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
キャリア形成セミナー		南 有哲	講義	2		2, 3	3, 5
授業概要 授業目的		・ 職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。 ・ 本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます（講師は毎回変わります）。 ・ 具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。					
到達目標		全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。 毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。					
回	学習内容						
1	ガイダンス（学生部長）／就職活動と目標設定						
2	起業について						
3	ハラスメントと職場環境						
4	企業から求められる人材とは						
5	地域貢献を仕事にする						
6	変化の激しい時代にやるべきこと						
7	地域を知る、地域で働く						
8	ライフプランと金融リテラシー						
9	ポジティブ心理学と SDGs						
10	税を知る						
11	防災とまちづくりに関わる						
12	中小企業と信用保証協会の役割						
13	公的年金制度を学ぶ						
14	労働関連の法律を知る						
15	まとめレポートの作成						
予習内容 復習内容		事前にお知らせする各講師のテーマについて調べ、各回を終えた後に考察メモを復習してください。					
教科書		テキストは使用しない。毎回、各講師より配布されるレジュメ・資料を使用します。					
成績評価		出席状況や毎回の小レポート、最終レポートの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。5回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします。					
実務経験		津市長、労働局職員、社会保険労務士をはじめとする各分野の専門職の方々がそれぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などをお話しします。					
その他 特記事項		2024 年 4 月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 <u>1 年生の履修を原則とします。</u>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目 I	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大 2 科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。 ②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。 ③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください ②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。 ③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は 2 科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の 2 科目とは別に履修可）。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目Ⅱ	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。 ②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。 ③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください ②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。 ③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
農林体験セミナー		石原 洋介	実習	2		2, 3	4, 5
授業概要 授業目的	①農場コース（土は生きている） ・土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。 ・2024年8月28日（水）～8月30日（金）の3日間、農場で実施予定（宿泊） ②演習林コース（森は生きている） ・流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、平倉演習林（津市美杉町）において3日間の実地演習、講義を実施する。 ・2024年9月18日（水）～9月20日（金）の3日間、演習林で実施予定（宿泊）						
	①農場コース（土は生きている） ・土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。 ②演習林コース（森は生きている） ・森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。 ・演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。						
学習 内容	①農場コース（土は生きている） (1)授業の概要説明、(2)三重の特産農産物の概要、(3)ダイズの栽培管理、(4)世界と日本の食糧事情、(5)イネの収穫、(6)肉牛（松阪牛）の肥育管理、(7)豆腐作り、(8)食の安全・安心と社会、(9)茶（伊勢茶）の加工Ⅰ（茶の栽培、歴史、加工の原理など）、(10)茶（伊勢茶）の加工Ⅱ（茶の加工の実践）、(11)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅰ（一年を通じたウンシュウミカンの栽培管理の概要）、(12)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅱ（摘果、水管理など栽培管理の実践）、(13)うどん作り（うどん作りの歴史、加工の原理など）、(14)うどん作りⅡ（うどん作りの実践）、(15)授業の総括 ②演習林コース（森は生きている） (1)～(5)（1日目）演習林の概要、宿舎利用に関する注意事項の説明、森林の多面的機能についての林内学習、天然生林・二次林の林分構造と植生観察、紀伊半島暖温帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える、人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学、(6)～(10)（2日目）日本の森林・林業の課題解説、身近な木製品とトレーサビリティについて調べる、林業体験：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り、林産加工：コースター加工、丸太ベンチ製作、(11)～(15)（3日目）環境学習：涼しい森林溪流環境での散歩学習とふりかえり、レポート作成、ディスカッション、最終レポート作成、帰路：木材市場などを経由し帰学。 ※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林と周辺地域が学習対象です。以下を見ておくことをお勧めします。(1)三浦しをん著「神去なあなあ日常」(2)映画「WOODJOB!」のDVDまたはBD。						
	①農場コース（土は生きている） 事前：moodleに授業で使用する資料を予め載せておくので予習しておく。 事後：授業項目で課される課題について、授業内容を基に授業で使った資料に加え、関連事象を自分で調査するなど復習しておく。 ②演習林コース（森は生きている） 事前：森林・林業林産業・環境保全に関する話題や時事問題について調べておく、具体的なテーマ・キーワードを事前に示すので課題に沿った予習を行い各自プレゼンができる準備をしておく。 事後：授業項目で示される課題について、講義・実習の学習内容をふまえて最終レポートにまとめること。						
教科書		必要に応じて資料を配布する。					
成績評価		①農場コース：レポートならびに授業態度を総合判断する。 ②演習林コース：演習への取り組み態度 50%、レポート 50%。					
実務経験							
その他 特記事項		・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林で講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースの同時受講はできません。 ・希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。 ・受講生は事前に開催するガイダンスに参加すること（日程は決まり次第掲示します）。 ・受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食と観光実践		石原 洋介	実習	2		2, 3	4, 5
授業概要 授業目的	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
学習内容	10月上旬 「ガイダンス」 13：00－14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10－15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20－17：00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00－15：30 展示見学・講義 15：40－17：00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00－12：00 施設見学・体験 12：00－13：00 昼食・移動 13：00－14：00 農を活かした観光開発 14：10－16：10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00－16：10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13：00－17：00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00－16：00 成果発表会 16：00－17：00 講評・まとめ ※受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
予習内容 復習内容	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
成績評価	①グループワーク等への取組姿勢 60%、②成果発表レポート 40% ※一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
実務経験	行政での委員経験があります。講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
その他 特記事項	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
次世代産業実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	4, 5
授業概要 授業目的	近年、社会のデジタル化が著しく発展しており、社会変革の転換点となっている。様々なデジタルツールが、個人でかつ無料で提供され、時間や労力のかかっていた知的生産物は苦勞することなく瞬時に生み出せるようになってきた。しかしながら、一方ではこのデジタル化の変化に適応できなければ、社会で必要とされる能力を獲得できない可能性が高い。そのような変革期において、最先端のデジタル技術に触れ、それらを実践的に利用することで、今後ますます加速する情報化社会の変貌に対し次世代を担う三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力を学ぶ。					
到達目標	現在、利用可能なデジタルツールについて知り、それらを扱えるスキルを身につけることで、地域や組織へのアプローチを考えソリューションを導き実行できる力を獲得する。過去の産業構造から、現在、未来へ進化する産業・社会を見通し、常に時代の流れを読むと同時に、膨大な労力や時間を要する課題に対し、これらのツールとスキルを用いて、少ない人材で解決する可能性を提示する人材となる。本科目では三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、これらのツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行う。					
学習内容	●本講義 Day1 ・デジタル技術の発展と、デジタルがもたらす産業の変革 三重大学 三橋氏 ・CeMDS の案内と説明 三重大学 若林氏 ・各ソフトウェアの説明 ●本講義 Day2 ハードウェア #3D プリンター #ドローン #VR #メタバース ・3D プリンターを用いたモノづくりと立体造形物の試作 ・ドローンにおける技術と産業への応用事例について ・現実社会とデジタル社会の境界線をなくす VR・AR 技術 ・グループワークと立体造形物の確認 ●本講義 Day3 ソフトウェア #動画編集 #アバター #CG #VFX ・adobe 製品のソフトウェアについて ・3D グラフィックの制作 ・アバター制作 ・動画編集 ●本講義 Day4 三重県の産業への応用と実践 ・三重県内の伝統産業と次世代産業について 四日市市文化まちづくり財団 西浦氏 ・グループワーク ・ハードウェアもしくはソフトウェアの産業への応用実践 ・グループでの発表と質疑応答					
予習内容 復習内容	本講義までに、デジタル技術を利用した技術革新（XR）について 800 字以内でレポート作成し提出する。					
教科書	なし。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う講義・グループワーク等に参加する。後期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医療・健康・福祉実践		石原 洋介	実習	2		2, 3	4, 5
授業概要 授業目的	当授業は三重県の重点課題である医療・健康・福祉に関して、名張市をフィールドとし、現場で学ぶ PBL 型授業である。地域共生型社会で取組を続ける地域住民の健康や QOL について、そのコミュニティに参加することで、医療・健康・福祉に関わる地域内のステークホルダーの取組、及びそれら各領域の横断的取組について理解を深める。医療、福祉、健康を目的とした各種取組を知ることで、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。						
到達目標	三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目では、3～4 人のグループワーク及びフィールドワークを通して得た情報から地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについてのデータの統合・深い分析・考察を加え、得られた成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。受講生一人一人が個々で可能な社会貢献を考え実践する主体性を獲得し、異なる立場の間に立って円滑にコミュニケーションが取れる力を身につける。						
学習内容	●現地学習 Day1 #地域医療と包括ケア 名張市 ・ガイダンスと名張市の現状 まちの保健室について 名張市 柴垣様 ・まちの保健室見学とフィールドワーク ・名張市立病院での見学と講義 三重大学医学部附属病院 山本先生 ●現地学習 Day2 #健康長寿への取組 名張市 ・三重県の医療・健康・福祉について 鈴鹿医療科学大学 河尻先生 ・赤目地域の取組について ・フィールドワーク ・フィールドワークのデータ整理 ●現地学習 Day3 #中山間地域の医療 #地域間コミュニティが行う健康づくり 名張市 ・地域をつなぐ、心の健康とケアができる場所づくり 一般社団法人つなぐ 北森氏 ・名張市旧市街地見学とフィールドワーク ・グループワーク及びフィードバック ●まとめ学習 Day4 グループワーク及び最終発表 三重大学 ・フィールドで得たデータのまとめ、感想のフィードバック ・プレゼン資料と原稿作成 ・発表と質疑応答 《注意》現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては変更の可能性もある						
予習内容 復習内容	事後レポート及び、最終課題の提出						
教科書	なし						
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%						
実務経験							
その他 特記事項	・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う現地実習・グループワーク等に参加する。前期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。 ・学生教育研究賠償責任保険に必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある（詳細は後日連絡）。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法 I		鎌塚 有貴	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		本講義では、憲法における人権分野を扱う。 日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。 憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。					
到達目標		日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようになること。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス：授業評価、進行について			16	集会の自由：判例		
2	国家とは			17	結社の自由		
3	憲法の成立			18	報道の自由		
4	明治憲法と日本国憲法			19	出版の自由		
5	人権享有主体			20	人身の自由、適正手続		
6	幸福追求権			21	被疑者・被告人の権利		
7	人格権、自己決定権			22	再審・死刑制度		
8	私人間効力：学説			23	学問の自由・大学の自治		
9	私人間効力：判例			24	教育を受ける権利		
10	法の下での平等：学説			25	勤労の義務・権利		
11	法の下での平等：判例			26	職業選択の自由、営業の自由		
12	思想良心の自由			27	財産権		
13	信教の自由：学説			28	婚姻に関する権利：学説		
14	信教の自由：判例			29	婚姻に関する権利：判例		
15	集会の自由：学説			30	まとめ（課題講評など）		
予習内容 復習内容		新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書		加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。					
成績評価		期末試験 100%。					
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法Ⅱ		鎌塚 有貴	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、憲法における統治分野を扱う。 日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。 憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。						
到達目標	日本国憲法における統治機構の役割・権能について理解すること。特に、国家と国民の関係や、立憲主義にもとづく統治によって人権保障が実現できるという構造を日常のニュース等と関連付けることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：授業評価、進捗について						
2	選挙権・選挙制度						
3	国会の権能						
4	国政調査権						
5	行政権・議院内閣制						
6	司法権・裁判所						
7	司法権の独立						
8	違憲審査制：制度						
9	違憲審査制：審査基準						
10	政教分離						
11	財政						
12	地方自治						
13	平和主義						
14	憲法改正						
15	まとめ（講評など）						
予習内容 復習内容	新聞記事やニュースに目を通しておくこと。						
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。						
成績評価	期末試験 100%。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	なし						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法Ⅰ		照井 遥瑛	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		民法は、人と人との生活関係（ゲームやパソコンを買う、アパートを借りる等）と身分関係（結婚をする、離婚をする、相続をする等）に関する基本的ルールを定めている法律です。この授業では、民法についての全体像の概説をした上で、民法総則、物権法、担保物権法を取り扱います。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や判例・学説を解説します。					
到達目標		①民法総則、物権法、担保物権法の基礎的知識を身に付け、自分なりに説明できる。 ②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、民法の構造			16	時効③：消滅時効		
2	民法の基本原則			17	物権とは、物権の種類		
3	権利能力、意思能力			18	物権的請求権		
4	行為能力、制限行為能力者			19	物権変動、対抗要件、公示の原則、公信の原則		
5	意思表示とは、法律行為とは			20	不動産物権変動①：取消しと登記、時効と登記		
6	意思表示①：心裡留保			21	不動産物権変動②：民法 177 条の「第三者」		
7	意思表示②：虚偽表示			22	動産物権変動：対抗要件、即時取得		
8	意思表示③：錯誤			23	占有権		
9	意思表示④：詐欺・強迫			24	所有権		
10	無効・取消し、強行規定・任意規定、公序良俗			25	地上権、地役権		
11	代理①：代理とは			26	抵当権①：担保物権の性質、物上代位制度ほか		
12	代理②：表見代理			27	抵当権②：抵当権と第三取得者、法定地上権ほか		
13	代理③：無権代理			28	質権、留置権、先取特権		
14	時効①：時効とは、条件・期限			29	譲渡担保		
15	時効②：取得時効			30	まとめ		
予習内容 復習内容		予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。 復習：教科書、自作ノート、授業資料を再確認し、授業内容に対する理解を深めること。					
教科書		生田敏康ほか『民法入門』（法律文化社、第2版、2021年） 最新年度版の小型六法（「ポケット六法」や「デイリー六法」など） 授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にオンライン上で配布します。					
成績評価		出席時に提出するレポート内容（50％）、期末試験（50％）で成績評価を行います。成績評価方法の詳細は初回講義の時に説明します。					
実務経験							
その他 特記事項		小型六法は最新年度版のものを必ず持参してきてください。民法Ⅰは、抽象的な条文を多く扱うため、これから民法を学ぼうとする皆さんにとって最初のハードルとなると思いますが、この講義で修得した知識が今後履修する民法各科目の基礎となりますので、焦らず・諦めずに予習・復習に努めることが肝心です。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法Ⅱ		照井 遥瑛	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この授業では、民法のうち、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分を取り扱います。「債権」という言葉は聞き慣れないかもしれませんが、スーパーでお買い物をするとき、他人からお金を借りるときなど、私たちの日常生活には常に何らかの債権が発生しています。この授業を通して、民法は日常生活に密接に関わっているというイメージをさらに深めてほしいと思います。債権総論は抽象的な条文が多いので、初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や学説・判例を解説します。						
到達目標	①債権総論の基本的な概念、重要な条文、主要な法的問題についての知識を身に付け、説明できる。 ②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、債権と債権法、債権総論とは						
2	債権の目的・種類						
3	債務不履行とは、履行の強制						
4	債務不履行による損害賠償の要件						
5	債務不履行による損害賠償の効果①：損害賠償の範囲ほか						
6	債務不履行による損害賠償の効果②：賠償額算定の基準時ほか						
7	債権者代位権						
8	詐害行為取消権						
9	連帯債務						
10	保証債務、連帯保証						
11	債権譲渡						
12	債務引受						
13	弁済						
14	相殺						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。 復習：教科書、自作ノート、授業資料を再確認し、授業内容に対する理解を深めること。						
教科書	生田敏康ほか『民法入門』（法律文化社、第2版、2021年） 最新年度版の小型六法（「ポケット六法」や「デイリー六法」など） 授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にオンライン上で配布します。						
成績評価	出席時に提出するレポート内容（40%）、期末試験（60%）で成績評価を行います。成績評価方法の詳細は初回講義の時に説明します。						
実務経験							
その他 特記事項	小型六法は最新年度版のものを必ず持参してきてください。予習の段階では理解しにくいテーマが多いと思いますので、復習を丁寧に、かつ時間を掛けて行うようにして下さい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
家族法		木村 義和	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		「あなたにとって大切な者は何ですか？」と尋ねられた時、多くの人が答えるものの一つが「家族」です。この家族の関係についての基本的なルールを理解することが本講義の目的です。本講義では、家族法の重要な制度を重点的に解説します。					
到達目標		家族法の重要な制度を理解し、基礎知識が修得できる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	家族法の意義と親族		16	相続法序論			
2	婚姻の成立		17	相続回復請求権			
3	婚約・結納・内縁		18	相続欠格			
4	婚姻の一般的効果		19	相続人の廃除			
5	婚姻の財産的効果		20	相続分			
6	離婚の手続き		21	特別受益			
7	離婚の有責主義と破綻主義		22	寄与分			
8	離婚の効果（財産分与）		23	遺産の範囲			
9	離婚の効果（子をめぐると問題）		24	遺産の分割方法			
10	嫡出子		25	相続の承認			
11	非嫡出子		26	相続の放棄			
12	普通養子		27	遺言の方式			
13	特別養子		28	遺言の無効・取消			
14	親権		29	遺贈			
15	扶養		30	遺留分			
予習内容 復習内容		予習：レジュメを見ながらテキストの該当箇所を読む。 復習：ノートを見ながら授業内容を整理し、理解する。					
教科書		床谷文雄・神谷遊・稲垣朋子・且井佑佳・幡野弘樹『新プリメール民法5 家族法』（法律文化社）					
成績評価		各回に行う小テスト60%＋試験40%で評価する。 小テストは各回の授業の最後に行う。					
実務経験							
その他 特記事項		熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会社法		名島 利喜	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		会社の組織と行動に関する基本的なルールを定めている会社法全般について概説を行う。 会社の多くは株式会社形態を採用しているので、株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。 したがって、株式会社法にほぼ限定しながら、法律制度としての「株式会社」に関する基礎知識を提供することを目的とする。					
到達目標		①会社法の諸制度の趣旨や内容を的確に理解できる。 ②会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを説明できる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション・会社の起源			16	株式会社の機関構造		
2	会社と会社法			17	株主総会の意義・実態・権限		
3	会社―その実態と法律上の定義			18	株主総会の招集・運営		
4	会社の権利能力とその制限			19	株主総会決議の瑕疵		
5	法人格否認の法理			20	取締役の資格・選任・任期		
6	資本金制度と会社債権者保護			21	取締役会の意義・権限・決議		
7	株式の意義と株主の権利義務			22	代表取締役の意義・権限・解職		
8	株式会社の設立：意義・手続の概要			23	取締役の義務と報酬等		
9	株式会社の設立：法規制			24	取締役の法的責任		
10	株式の譲渡自由の原則（自由譲渡性）			25	株主代表訴訟＝株主による責任の追及		
11	公開会社と株式の公開			26	監査役・監査役会・会計監査人		
12	株式の譲渡制限			27	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社		
13	自己の株式の取得			28	株式会社の資金調達に関する規律		
14	親子会社関係・株式相互保有			29	組織再編・組織変更		
15	中間テストおよび試験終了後に前半のまとめ			30	総括：コーポレート・ガバナンス		
予習内容 復習内容		予習：予め指示された箇所の条文をゆっくり読んでみること。 復習：講義内容を思い浮かべながら、もう一度ゆっくり条文を読み返すこと。					
教科書		最新版の六法（小型のものでよい）。参考文献は必要に応じて紹介します。					
成績評価		中間テスト 40%、期末試験 60%、合計 100%					
実務経験							
その他 特記事項		日本経済新聞等に目を通したりして、日本の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
商法総則・商行為		楠井 嘉行	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		商法総則・商行為に関する商法の規定と民法の規定との違いや企業取引実務を中心に学習する。商業登記簿や商業帳簿、企業取引に関する各種書式等を用いて平易に解説したい。企業取引実務に関するビデオ等を見て、知識をより深いものにする。 商法に規定される商法総則・商行為の内容、民法との違いや各規定が具体的に適用される場面について学習しつつ、企業取引の具体的な実務を学習する。					
到達目標		① 商法総則・商行為に関する基本的知識を修得する。 ② 企業取引実務に関する知識を深める。 ③ 社会人となって有用と思われる企業取引実務を身につける。					
回	学習内容						
1	商法とは						
2	商法総則総論						
3	商業登記						
4	商号、商業帳簿						
5	補助者						
6	営業譲渡、商行為法総則①						
7	商行為法総則②						
8	商事売買、交互計算						
9	匿名組合、問屋営業						
10	仲立営業						
11	運送営業						
12	運送取扱営業、倉庫営業、場屋営業						
13	保険法						
14	手形・小切手、電子記録債権						
15	消費者法						
予習内容 復習内容	予習：講義中に紹介する参考書に目を通す。 復習：講義資料やノートを読み返す。						
教科書	第 1 1 版 現代商法入門 有斐閣 近藤光男（編）						
成績評価	レポートによる評価の予定。単位を心配せず授業をよく聞いて学習されたい。 出席 3 0 %、レポート課題 7 0 %で評価したい。						
実務経験	昭和 6 0 年 4 月三重弁護士会 弁護士登録。三重県信用組合金融整理管財人や金融機関の法律顧問等の経験を生かしてお話しします。						
その他 特記事項	企業取引で使われる書式のほか、実務に関連したビデオもできるだけ多く見て頂く予定ある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑法		柏崎 早陽子	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		刑法は「犯罪」と「刑罰」について定めた法律です。刑法を特徴づける「刑罰」は、究極的には人の生命を奪うものです。このことから、他の法律と比べても刑法・刑罰は厳しい法律・過酷な制裁であると言われています。では、「刑罰」はどのような場合に科されるのか？それを知るためには、どのような場合に「犯罪」が成立するかを理解しなければなりません。本講義では「犯罪」の成立に関わる様々な要素について、具体的な事例を用いながら説明します。					
到達目標		・刑法の基本原理や基本的な概念を説明することができる。 ・学説や判例を理解し、説明することができる。 ・問題をどのように解決に導くか、自分の考えを論理的に説明することができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	刑法（刑事法）の基礎知識			16	正当行為、被害者の同意		
2	刑法の意義と目的			17	有責性－犯罪成立の第3段階－		
3	刑罰の目的、刑罰の種類、謙抑主義			18	責任能力、原因において自由な行為、期待可能性		
4	罪刑法定主義			19	錯誤①：具体的事実の錯誤		
5	罪刑法定主義の派生原理			20	錯誤②：抽象的事実の錯誤		
6	犯罪論の体系			21	錯誤③：違法性の錯誤		
7	構成要件論－犯罪成立のための第1段階－			22	未遂犯・不能犯		
8	因果関係論			23	中止犯		
9	作為および不作為			24	共犯論①：共犯の基礎、教唆犯・幫助犯		
10	故意			25	共犯論②：共同正犯		
11	過失			26	共犯論③：間接正犯		
12	違法性論－犯罪成立のための第2段階－			27	共犯の諸問題①：片面的共犯・承継的共犯		
13	正当防衛			28	共犯の諸問題②：共犯関係からの離脱		
14	過剰防衛			29	罪数論		
15	緊急避難			30	学習内容の総まとめ		
予習内容 復習内容	【予習】教科書や配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。【復習】教科書、配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。						
教科書	教科書として、小島秀夫編『刑法総論－理論と実践』（法律文化社、2022年）を指定する。その他、授業内容に応じて、授業内で適宜紹介する。						
成績評価	①定期試験（60％）＋②小テスト（40％）【評価基準】i）自分の言葉で、ii）語句等を適切に理解して使用し、iii）問題点を的確に示し、iv）学説や判例の立場を踏まえながら私見を論理的に説明している。以上のi）～iv）の到達度を、上記①・②において総合的に判断して成績評価を行う。						
実務経験							
その他 特記事項	「刑事政策」も受講することが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政法		古畑 淳	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	私たちの生活は行政と密接にかかわっている。子どもや高齢者が安心して生活できるように、また、地域で暮らす私たちがよりよい環境で安心して生活できるように、行政は様々な活動を行っている。行政法はそうした行政の活動についてのルールと、行政の活動により市民の権利等が侵害された場合は是正と賠償のルールなどを定めた法である。 授業では、身近な生活問題に即して、私たちと行政との関わり、行政の様々な活動の形式、行政の活動の是正を求める手段、そして、違法な行政活動により生じた損害についてその賠償を求める仕組みなどを学ぶ。						
到達目標	1) 法律による行政の原理と行政上の一般原則について理解できる。 2) 行政の様々な活動の形式と活動の統制の仕組みについて理解できる。 3) 行政の活動の是正を求める手段と違法な行政活動により生じた損害の賠償を求める仕組み、また損失補償の仕組みを理解できる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	行政法への招待		16	行政事件訴訟を学ぶ① 行政事件訴訟の全体像			
2	行政組織について学ぶ		17	行政事件訴訟を学ぶ② 取消訴訟の対象			
3	法律による行政の原理を学ぶ		18	行政事件訴訟を学ぶ③ 取消訴訟の原告適格と訴えの利益			
4	行政上の一般原則を学ぶ① 平等原則、比例原則、信頼保護原則等		19	行政事件訴訟を学ぶ④ 取消訴訟の審理と判決			
5	行政上の一般原則を学ぶ② 透明性原則 説明責任原則		20	行政事件訴訟を学ぶ⑤ 取消訴訟における仮の救済			
6	行政行為（行政処分）を学ぶ① 行政行為の意義、種類		21	行政事件訴訟を学ぶ⑥ 取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）			
7	行政行為（行政処分）を学ぶ② 行政行為の効力、職権による取消しと撤回		22	行政事件訴訟を学ぶ⑦ 抗告訴訟以外の行政事件訴訟（当事者訴訟等）			
8	行政手続を学ぶ① 申請に対する処分手続		23	行政上の不服申立てを学ぶ① 不服審査の仕組みと組織			
9	行政手続を学ぶ② 不利益処分の手続、手続的瑕疵の効果		24	行政上の不服申立てを学ぶ② 不服申立ての審理と裁決			
10	行政基準を学ぶ		25	行政上の不服申立てを学ぶ③ 行政不服審査会の答申を読む			
11	行政計画を学ぶ		26	国家賠償を学ぶ① 公権力の行使に関する賠償			
12	行政指導を学ぶ		27	国家賠償を学ぶ② 行政の危険防止責任			
13	事実行為を学ぶ		28	国家賠償を学ぶ③ 営造物の瑕疵に関する賠償			
14	行政上の義務の実効性確保を学ぶ		29	損失補償を学ぶ			
15	情報公開法を学ぶ		30	まとめ			
予習内容 復習内容	教科書（該当箇所を指示する）を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。						
教科書	大橋洋一『社会とつながる行政法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021年、1,980円）を使用する。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。						
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30％）と定期試験の結果（70％）の合計で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 行政の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
労働法		西川 昇吾	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、労働法、とりわけ、その中心部分を占める雇用関係法（使用者と労働者の関係を規律する法領域）および労使関係法（労働組合と使用者の関係を規律する法領域）の基礎的事項や重要判例を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等も用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。 それにより、労働法における正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤として、結論のみではなく、そこに至る過程も段階的に説明しうる力を養うことが、本講義の目的である。						
到達目標	① 労働法の各論点における法的意義・要件・効果等を把握する。 ② 労働法上の概念や論理等を言葉で表現し、他者へ説得的に説明しうる。 ③ 労働法の争点においては、複数の結論が並存しうることを許容できる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス／労働基準法の意義・目的		16	労働時間			
2	労働基準法等の適用対象		17	休憩／休日／変形労働時間制等			
3	均等待遇／雇用における男女平等		18	時間外労働／休日労働			
4	強制労働禁止／中間搾取排除／公民権行使保障		19	年次有給休暇			
5	労働契約の意義・期間		20	就業規則			
6	更新拒否（雇止め）からの保護／採用内定		21	懲戒処分			
7	試用期間／配転／出向		22	妊娠婦等の保護／労災補償			
8	転籍／労働者派遣		23	労働組合の法的規制			
9	昇格／降格		24	労働組合の内部問題			
10	解雇		25	不当労働行為			
11	定年／退職／解散等		26	団体交渉			
12	労働契約上の権利・義務／就労請求権／業務命令		27	労働協約			
13	休職／競業避止義務／秘密保持義務等		28	争議行為			
14	賃金の法的保護／休業と賃金		29	使用者の争議行為			
15	退職金／賞与／賃金カット		30	組合活動			
予習内容 復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。						
教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。						
成績評価	平常点 30%（各回のリアクションペーパー提出 1 点×30）、試験 70%（五肢選択問題 10 点・空欄補充問題 20 点・論述問題 40 点）により評価する（ただし、3 分の 2 以上の出席を要する）。						
実務経験							
その他 特記事項	受講に際しては、知識や論理等をインプットするだけでなく、それらを言葉や文章でアウトプットできるよう意識してほしい。また、レジュメ等に目を通して、企業の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民事訴訟法		塚本 順久	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民事訴訟法は、民事訴訟に関する手続についての基本法です（第 1 条）。民事訴訟手続は、個人間の法的な紛争（主に財産権に関する紛争）を、裁判官が当事者双方の言い分を聞き、証拠を調べた後に、判決をすることによって解決を図る手続です。本講義では、主に、民事訴訟法が定める第一審手続（訴え提起から判決確定まで）の概要について説明します。						
到達目標	民事訴訟法の条文を読み解く。 民事訴訟手続の全体の流れを理解する。 民事訴訟法における原理原則、基本概念を理解する。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス、民事訴訟（民事裁判）の基本構造		16	証明責任：証明責任の分配、推定			
2	民事訴訟の基本原則、民事訴訟法の構造		17	証拠調べ 1 総論：書証・証人尋問・当事者尋問・鑑定・検証			
3	訴訟の開始		18	証拠調べ 2 各論：文書提出命令、証拠保全			
4	訴え提起の効果		19	口頭弁論における当事者の訴訟行為			
5	裁判所と管轄		20	判決以外の訴訟終了原因			
6	当事者 1：形式的当事者概念		21	裁判と判決：裁判の種類、判決の効力			
7	当事者 2：当事者能力と訴訟能力、訴訟代理		22	既判力 1：既判力の客観的範囲			
8	訴訟物：訴訟物概念とその機能		23	既判力 2：既判力の主観的範囲			
9	訴訟要件 1：訴訟要件、訴えの利益		24	一部請求と既判力、訴訟上の相殺			
10	訴訟要件 2：当事者適格、第三者の訴訟担当		25	判決効に関する論点			
11	裁判所と当事者の役割分担、口頭弁論		26	複数請求			
12	弁論主義 1：弁論主義の 3 原則、釈明		27	複数当事者訴訟 1：通常共同訴訟、必要的共同訴訟			
13	弁論主義 2：裁判上の自白		28	複数当事者訴訟 2：訴訟参加・訴訟承継			
14	審理の充実と訴訟促進		29	上訴・再審			
15	証拠と証明：証明とは、自由心証主義、証拠能力		30	まとめ：第一審手続の復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所及び該当する民事訴訟法の条文を読む。 復習：条文と教科書を読み直し、教科書の事例を再検討する。						
教科書	越山和広『ベーシックスタディ民事訴訟法 [第 2 版]』（法律文化社、2023 年）、六法						
成績評価	定期試験 70%、授業における発言など積極的に取り組む姿勢 30%						
実務経験	講師は、三重弁護士会に所属する弁護士です。実務経験をもとに、実際の民事裁判の手続に即して民事訴訟法の条文と基本的な概念が理解できるようお話しします。						
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事訴訟法		加藤 拓也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		刑事手続の流れ、登場人物とそれぞれの立場、刑事手続における法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続に関与している弁護士が具体的な事件や実務経験等に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。					
到達目標		受講者において、具体的な刑事事件について法律的な観点から問題点を発見し、論理的に考察できるようになること。また、一主権者として、刑事手続や社会のあり方を考えることができるようになること。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	刑事訴訟法の概要と授業計画			16	刑事裁判の概略		
2	刑事事件に関わる人とその役割			17	刑事裁判の基本原則		
3	ビデオ視聴と解説 1（捜査）			18	刑事裁判の審判対象		
4	ビデオ視聴と解説 2（被告人の立場）			19	証拠物・科学的証拠の証拠能力		
5	ビデオ視聴と解説 3（公判）			20	自白の取扱い		
6	強制捜査と任意捜査			21	供述調書の取扱い		
7	捜査の始まり			22	違法に収集された証拠		
8	証拠物を収集する捜査			23	適正な事実認定		
9	新しい捜査方法			24	模擬裁判		
10	被疑者の身体拘束			25	判決・上訴・再審		
11	被疑者の取調べ			26	裁判員裁判		
12	被疑者の防御権			27	少年法		
13	捜査の終結			28	犯罪被害者保護		
14	捜査弁護の実務			29	有罪判決後の処遇と更生		
15	捜査法の総括			30	あるべき刑事手続のあり方		
予習内容 復習内容	予習：授業中に次回授業で触れる判例等を紹介することがあるので、その内容を確認して下さい。 復習：上記レジュメの内容とそこで示された判例等を再度確認して下さい。						
教科書	教科書は特に指定しません。参考文献は必要に応じてご紹介します。 なお、判例は、最高裁のホームページでも閲覧できます。						
成績評価	出席点（不定期に実施する小テスト・レポートを含む。） 50％、定期試験（年2回） 50％。 毎回出欠をとり、3分の1を超えて（11回以上）欠席があった場合には成績評価の対象外とします。 積極的な発言、良い質問については、出席点のうち10％の範囲内で加点します（但し出席点の上限は50％です。）。						
実務経験	講師は、三重弁護士会所属の弁護士です。刑事事件は今までに130件以上担当し、裁判員裁判や被害者参加の経験も複数あります。その中で得られた実務経験等も踏まえながら、刑事手続について具体的かつ分かりやすくお話しします。肩肘張らずに参加して下さい。						
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治学原論		野口 侑太郎	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、戦後日本政治を主な事例として取り上げたうえで、政治学に関する基本的な理論や概念、そして基本的な事実に対する理解を深めることを目標にします。戦後日本政治は、現代日本の政治を基礎付ける最も重要な営みであり、政治学の知見を参照することで、その全体像の把握に努めます。なお、本講義は通年で行います。						
到達目標	本講義の到達目標は、次の通りです。 1. 政治学に関する基本的知識を獲得することができる。 2. 政治学に関する知識に基づきながら、戦後日本政治への説明や分析を行うことができる。 3. 書評レポートの取り組み方——要約や考察の仕方、文献リストの作成方法など——を習得する。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	はじめに		16	はじめに			
2	政治制度とその主体①：政治の主体		17	政治制度とその主体③：「政治改革」の位置づけ			
3	政治制度とその主体②：政治の制度		18	官僚制①：議院内閣制における官僚制、近代日本における官僚制			
4	政治の捉え方①：集合行為問題とその解決		19	官僚制②：行政組織制度、公務員制度			
5	政治の捉え方②：政治の擁護		20	官僚制③：戦後日本における官僚制			
6	書評レポートの概要と解説		21	書評レポートの概要と解説			
7	自由民主主義①：自由主義		22	選挙制度①：選挙制度と政党システム			
8	自由民主主義②：民主主義		23	選挙制度②：選挙制度と政党組織			
9	自由民主主義③：自由民主主義		24	選挙制度③：選挙制度と政策形成			
10	書評レポートの概要と解説		25	書評レポートの概要と解説			
11	福祉国家①：福祉国家概論		26	国会①：国会の仕組み			
12	福祉国家②：戦後政治経済体制の成立		27	国会②：戦後日本における国会と政策形成			
13	福祉国家③：戦後政治経済体制の変容		28	地方政治①：地方政府における政治制度			
14	福祉国家④：戦後政治経済体制からの模索		29	地方政治②：中央地方関係			
15	おわりに		30	おわりに			
予習内容 復習内容	予習と復習：書評レポートを5回課すので、その提出に備えることが求められます。						
教科書	教科書の指定はありません。参考文献は必要に応じて紹介します。						
成績評価	本学の規程に従って、60点以上を合格とし、総合評価によって判定します。 なお、総合評価の内訳は、書評レポート 50点、定期試験 50点です。						
実務経験							
その他 特記事項	・受講に当たって特別な制限は設けませんが、意欲的な受講態度が期待されます。 ・遅刻や早退、途中退出等は、周りの受講者に迷惑になりますので、お控えください。 ・講義中の写真撮影や動画撮影、録音等は厳禁です。また、講義資料等をインターネットにアップロードすることも一切認めません。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政学		川上 哲	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では行政学の主要な理論と日本の行政の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。 本講義の目的は受講生が行政の理論や制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。						
到達目標	①行政学の主要な理論を理解する。 ②行政制度や公務員制度の基本的な仕組みについて理解する。 ③政策立案の理論や政策過程について理解する。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	導入と講義概要及び評価方法－行政学とは何か			16	国家公務員の任用 入口選抜制度		
2	行政学の歴史とその背景			17	国家公務員の昇任 キャリアとノンキャリア		
3	行政学の発展－アメリカ行政学			18	国家公務員の退職 天下りとグレイゾーン組織		
4	組織論① 古典的組織論			19	行政改革① NPMとガバナンス		
5	組織論② 現代組織論			20	行政改革② 日本の行政改革		
6	官僚制論① 近代官僚制と官僚制の逆機能			21	政策過程論① 政策過程とは何か		
7	官僚制論② 官僚制の演繹的モデル			22	政策過程論② 政策過程の理論		
8	官僚制論③ 官僚制の機能的モデル			23	政策過程論③ 政策評価と評価指標		
9	大統領制と議員内閣制① アメリカの大統領制			24	EBPM（根拠に基づいた政策形成）		
10	大統領制と議院内閣制② イギリスの議院内閣制			25	EBPMの問題点と課題		
11	大統領制と議院内閣制③ 日本の議院内閣制			26	予算の編成過程と決算		
12	日本の行政組織① 内閣の補佐機関			27	法案の形成過程		
13	日本の行政組織② 中央省庁の組織			28	行政責任		
14	日本の行政組織③ 中央省庁の編制			29	行政統制		
15	日本の公務員制度			30	講義のまとめ		
予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。						
教科書	教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。						
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		柏崎 早陽子	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的		「法律」という学問に慣れ親しむためには、学説や判例に飛びつく前にやるべきことがあります。それが法律学の基礎の習得です。本基礎演習では、条文の読み方や法解釈などの法律学の基礎を習得することを第1の目標とします。次いで、刑法に関する判例等の報告・発表を通じて、習得した知識を発揮しつつ応用力を身に付けることを第2の目標とします。以上の目標に到達すると同時に、刑法を体系的に理解することを目指します。					
到達目標		・法律学の基礎を習得し、説明することができる。 ・報告や学生同士の議論を通じて、自己の意見を形成する力を身につけることができる。 ・法的三段論法を身につけ、論理的に説明することができる。					
回	学習内容						
1	ガイダンスー本演習の進め方、評価方法等について						
2	法令の種類、条文の読み方ーまずは六法を開いて眺めてみよう						
3	裁判・裁判制度に関する基礎知識						
4	法律文献や判例の探し方						
5	法と道徳ー同性婚と（刑事）法						
6	法の解釈						
7	法の解釈と判例ー電気窃盗事件やカモ撃ち事件を通じて法解釈を実践してみよう						
8	報告を実践する前に（報告の仕方、レジュメの作成方法等）、法的三段論法						
9	報告①：構成要件（1）作為と不作為※						
10	報告②：構成要件（2）故意・過失※						
11	報告③：違法性（1）正当防衛※						
12	報告④：違法性（2）緊急避難※						
13	報告⑤：有責性※						
14	報告⑥：共犯※						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	報告用資料の作成等を通じて予習し、演習内で扱った用語や論点等をふり返ることで復習する。新聞などを通じて時事問題にも触れるのが望ましい。						
教科書	教科書は特に指定しない。ただし、最新の六法を毎回必ず持参すること。						
成績評価	①報告・報告用資料の作成（50%）、②授業への参加態度（50%）とし、①・②をもとに総合評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	発言や報告の内容が間違っていたら恥ずかしい？友人や教員の意見に迎合しないとマズイ？・・・そんなことはありません。間違いをおそれず、素朴な疑問でも何でもぶつけて一緒に楽しく演習を進めていきましょう。※マーク＝演習内で扱う内容・判例等については、適宜変更する可能性があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		鎌塚 有貴	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	「憲法Ⅰ・Ⅱ」の講義中では詳細に扱うことのできなかった事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。各回担当者による報告形式とする。						
到達目標	報告資料の作成において、著作権等の研究倫理を深く理解すること。 一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理について						
2	文献の探し方						
3	判例の調べ方						
4	報告準備の方法						
5	情報と人権						
6	自己決定権						
7	環境権						
8	旅行の自由						
9	氏名にかんする権利						
10	同性婚						
11	学校における人権						
12	報道と人権						
13	死刑制度						
14	遺伝子研究と人権						
15	勤労の権利						
予習内容 復習内容	発表用資料作成、ニュース等のチェックなど。						
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）、その他授業中に指示するもの。						
成績評価	報告 50%、授業への参加態度 50%						
実務経験							
その他 特記事項	授業計画は適宜変更の可能性がある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		川上 哲	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この演習では、行政学の基本的な知見を獲得し、日本の行政について深く考察する態度を身に付け、議論を通じてさらに見識を深めていく。行政学の基本的な知見を獲得するため、教科書を指定し熟読する。さらに問題関心を深めてもらうため、ゼミ生同士で議論を行う。また三重県内の行政機関の見学を行い、現実の行政についての理解を深める。 この演習には現代日本の政治や行政に関心がある学生の受講を求める。一人1回は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。						
到達目標	①行政学の知見を深める。 ②行政機関の役割について理解を深める。 ③自らの見解を分かりやすく伝えることができる。						
回	学習内容						
1	導入（ガイダンス）ーゼミ概要及び評価方法						
2	『はじめての行政学』① 第1章 行政とは何かー政府の活動としての行政						
3	『はじめての行政学』② 第2章 大きくなる政府の役割ー近代官僚制と行政国家化						
4	三重県内の行政機関見学①						
5	『はじめての行政学』③ 第3章 行政学はどのような学問かー行政学の成立と展開						
6	『はじめての行政学』④ 第4章 新しい行政の見方ーNPM とガバナンス						
7	三重県内の行政機関見学②						
8	『はじめての行政学』⑤ 第5章 国と地方を動かすしくみー執政制度						
9	『はじめての行政学』⑥ 第6章 政府の姿ー行政組織制度						
10	『はじめての行政学』⑦ 第7章 行政を担う人々ー公務員制度						
11	『はじめての行政学』⑧ 第8章 変化する日本の行政ー国と自治体の制度改革						
12	『はじめての行政学』⑨ 第9章 行政活動をデザインするー政策の調査と立案						
13	『はじめての行政学』⑩ 第10章 法律・条例をつくるー多面的合意形成の技術						
14	『はじめての行政学』⑪ 第11章 予算をつくるー限られた時間と効率的な決定						
15	『はじめての行政学』⑫ 第12章 行政と社会のインターフェースー政策の実施と評価						
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。						
教科書	伊藤正次ほか『はじめての行政学 新版』（有斐閣ストゥディア、2022年）						
成績評価	評価は出席時の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。指定された教科書を事前に購入すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		照井 遥瑛	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	法律学を勉強するにあたって、ほとんどの 1 年生は、「どのように勉強したらよいのか分からない」、「試験の答案やレポートをどのように書いたらよいのか分からない」、「資料の調べ方や判決文の読み方がよく分からない」といった悩みを抱えていると思います。この授業では、このような悩みや疑問を解消し、法律学の学習にできるだけ早く慣れてもらうことを心がけます。具体的には、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、条文の解釈方法、判決文の読み方、試験答案やレポートの書き方などを学習します。また、民法のうち関心のあるテーマについて各自 1 回は報告を行ってまいります。						
到達目標	①文献調査・判決文の読み込み等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力、条文を解釈・適用するための基礎的な技法を身に付けること。 ②問題演習を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（自己紹介、演習の進め方、成績評価方法の説明など）						
2	条文の読み方						
3	裁判制度の基礎知識						
4	判例や法律文献の探し方（図書館ツアー）						
5	条文の解釈方法（拡大解釈、縮小解釈、類推解釈ほか）						
6	民法 94 条 2 項の「類推適用」とは						
7	判決文の読み方①：地方裁判所の判決文（隣人訴訟）を読んでみる						
8	判決文の読み方②：最高裁判所の判決文（民法 94 条 2 項の類推適用）を読んでみる						
9	ゼミでの報告の仕方、卒論テーマの探し方						
10	試験答案やレポートの書き方						
11	行為能力と意思表示の箇所から関心のあるテーマについて報告						
12	代理と時効の箇所から関心のあるテーマについて報告						
13	物権法の箇所から関心のあるテーマについて報告						
14	担保物権法の箇所から関心のあるテーマについて報告						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジュメ、ノート等で確認すること。						
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、文献調査・報告をする上で有意義な書籍については開講時に紹介します。						
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジュメ等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		西川 昇吾	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本演習では、法学、とりわけ労働法学の基礎を形成している「判例」について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一同となって研究・討議する。具体的には、毎回、学生 1 名が判例を報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。 それにより、実社会で生じている労働法に関する諸問題について、法的な分析や検討を行いうる力を養い、ひいては、第 2 学年の演習で取り組む課題を模索することが、本演習の目的である。						
到達目標	① 裁判所の認定事実・判旨を正確に把握でき、それらを他者へ段階的に説明することができる。 ② 裁判所が示した論理に対して、その是非を思考しうる。 ③ 報告や議論を通して、私見を主張する力を向上させる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（検討判例の選定・報告順の決定等）						
2	労働協約に関する判例の研究						
3	労働者・使用者の概念に関する判例の研究						
4	雇用関係の成立に関する判例の研究						
5	労働者の人格保護・雇用平等に関する判例の研究						
6	就業規則に関する判例の研究						
7	労働契約上の権利・義務に関する判例の研究						
8	賃金に関する判例の研究						
9	労働時間・休日・休暇・休業に関する判例の研究						
10	労働災害に関する判例の研究						
11	服務規律・懲戒に関する判例の研究						
12	人事に関する判例の研究						
13	雇用関係の終了に関する判例の研究						
14	非典型雇用に関する判例の研究						
15	争議行為に関する判例の研究						
予習内容 復習内容	ゼミ生みずからが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。						
教科書	別冊ジュリストNo.257『労働判例百選〔第 10 版〕』（有斐閣、2022 年）、および『六法』が必要である。						
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、報告・発言の内容 50%の方法により評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、いわゆる「うなずきあい」の 18 年」から決別する意識で、演習に臨んでほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		古畑 淳	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	行政法の授業で学んだ内容を更に発展させて学習していきます。行政法の授業で学んだように、行政は私たちがよりよい環境で安心して生活できるように様々な活動をしています。その活動の1つとして行政は、法令に基づいて、市民の自由や活動を規制する決定（規制行政における決定）をしたり、市民にサービス等を提供する決定（給付行政における決定）をしたりします。この演習では、法令に基づくそうした「行政の決定」に注目して、①行政の決定の公正性と適正性を図るためのルールである行政手続法や、②行政の決定の是正を求めるルールである行政不服審査法と行政事件訴訟法について学んでいきます。なお、演習の授業ですので、学生の皆さんには自身が最も関心を寄せる行政法のテーマについて報告を行ってもらうことにします。 授業では、以上のほかに、法学（行政法学）の学び方についても学習していくこととします。						
到達目標	①行政行為（行政処分）の概念を説明できるようになること。 ②行政手続法、行政不服審査法、行政事件訴訟法の概要と論点を説明できるようになること。 ③法学文献や裁判例を検索し、検索した文献や裁判例の内容を理解の上、法的論点の所在などその内容をまとめることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（自己紹介、授業概要・演習の進め方・評価方法等についての説明）						
2	行政法とはどのような学問か						
3	法学文献と裁判例の調べ方						
4	報告レジュメの作成の仕方と報告の仕方						
5	行政行為（行政処分）の意義と種類						
6	行政行為（行政処分）の効力、職権による取消しと撤回						
7	行政手続法：申請に対する処分手続						
8	行政手続法：不利益処分の手続						
9	行政不服審査法：行政不服審査の仕組みと組織						
10	行政不服審査法：不服申立ての審理と判断（裁決）						
11	行政事件訴訟法：取消訴訟の原告適格と訴えの利益						
12	行政事件訴訟法：取消訴訟の審理と判決						
13	行政事件訴訟法：取消訴訟における仮の救済						
14	行政事件訴訟法：取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	事前に配布する裁判例や参考文献を読む。報告レジュメを作成する。 授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。報告と討論で得た学びを整理する。						
教科書	教科書、参考文献等は初回講義時に提示します。 『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。						
成績評価	ゼミでの自身の報告（準備したレジュメの内容や報告での工夫等）とゼミへの参加状況（報告者に対する発言やゼミ運営への協力の姿勢等）を評価します（60％）。また、レポート等の成果物を評価します（40％）。						
実務経験							
その他 特記事項	行政法の授業を受講済みであること、あるいは受講中であることが望ましい。 学生の関心やゼミの進行状況により、各回の学習内容が変更となる場合があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事政策		柏崎 早陽子	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		刑事政策は、犯罪を防止するための施策を考える学問です。もっとも、犯罪をいかに防止するかを考えるためには、その前提として実社会における犯罪の情勢を把握する必要があります。また、犯罪が生じた原因を探ることも犯罪防止に役立ちます。そこで、本講義では最初に、日本における犯罪の現状を知ること、犯罪の原因を突き止めることから始めます。そのうえで、現行制度の他、同性婚や拘禁刑などの時事問題に言及しながら、刑事政策に関する現実の社会課題に向き合います。					
到達目標		・ 刑事政策に関する基本的な概念等を説明することができる。 ・ 刑事政策に関する実社会の動向（法改正や法制度等）を踏まえて自己の意見を形成することができる。					
回	学習内容						
1	刑事政策とは：授業の進め方、刑事政策に関する基礎知識						
2	犯罪現象論：日本における犯罪の情勢—どのような犯罪がもっとも多いか？						
3	犯罪原因論①：初期の犯罪原因論～ラベリング論の台頭まで						
4	犯罪原因論②：ラベリング論の台頭～合理的選択理論・状況的犯罪予防論						
5	犯罪化と非犯罪化：同性婚をベースに犯罪化と非犯罪化について考える						
6	裁判員制度						
7	刑罰①死刑：死刑執行と死刑執行までの流れ、死刑囚と拘置所						
8	刑罰②死刑制度の存廃：死刑存廃と終身刑						
9	刑罰③自由刑：懲役刑・禁錮刑と拘禁刑						
10	保安処分						
11	司法的処遇：ダイバージョン、微罪処分、起訴猶予等						
12	施設内処遇：受刑者と刑事収容施設						
13	社会内処遇：仮釈放、保護観察等						
14	少年法改正と少年非行						
15	学習内容の総まとめ						
予習内容 復習内容	【予習】配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。 【復習】配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。						
教科書	教科書は指定しないが、配付する資料に事前に目を通すこと。その他、授業内で適宜紹介する。						
成績評価	①定期試験（60％）＋②小テスト・レポート（40％）【評価基準】 i）自分の言葉で、ii）語句等を適切に理解して使用し、iii）問題点を的確に示し、iv）学説や判例の立場を踏まえながら私見を論理的に説明している。以上の i）～iv）の到達度を、上記①・②において総合的に判断して成績評価をおこなう。						
実務経験							
その他 特記事項	「刑法」も受講することが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会保障法		西川 昇吾	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、社会保障（国民の人間らしい生活を保障するため、国が一定の所得や医療、生活関係サービス等を提供する制度）にもとづく社会的給付、費用負担および制度運営・管理の法律関係を規律する法について、そのしくみや考え方を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等を用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。 それにより、社会保障法の概容や法的論点を理解し、それらを基盤として、今後の社会保障制度の担い手となる受講生が、望ましい社会保障制度のあり方について、自分なりの見解をもちうる力を養うことが、本講義の目的である。						
到達目標	① 社会保障法の概容や法的論点を把握する。 ② 社会保障法における各制度のしくみや考え方について、他者へ段階的に説明することができる。 ③ 今後の理想とする社会保障制度を構想しうる契機となる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス／社会保障法とは						
2	社会保障法の体系						
3	健康保険法						
4	国民健康保険法						
5	医療供給体制／高齢者医療						
6	国民年金法						
7	厚生年金保険法						
8	企業年金						
9	介護保険法						
10	労災保険法						
11	損害賠償との調整						
12	雇用保険法						
13	社会手当						
14	社会福祉サービス						
15	生活保護法						
予習内容 復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。						
教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。						
成績評価	平常点 15%（各回のリアクションペーパー提出 1 点×15）、試験 85%（五肢選択問題 15 点・空欄補充問題 30 点・一行問題 40 点）により評価する（ただし、3 分の 2 以上の出席を要する）。						
実務経験							
その他 特記事項	受講に際しては、レジュメ等に目を通して、社会の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際法		坂本 一也	講義	4		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	政治的、経済的な利害対立が厳しい国際社会においても、国家間の円滑な関係を維持するために、各国家が従うべき規則―「国際法」―が存在しています。 この授業では、この「国際法」の性質や特徴について検討した上で、その具体的な規定内容について考察することになります。 授業を通じて、最近のニュースで取り上げられている国際問題などを法的な視点から考える力の涵養を目指します。						
到達目標	①国際法の性質や特徴を踏まえて、国際法に関わる基本的な知識を習得して、説明できること。 ②国際問題に関心を持ち、それらを法的な視点から論理的に考える思考方法を身につけること。 ③授業で習得した知識や能力等を用いて、自己の見解を文章によって表現できること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	講義ガイダンス（国際法とはどのような法か）		16	国家領域の取得権原			
2	国際法の歴史的展開		17	日本の領土問題			
3	国際社会の構造と国際法の特徴①：執行		18	海の国際法①（海洋法秩序）			
4	国際社会の構造と国際法の特徴②：司法・立法		19	海の国際法②（海洋権益をめぐる対立）			
5	国際法の法源（国際慣習法を中心に）		20	空と宇宙の国際法			
6	条約法①：条約の制定過程・解釈		21	国家の国際責任①（成立要件）			
7	条約法②：条約の効力・留保		22	国家の国際責任②（責任追及・解除の方法）			
8	国際法と国内法の関係		23	紛争の平和的解決			
9	国際法における主体		24	紛争の司法的解決（国際司法裁判所）			
10	国家の要件と国家承認		25	国際法上の個人の地位①（国籍・外国人）			
11	国家の基本的権利義務①（主権平等原則）		26	国際法上の個人の地位②（難民）			
12	国家の基本的権利義務②（国家免除）		27	戦争・武力行使の違法化（武力不行使原則）			
13	外交・領事関係法		28	自衛権と国連における集団安全保障			
14	前半まとめ（国際問題を法的に考える）		29	武力紛争法・国際人道法			
15	国家領域とその機能（領域主権）		30	まとめ（国際法とはどのような法か（再考））			
予習内容 復習内容	授業で使用するレジュメは事前に配布しますので、理解できない言葉などを学習してください。 各回の授業でコメント・事例課題等を出しますので、それを用いて復習してください。						
教科書	教科書は指定しません。 国際条約集（出版社は問いません）を授業中に参照します（ネット検索でも構いません）。						
成績評価	試験（70%）、授業の際に提出を求めるコメントシートへの取組み・授業内での発言（30%）で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	授業中の質疑応答に積極的に関わってください。 また、現在や過去（少し前の）国際問題について、興味関心があると授業の理解に役立ちます。 質問などがあれば、授業前後・メールにて受け付けます。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法哲学	小林 和之	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	「正しさ」（正義）の可能性について考えること。抽象論ではなく、実際に起った事件に即して考察を進めます。					
到達目標	具体的な事件に即して「正しさ」について考える力を伸ばすこと。多様なものの見方に触れ、新しい観点を獲得すること。					
回	学習内容					
1	授業の進め方、法哲学の学問的性格					
2	名前のルール					
3	氏名法制の変遷と夫婦別氏問題					
4	過失責任原理の登場と変容					
5	企業と人命を犠牲にする選択					
6	社会と人命を犠牲にする法					
7	人命の犠牲の正当化					
8	公共の利益と組織の論理					
9	内部告発と正義（1）					
10	内部告発と正義（2）					
11	新時代の責任原理（1）					
12	新時代の責任原理（2）					
13	事実と社会（1）					
14	事実と社会（2）					
15	メタ価値					
予習内容 復習内容	予習：ニュースを見るよう心がける。 復習：講義で知ったことを他者に説明できるようにまとめる。					
教科書	なし					
成績評価	筆記試験と毎回の課題との総合評価（100％）					
実務経験						
その他 特記事項	受講者の理解が不十分だと判断した場合は、先に進めずに補足を行います。よって、上記は変更の可能性あります。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
税法		木村 幹雄	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	日本をはじめ多くの国々は、税がなくては国家として成り立ちません。わが国の税の仕組みを理解するとともに、どのような根拠で課税されているのかを考えていく。そして社会で必要な最低限の税の知識を身につけることを目的とする。						
到達目標	税法に関する基本的な理論と考え方が理解できる。						
回	学習内容						
1	概論（税の考え方・税法の学び方）						
2	税・財政の基礎知識と税金の専門職						
3	納税義務と租税法律主義						
4	租税法の基本原則						
5	法人税法（１） 計算構造						
6	法人税法（２） 特段の定め						
7	消費税法（１） 消費税の基本的仕組み						
8	消費税法（２） 各種特例と届出書						
9	相続税法（１） 民法と相続税						
10	相続税法（２） 相続税と贈与税						
11	所得税法（１） 所得税の基本的仕組み						
12	所得税法（２） 各種所得						
13	所得税法（３） 所得計算						
14	所得税法（４） 所得控除と税額控除						
15	納税者救済（税務争訟手続き）						
予習内容 復習内容	予習：テキストの講義予定箇所を事前に読んでおくこと。 復習：講義での不明点を復習し理解を深めること。						
教科書	石村耕治編『現代税法入門塾（第 12 版）』（清文社、2024 年）。						
成績評価	定期試験（70％）、平常点（小テストなど）（30％）の比重で評価する。						
実務経験	名古屋税理士会に所属する税理士であり、税法に関する理論だけではなく、実務経験を踏まえた講義をしていきたい。						
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
消費者法		大北 由恵	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	私たちは日常的に事業者から商品やサービスを購入し、それらを消費して生活している消費者です。消費者と販売のプロである事業者との間には情報力や交渉力等の面で大きな格差が存在しているため、不利な立場に置かれている消費者の利益を保護するための一連の法律を消費者法と呼びます。 この講義では、消費者被害の実態を事例とともに紹介し、被害者を救済するための法制度の基礎知識を修得していきます。						
到達目標	①消費者問題の基本構造を理解することができる。 ②消費者被害にあわないための対策や被害にあった場合の対処法を身に付けることができる。 ③被害者救済のための法制度を理解し、解決策を検討することができる。						
回	学習内容						
1	ガイダンスー消費者法とは						
2	消費者問題の全体像						
3	消費者契約法①消費者契約法の概要、取消権						
4	消費者契約法②不当条項規制						
5	特定商取引法①特定商取引法の概要						
6	特定商取引法②訪問販売、クーリング・オフ、電話勧誘						
7	特定商取引法③通信販売、マルチ商法、ネズミ講						
8	特定商取引法④継続的役務提供						
9	景品表示法						
10	製造物責任法						
11	消費者信用取引①消費者信用取引の概要、クレジット取引						
12	消費者信用取引②割賦販売法（割賦販売法の概要）						
13	消費者信用取引③割賦販売法（割賦販売法の規制内容）						
14	消費者信用取引④貸金規制						
15	全体のまとめー現代社会における消費者法の課題						
予習内容 復習内容	予習：参考文献に目を通しておいください。 復習：レジュメや講義メモを中心に授業内容を整理・理解してください。						
教科書	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を進めます。 参考文献は初回の授業で案内します。						
成績評価	最終試験(70%)と授業内レポート(30%)で総合的に評価します。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方自治法		古畑 淳	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	自治とは、自分たちのことは自分たちで決めることをいうが、地方自治とは、国から独立した地方公共団体（＝自治体）が、自分たちの地域に関することは可能な限り自分たちで決めていくという理念のことをいう。この講義では、そうした地方自治について定める地方自治法と地方自治関連法について学ぶ。具体的には、自治体の種別と区域、自治体の組織と自治組織権、住民の権利・義務、自治立法権、自治行政権、公の施設の設置とその管理、自治財政権などを学ぶ。 私たちの生活に関わる行政の活動の多くは自治体において具体的に行われている。まちづくり、子どもの保育、高齢者の介護、学校教育、地域環境、地域の安全、消費生活等に関わる行政活動はみなそうである。講義では、それら行政活動が地方自治の理念の下でどのように行われているかという点についても、可能な限りで触れていくこととしたい。						
到達目標	1) 地方自治の基本原則を理解する。 2) 地方自治の法制度について理解する。 3) 自治体住民の権利・義務について理解する。						
回	学習内容						
1	地方自治の法原理 「地方自治」とは何か、地方自治権の根拠、「地方自治の本旨」						
2	地方自治法制度の歴史 日本国憲法の制定と地方自治法の制定・改正史						
3	自治体の種別と区域 普通地方公共団体、特別地方公共団体、自治体合併と道州制論						
4	自治体の組織と自治組織権① 自治体組織の特徴、議会						
5	自治体の組織と自治組織権② 執行機関、その他の組織						
6	住民の権利・義務① 「住民」の意義、住民の参政権						
7	住民の権利・義務② 直接請求						
8	住民の権利・義務③ 住民監査請求、住民訴訟						
9	自治立法権① 条例とはどんな法か、条例の内容・種別、条例制定権の根拠						
10	自治立法権② 条例制定権の範囲と限界、 条例制定の手続と適用範囲及び効力						
11	自治立法権③ 執行機関の規制、自治体の行政内規						
12	自治行政権① 自治体の処理する事務、地方自治法上の事務の区分						
13	自治行政権② 関与法制・国地方係争処理手続、自治体の出訴権、国等による違法確認訴訟制度等						
14	公の施設の設置とその管理 公の施設の意義と設置、公の施設の管理（指定管理者制度）						
15	自治財政権 自治体財政制度の基本、自治体の歳入、自治体の支出、自治体契約、自治体財産等						
予習内容 復習内容	教科書や事前に配布する資料等を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。						
教科書	使用する教科書は、初回の授業時に提示します。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。						
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30％）と定期試験の結果（70％）の合計で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 自治体の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。 行政法の授業を受講していることが望ましいです。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方政治論		川上 哲	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では日本の地方自治制度の仕組みや理論を中心に解説を行っていく。2000 年以降、地方自治制度は大きく変容してきており、地方分権改革、市町村合併、圏域行政の推進など、地方自治制度がどのように変わりつつあるのか、その方向性も含めて授業を進めていく。 本講義の目的は受講生が地方自治制度に対する理解を深め、住民自治の担い手としての基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が地方自治に関する基本的な知識を習得することも目的とする。						
到達目標	①地方自治に関する基礎的な知識を習得する。 ②地方自治が住民サービスと密接に関わることを理解する。 ③地方自治を巡る今日的な課題と問題点について理解を深める。						
回	学習内容						
1	導入（ガイダンス）－講義概要及び評価方法						
2	地方自治体の首長－都道府県知事・市町村長の機能						
3	地方議会論－地方議会と地方議会議員の役割						
4	地方公務員論－採用と昇任、会計年度任用職員						
5	地方選挙と住民投票制度－直接請求制度						
6	条例とその制定過程						
7	地方自治体の種類と権能・大都市制度						
8	地方自治体の組織編成						
9	中央地方関係論①－「集権・分権」と「分離・融合」						
10	中央地方関係論②－中央地方関係の一般理論						
11	行政情報の公開－情報公開制度						
12	個人情報保護制度						
13	地方自治体と公共政策						
14	公共政策のプロセスと組織						
15	講義のまとめ						
予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 2 回目以降の予習・復習は講義内で指示する。						
教科書	教科書は使用せず、レジュメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。						
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治史（政治過程論を含む）		野口 侑太郎	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、戦後日本政治を主な事例として取り上げた上で、政治史並びに政治過程論に関する基本的な理論や概念、そして基本的な事実に対する理解を深めることを目標にします。戦後日本政治は、現代日本の政治を基礎付ける最も重要な営みであり、政治史及び政治過程論の知見を参照することで、その全体像の把握に努めます。						
到達目標	本講義の到達目標は、次の通りです。 1. 戦後日本政治について、政治史並びに政治過程論に関する基本的知識を獲得することができる。 2. 上記の知識に基づきながら、戦後日本政治に関する説明や分析を行うことができる。 3. 書評レポートの取り組み方——要約や考察の仕方、文献リストの作成方法など——を習得する。						
回	学習内容						
1	はじめに						
2	戦後日本の政治制度とその主体						
3	官僚制①：議院内閣制における官僚制、近代日本における官僚制						
4	官僚制②：行政組織制度、公務員制度						
5	官僚制③：戦後日本における官僚制						
6	書評レポートの概要と解説						
7	選挙制度①：選挙制度と政党システム						
8	選挙制度②：選挙制度と政党組織						
9	選挙制度③：選挙制度と政策形成						
10	国会①：国会の仕組み						
11	国会②：戦後日本における国会と政策形成						
12	書評レポートの概要と解説						
13	地方政治①：地方政府における政治制度						
14	地方政治②：中央地方関係						
15	おわりに						
予習内容 復習内容	予習と復習：書評レポートを2回以上課すので、その提出に備えることが求められます。						
教科書	教科書の指定はありません。参考文献は必要に応じて紹介します。						
成績評価	本学の規程に従って、60点以上を合格とし、総合評価によって判定します。 なお、総合評価の内訳は、書評レポート30点、定期試験70点です。						
実務経験							
その他 特記事項	・受講に当たって特別な制限は設けませんが、意欲的な受講態度が期待されます。 ・遅刻や早退、途中退出等は、周りの受講者に迷惑になりますので、お控えください。 ・講義中の写真撮影や動画撮影、録音等は厳禁です。また講義資料等をインターネットにアップロードすることも一切認めません。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治思想史	井口 吉男	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	ヨーロッパの著名な思想家の政治思想を中心に講義を行う。現在は政治・行政のしくみが複雑化した時代である。けれども、むしろこういう時代だからこそ、いにしえの思想家たちが世に残した古典的著作をひもとき、政治について根本的かつ原理的な考察を行うことが大切になってこよう。					
到達目標	①政治に関する諸概念の意味を理解できる。 ②各思想家の政治思想の全体像を把握できる。 ③政治について原理的に考察する力を習得する。					
回	学習内容					
1	ガイダンス プラトンの政体論					
2	ストア派における「個人」と「国家」					
3	マキアヴェリの君主論					
4	カルヴァン——「神」と「政治」					
5	ホッブズと「リヴァイアサン」					
6	ロックと社会契約					
7	モンテスキューと権力分立					
8	ルソーと「一般意志」					
9	スミスと「自由放任」					
10	バークの保守思想					
11	トクヴィルと大衆社会					
12	マルクスと共産主義					
13	ヴェーバー——「信条倫理」と「責任倫理」					
14	西欧政治思想における「自由」					
15	現代の政治思想——ハンナ・アレントと現代					
予習内容 復習内容	予習：次回とりあげる思想家の生涯について調べること。 復習：配布したレジюмеに目を通し、とりあげた思想家と「対話」すること。					
教科書	テキストは使用しない。レジюмеを毎回、配布する。参考文献は講義のなかで紹介。					
成績評価	定期試験（100％）を基本とするが、平常の受講姿勢も加味する。毎回、出席をとる。3分の1を超える欠席をした場合、評価対象外となる。					
実務経験						
その他 特記事項	西欧政治思想の世界の奥深さを味わってほしい。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際関係論		三瀬 貴弘	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	国際関係論は、世界情勢を政治経済だけでなく文化歴史から幅広く分析する学際的な学問である。講義では、隣接学問領域の研究成果を取り入れつつ、現実の国際問題について歴史を踏まえた分析や、現実をよりよく理解するツールとしての理論を勉強し、IPE（国際政治経済学）が冷戦後の国際秩序形成に与えた影響、ならびに日米関係の実態について考察する。詳細なレジュメを配布し講義する形式であるが、面白おかしい問題に取り組む「頭の体操」や、速記のスピードを競う「速記バトル」、居眠り防止のために突然クイズを出す「〇突クイズ」など、受講生が作業をする時間を設け、退屈させない授業を心がける。						
到達目標	①学生は、国際関係の歴史・現実・理論に関連した基礎知識を習得できる。 ②学生は、冷戦後の日米関係のあり方について、歴史的・理論的背景も含めて説明できる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（日本外交における「独自性」とは？ 対米従属論）						
2	大相撲と国際関係論（番付表、インバウンド消費、移民、ナショナリズム）						
3	ドラゴンクエストと国際関係論（中印関係、クルド人、テロリズム、ドローン）						
4	日本の領土問題（尖閣・竹島・北方領土、カイロ宣言、サンフランシスコ講和条約、ダレスの恫喝）						
5	国際関係論の名著の検討（ケナン、キッシンジャー、ハンチントン、ギルピン）						
6	主権国家（「大航海時代」、対外主権、対内主権、ウェストファリア条約、ユトレヒト条約）						
7	国際関係論の誕生（ツキジデスの罠、帝国主義、第一次世界大戦、自衛戦争、大東亜共栄圏）						
8	リアリズム（ホッブズ、バランスオブパワー、国益、パワーポリティクス）						
9	リベラリズム（カント、安達峰一郎、貿易理論、民主主義平和論）						
10	リアリズムの隆盛（モーゲンソー、キューバ危機、世界終末時計、アリソン）						
11	リアリズムの衰退（オストロム、ゲーム論、シェリング、公共財）						
12	覇権安定論（ギルピン、覇権衰退論争、ソフトパワー、構造的権力）						
13	相互依存論（トランスナショナル関係論、レジーム論、コヘイン）						
14	IPE とは何か（バードン・シェアリング、湾岸戦争、日米政策協調）						
15	まとめ（第二次大戦後の日本外交、日米関係について）						
予習内容 復習内容	予習:新聞やテレビのニュース、ネット等を通じ、国際社会で今何が起きているかを知っておく。 復習:配布レジュメや資料を読み直すこと。						
教科書	なし						
成績評価	レポート 100%。授業への積極的参加などを加点要素とする（3%以内）。 3 分の 1 を超えて(6 回以上)欠席した場合は、レポートの提出資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。授業を難しく感じた場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、適宜調整します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学		金岩 稔	講義	2		1	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	諸研究の読解やそれらを実際に行う上で必要な統計学を学ぶ上で必要な数学的な基礎知識を復習するとともに、基礎的な統計学の概念、特に統計モデルの構築の概念を説明する。						
到達目標	基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得						
回	学習内容						
1	講義の概要説明。データ解析の目的。度数分布表とヒストグラム。						
2	相関と散布図。データの中心とばらつきの指標。						
3	標準化と共分散、相関係数。						
4	回帰直線						
5	データ発生のメカニズム。母集団と標本。無作為抽出。						
6	事象の独立性と確率						
7	確率分布と確率変数。その平均と分散。						
8	コイン投げとベルヌーイ試行。2 項分布。						
9	連続型確率変数。正規分布。						
10	確率変数の独立性と無作為標本の定義。						
11	標本平均と標本分散。母平均、母分散との関係。不偏性。						
12	標本平均の分布。点推定と区間推定。母平均の区間推定。						
13	母比率の推定						
14	統計的仮説検定と検定方式、有意水準、母比率の検定						
15	確認課題の説明						
予習内容 復習内容	予習：シラバスの内容を検索して、どのような内容か自分なりに調べておく。 復習：ノートの整理						
教科書	テキストは使用しない。						
成績評価	確認課題 70%、講義の受講態度 30%						
実務経験							
その他 特記事項	科学は物事を客観的に判断する道具であり、統計学はそれの中での物差しと言ってもよい道具です。最初、道具の使い方は難しく感じますが、普段から使い手になじむと使いやすくなるものです。なじむまで普段から統計学的な物事の見方を身に着けるため、当講義を受講していただければと思います。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済原論		田添 篤史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現在主流となっている経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。 本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。						
到達目標	① ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解し説明できるようになる。 ② 実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーションー経済学の考え方			16	完全競争市場における余剰分析		
2	国民経済計算			17	市場の状態が資源配分に与える影響		
3	ミクロ経済学の基本像			18	マクロ経済学の考え方		
4	消費者の理論を導くための準備			19	財の総供給		
5	限界効用理論			20	消費の決定と財の需要量		
6	無差別曲線に関して			21	財市場の均衡		
7	予算線の概念と最適消費点の決定方法			22	債権の価格と利子率		
8	所得変化と、それに対応する最適消費点の変化			23	貨幣を需要する動機		
9	代替効果と所得効果			24	貨幣市場の均衡		
10	生産における短期と長期の違い			25	投資の理論		
11	平均費用と限界費用についての理解			26	IS 曲線の導出		
12	利潤最大化と生産量の決定			27	LM 曲線の導出		
13	損益分岐点と操業停止点			28	財政政策の効果		
14	独占企業の生産量決定			29	金融政策の効果		
15	市場均衡とその安定性			30	経済成長の源泉		
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当部分に目を通しておくこと。 復習：配布資料および講義ノートに目を通すこと。						
教科書	石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 1 マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 2 ミクロ編』						
成績評価	毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 試験:70%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済史		千枝 大志	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		本科目では、経済史的視点から日本の歴史的変遷過程を概観した上で、現代社会の構造を俯瞰できるようになることを目的とする。具体的には、旧石器時代から令和の時代まで、とりわけ 7 世紀から 21 世紀初頭までの経済史を概説していく。その際、三重県を含む東海地方を地域経済史の事例対象地として捉え、それを適宜取り上げていく予定である。それは東海地方の経済史には日本全体に影響を及ぼす史的特質が認められ、また、そのような特質は現代まで連綿と繋がる東海地方の社会経済面での史的土壌の形成にも深く結びついていると考えるからである。					
到達目標		経済の視点からみた日本が歩んだ歴史に関する基本的知識を習得し、その史的潮流を理解することができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	授業を始めるにあたって			16	開港と日本経済の近代化		
2	経済史的視点からみた古代以前の日本			17	明治政府の殖産興業政策と民間企業		
3	貨幣と文字からみた古代の日本経済			18	近代産業の勃興		
4	荘園公領制と中世前期の日本経済			19	鉄道業の発展		
5	中世の貨幣と信用			20	「明治啓蒙」の思想		
6	中世経済の構造変化			21	近代における企業家の動向		
7	大名領国制と中世後期の日本経済			22	日清・日露戦争と日本経済		
8	近世経済の成立			23	第一次世界大戦と日本経済		
9	近世前期から中期の貨幣と信用			24	世界恐慌と関東大震災		
10	近世前期の経済動向			25	アジア・太平洋戦争と日本経済		
11	近世経済の成熟			26	日本の敗戦と戦後復興		
12	近世経済の構造変化			27	日本の高度経済成長		
13	近世後期から末期の貨幣と信用			28	経済大国への道と貿易摩擦		
14	近世経済の終焉			29	バブル経済とその後の日本経済		
15	前近代における日本経済（まとめと確認）			30	近・現代における日本経済（まとめと確認）		
予習内容 復習内容		予習：授業中に紹介する参考文献等を通読することなど。 復習：配布資料やノートの整理を行なうことなど。					
教科書							
成績評価		評価は、中間試験（35%）、定期試験（35%）、出席時に提出するレポート内容（複数回）及び積極的な修学姿勢（30%）の合計で行う。合計が、60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とする。また、公欠を除き 1/3 を超える欠席をした者は評価の対象外とする。					
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
金融論		石原 洋介	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		日本の金融システム、金融市場、金融商品、金融政策及び過去の金融危機の背景などについて、最新のデータを示しながら概要を解説し、現代社会で必要とされる金融に関するリテラシーを身につけられるようにする。また、レポート課題を通じて、金融に関する今日的な課題に対して専門的な知識に基づき考察する力を伸ばす。					
到達目標		・金融リテラシーを身につけ、今後の人生において金融を適切に利用できるようになる。 ・金融に関する社会問題について専門知識に基づいて考察し、自分の考えを論理的に展開できる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、貨幣の歴史①、貨幣の起源			16	国債②、国債価格、国債格付け、発行の仕組み		
2	貨幣の歴史②、日本の貨幣史			17	短期金融市場①、インターバンク市場		
3	商品と貨幣①、商品交換と貨幣の発生			18	短期金融市場②、オープン市場		
4	商品と貨幣②、貨幣の発展段階と金本位制			19	長期金融市場①、証券取引所、債券市場		
5	貨幣の機能①、貨幣の機能			20	長期金融市場②、株式市場		
6	貨幣の機能②、信用創造とマネーストック			21	日本銀行と金融政策①、沿革、3つの機能		
7	資金循環①、資金循環と企業の資金調達方法			22	日本銀行と金融政策②、伝統的金融政策		
8	資金循環②、間接金融と直接金融			23	日本銀行と金融政策③、非伝統的金融政策		
9	日本の金融機関①、日本の銀行			24	国際収支と外為市場①、国際収支		
10	日本の金融機関②、協同組合系金融機関など			25	国際収支と外為市場②、外国為替取引、為替相場		
11	日本の金融機関③、保険業、ノンバンク			26	国際収支と外為市場③、外国為替市場		
12	日本の金融機関④、証券業、政府系金融機関			27	デリバティブ市場①、取引の概要、先物取引		
13	銀行融資と金利①、プライムレートと金利			28	デリバティブ市場②、スワップ、オプション		
14	銀行融資と金利②、金利の構成要素と変動要因			29	サブプライム危機①、危機発生の背景		
15	国債①、国債の種類			30	サブプライム危機②、今後の教訓		
予習内容 復習内容	予習：事前配布するレジュメに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。						
教科書	特定のテキストは使用しない。單元ごとにレジュメを配布する。						
成績評価	毎回提出する質問カードの内容（30％）、課題レポート（70％）						
実務経験							
その他 特記事項	経商コースの学生は、関連講義として「統計学」、「経済原論」、「経済政策」、「簿記原理」、「財政学」、「国際経済論」等を履修することが望ましい。また、新聞を毎日読むように。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
財政学		大畑 智史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。					
到達目標		①国家財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②国家財政の現状について専門的に理解することができる。 ③国家財政の課題解決策について専門的に考察することができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション：財政とは			16	法人課税：理論		
2	財政学の歴史：ワグナーまで			17	法人課税：制度		
3	財政学の歴史：現代まで			18	中間テスト：日本財政を考える		
4	財政の範囲			19	消費課税：理論		
5	財政の機能：資源配分、所得再分配			20	消費課税：制度		
6	財政の機能：経済安定化			21	資産課税：理論		
7	公共財：定義			22	資産課税：制度		
8	公共財：政治的側面から			23	国際課税：理論		
9	予算：予算原則			24	国際課税：制度		
10	予算：予算の内容			25	公債：理論		
11	予算：特別会計、決算、他			26	公債：制度		
12	租税の基礎：租税の基礎用語			27	国と地方との財政関係：特定補助金		
13	租税の基礎：租税原則			28	国と地方との財政関係：一般補助金		
14	個人所得課税：理論			29	社会保障：理論		
15	個人所得課税：制度			30	社会保障：制度		
予習内容 復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。						
教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。						
成績評価	中間テスト：20％ 講義内容についての感想（4 回）：20％ 定期試験：60％						
実務経験							
その他 特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営学		浅野 和也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。あわせて、企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていきます。						
到達目標	経営学の基本学説や諸理論について理解・説明できる。 企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、企業が抱える諸問題について理解・説明できる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス：授業の進め方		16	行動科学論			
2	企業の基本形態と特徴		17	日本的経営の特質の制度			
3	株式会社制度		18	日本的経営の短所・諸問題			
4	管理の役割と目的		19	事例分析：自動車（生産）			
5	経営組織とは何か		20	事例分析：自動車（労働）			
6	経営戦略とは何か		21	戦前の日本企業の特徴			
7	アンゾフ・ポーターの戦略論		22	財閥の展開：総合財閥			
8	コンビニ：ビジネスモデル		23	財閥の展開：新興財閥			
9	コンビニ：新たな成長と諸問題		24	ビッグビジネス：鉄鋼			
10	ゲーム産業：市場の創造		25	ビッグビジネス：石油			
11	ゲーム産業：市場の変化		26	ビッグビジネス：化学			
12	携帯電話：ガラケーの成長		27	ワークライフバランス			
13	携帯電話：スマホの急成長		28	ダイバーシティ			
14	科学的管理法と大量生産方式		29	グローバル化の功罪			
15	人間関係論の生成と展開		30	総括：企業経営の諸課題			
予習内容 復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。						
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。						
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）：20%						
実務経験							
その他 特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論 I		中畑 裕之	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	テキストをベースにマーケティングの基本的な考え方や手法を学ぶとともに、それを基に個人やグループで調査や製品の企画案を考えたり、価格設定やPR・販売方法を考えたりしてもらいます。マーケティングの基本的知識を身に付けるとともに、日常生活の中でもマーケティングを意識できるようになることを目指します。						
到達目標	- 顧客志向、市場志向など、マーケティングの基本的な考え方を理解する。 - マーケティングリサーチ、マーケティング戦略などの基本的知識を身に付ける。 - 日常目にするモノやサービスから企業や製品の戦略を読取ったり、それに関心を持つことができる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーション、マーケティングとは		16	価格設定 1：新製品の価格設定、心理的価格設定、区別的価格設定			
2	基本概念：ニーズとウォンツ、マーケティングコンセプト、顧客志向		17	価格設定 2：希望価格・オープン価格、価格の維持、割引、リベート			
3	社会変化とマーケティング 1：マネジリアル・マーケティング、コンシューマリズム		18	日常目にする商品の価格を考える：授業内ワーク			
4	社会変化とマーケティング 2：ソーシャルマーケティング、リスクマネジメント		19	販売チャネル：チャネル政策、チャネルの構築、流通システム			
5	マーケティング計画：マーケティング計画、マーケティング・ミックス、予算制約		20	流通の理解 1：流通業の機能、流通業の業態と特徴			
6	マーケット環境の把握：影響要因、組織、セグメンテーション、ポジショニング、ターゲット		21	流通の理解 2：情報システム、ロジスティクス			
7	マーケティングリサーチ 1：マーケティングリサーチ、実査の方法		22	販売チャネルの選択を考える：授業内ワーク			
8	マーケティングリサーチ 2：対象とマーケティングリサーチ（エリア、グローバル、ニッチ）		23	マーケティングコミュニケーション（プロモーション）：手段、戦略			
9	マーケティングリサーチ 3：ビッグデータ、インターネット、SNS		24	コミュニケーション：コミュニケーションの目的、CRM、広告			
10	調査の企画案を考える：授業内ワーク		25	販売活動：販売計画、セールス・プロモーション人的販売、消費者の組織化			
11	製品：製品の考え方、新製品開発のプロセス、製品計画とマーチャンダイジング		26	最適なマーケティングコミュニケーションを考える：授業内ワーク			
12	製品管理 1：製品差別化、製品ライフサイクル、製品ポートフォリオ、製品ラインと製品ミックス		27	地域のマーケティングについて考える			
13	製品管理 2：ブランド、ブランディング、パッケージ、サービス		28	ブランドについて：事例研究			
14	製品の企画案を考える：授業内ワーク		29	企業経営の中でのマーケティング、マーケティング担当者（マーケター）の役割			
15	価格戦略：価格の設定方法、考え方		30	講義全体の振り返り			
予習内容 復習内容	予習：テキストを事前に読む。 復習：その日の授業を振り返るとともに課題に取り組む。						
教科書	野口智雄「マーケティングの基本」第 4 版（日経文庫ビジュアル）						
成績評価	定期試験 50%、出席 50%（課題提出等含む）						
実務経験	株式会社百五総合研究所にて、ビジネスマッチングや販路開拓支援などに従事。						
その他 特記事項	その日（2コマ分）の講義内容を基にした課題（レポート）を課しますので、提出忘れずに。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
簿記原理		大井 幸助	講義	4		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	日商簿記検定 3 級の試験範囲を学習します。 机上の学習だけではなく、実務的な目線を交えて講義を行います。 簿記初学者の方が簿記の基礎を理解できることを目的とします。						
到達目標	日商簿記検定 3 級に合格できる実力を身につけること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	簿記の基礎		16	試算表			
2	記帳のルール		17	決算			
3	仕訳と勘定記入		18	決算整理（現金過不足）			
4	三分法		19	決算整理（貯蔵品・当座借越）			
5	掛け取引		20	決算整理（売上原価）			
6	返品・諸掛		21	決算整理（貸倒れ）			
7	商品有高帳		22	決算整理（減価償却）			
8	現金・預金		23	決算整理（前払・前受）			
9	小口現金・売掛金		24	決算整理（未収・未払）			
10	手形取引・でんさい		25	決算整理後残高試算表・精算表			
11	さまざまな帳簿の関係		26	帳簿の締め切り			
12	貸付金・借入金		27	決算書・株式の発行			
13	有形固定資産		28	剰余金の配当と処分・税金			
14	仮払金・仮受金		29	証憑と伝票			
15	訂正仕訳・試算表		30	総合問題解答及び解説			
予習内容 復習内容	予習：該当箇所についてテキストを通読しておく。 復習：講義内で実施する筆記問題を反復練習。						
教科書	合格テキスト日商簿記 3 級（T A C 出版）						
成績評価	定期試験（80％）、出席時に提出するレポート内容（20％）						
実務経験							
その他 特記事項	講義には電卓（12 桁）を使用します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会計学		田中 里美	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		会計学では、企業が公表する決算書を市民の視点から読み解けるように学習する。決算書とは、財務諸表とも呼ばれ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等から構成される。これらの決算書が読めるようになると、企業の財産や利益、資金の流れがわかり、企業の業績を評価することができる。 本講義では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学習し、決算書が読めると付加価値や内部留保、粉飾決算等、さまざまな事が分析できるという事を学習する。					
到達目標		1 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学ぶ 2 決算書の基礎的な知識を基に、付加価値分析や内部留保分析や法人税負担率の分析を学ぶ 3 粉飾決算がどのようにして生じるのかを学ぶ					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンスー会計学とは			16	損益計算書の応用と包括利益計算書		
2	社会科学としての会計学			17	貸借対照表項目の応用		
3	会計基準のグローバル化			18	株主資本等変動計算書		
4	貸借対照表の構成要素について			19	比率分析のまとめと小テスト③		
5	損益計算書の構成要素について			20	法人企業統計と付加価値分析		
6	会社の種類と会計基準			21	内部留保の社会問題化		
7	決算書の入手の仕方、基本指標について			22	内部留保分析について		
8	損益計算書の読み方			23	私立大学の経営分析		
9	貸借対照表の読み方			24	実質法人税負担率の算定分析		
10	貸借対照表と損益計算書のまとめと小テスト①			25	受取配当益金不算入について		
11	比率分析の基礎知識			26	付加価値分析と富の分配		
12	収益性の分析			27	キャッシュ・フロー計算書について		
13	財務安定性の分析			28	企業評価とオリンパスの粉飾決算		
14	経営分析指標の平均値と同業他社の比較方法			29	各種分析のまとめと小テスト④		
15	比率分析のまとめと小テスト②			30	小テストの講評と全体の総括		
予習内容 復習内容		予習：教科書に目を通しておく 復習：ノートの整理、教科書をもう一度目を通す					
教科書		『市民が学ぶ決算書』唯学書房					
成績評価		小テスト（4回）60%（1回15%）、期末レポート40%。なお、出席は毎回取ります。					
実務経験							
その他 特記事項		電卓の用意が必要。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		浅野 和也	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえつつ、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察していきます。同時に、①卒業論文の基礎作りとテーマ選定を行います。②グループディスカッション（GD）で議論を通じてゼミ生同士の理解を深めます。皆さんの学習・研究に対する自主・自立を培うことが最大の目的です。						
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：演習の進め方						
2	テーマの選定						
3	問題意識の確認						
4	論文執筆の意義						
5	論文の起承転結						
6	文献通読・報告：資本主義社会の問題						
7	文献通読・報告：働くとは						
8	文献通読・報告：非典型雇用						
9	文献通読・報告：労働のブラック化						
10	文献通読・報告：ワークライフバランス						
11	文献通読・報告：新たな働き方の進展						
12	グループディスカッション：テーマ選定と資料作成						
13	グループディスカッション：資料作成						
14	グループディスカッション：発表						
15	総括：課題解決に必要なこと						
予習内容 復習内容	予習：資料・GD のテーマについて自分の考えをまとめる。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて予習したことをふりかえりまとめる。						
教科書	未定。テーマに合わせて決定します。						
成績評価	毎回の出席は必須。平常評価（ゼミでの発言、提出物など）100%。						
実務経験							
その他 特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生の皆さんです。積極的な発言・主体的な行動を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		石原 洋介	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		・経済学・金融論の入門書を輪読する。一定分量の内容を学生が報告し、それに基づき討論することで内容の理解を深める。 ・2年次の演習に向けた準備として経済学・金融論の基本的知識を学習し、それに加えてテキストの要約レジュメの作成、プレゼンテーションやディスカッションのやり方などを修得することを目的とする。					
到達目標		・経済・金融論の基本的知識を身につけ、現代的な課題について論理的に考察できるようになる。 ・テキストを要約し、それを発表したり、討論に参加して自説を展開することができるようになる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス。ゼミ内委員の決定、報告の順番決めなど。						
2	金融とは何か						
3	日本銀行は「銀行の銀行」						
4	日本銀行は「政府の銀行」						
5	小論文コンクールに向けた中間報告						
6	日本銀行は「発券銀行」						
7	紙幣の発行について						
8	日本銀行の設立						
9	小論文コンクールに向けた論文指導						
10	金融政策の仕組み						
11	日銀の政策委員会						
12	ゼロ金利政策						
13	「異次元」緩和政策						
14	景気の動向を監視						
15	アメリカの中央銀行 F R B						
予習内容 復習内容	予習：報告担当はレジュメの作成、その他の学生はテキストを読み疑問点を考えておくこと。 復習：テキスト・講義レジュメを見返し、内容をしっかり理解すること。						
教科書	・池上彰『改訂新版日銀を知れば経済が分かる』平凡社新書、2017 年						
成績評価	ゼミでの報告及び討論への参加（100％）						
実務経験							
その他 特記事項	・出版状況や学生の興味関心に応じてテキストは変更する可能性がある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		大畑 智史	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	地方創生は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方創生に向けた対策に関する議論などの取組みを通じ、履修生が、日本の地方が抱える問題の解決策を専門的に考えられるようになることを目標とします。						
到達目標	①地方創生の基礎的概念を理解できる。 ②地方創生の取組みなどの現状を理解できる。 ③地方創生策について専門的に考察することができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション：地方創生の概観						
2	地方創生とは何か：理論						
3	地方創生とは何か：実際						
4	記事講読、レポートテーマについて、国家財政						
5	記事講読、レポートテーマについて、地方財政						
6	記事講読、レポート経過報告、人口動態						
7	記事講読、レポート経過報告、ICT 活用						
8	レポート経過報告会						
9	記事講読、レポート経過報告、まちづくり						
10	記事講読、レポート経過報告、地域資源						
11	記事講読、レポート経過報告、財源確保						
12	記事講読、レポート経過報告、社会保障						
13	記事講読、レポート経過報告、公共財						
14	記事講読、レポート経過報告、公民連携						
15	レポート最終報告会：地方創生の実現に向けて						
予習内容 復習内容	予習：次回の報告テーマについて調べる。 復習：今回の議論の内容と自分のレポートの内容との関連性を考え、これを整理する。						
教科書	教科書は特に指定しません。本演習関連の文献については、適宜紹介します。						
成績評価	出席（演習時の発言）：20% レポート関係（報告・議論・提出）：80%						
実務経験							
その他 特記事項	・できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。 ・2年次演習は、原則として、財政学演習所属となります。 ・学外学習を実施する予定です。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		田添 篤史	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	演習で必要となる、経済学からの社会の捉え方の基礎を学ぶ。文献のまとめ方、論文の執筆方法などを習得し、演習へとスムーズに移行できるようになることを目的とする。 加えて文献の輪読を行い、自己の担当回の発表を行うことを通じて発表の方法についても学ぶ。						
到達目標	① 現在の経済がどのような課題に直面しているかについて、自分の意見を持つことができる。 ② 文献のまとめ方、発表の方法を習得する。 ③ 論文をどのように書けば良いかについて理解する。						
回	学習内容						
1	基礎演習の目標および評価方法の説明						
2	論文とは何か						
3	論文の構造と各論の展開について						
4	参考文献の探し方と引用の方法						
5	発表の方法						
6	統計データの探し方						
7	経済学はどのように社会を理解しようとしてきたか						
8	グラフの作成方法とその解釈の仕方						
9	マクロ経済をどのように測定するか						
10	経済格差の問題とその対処						
11	経済成長はなぜ発生するのか						
12	格差は経済成長に影響を与えるのか						
13	制度が経済成長に及ぼす影響						
14	経済の状態と政治						
15	経済成長と民主主義						
予習内容 復習内容	予習：授業中に指定した文献について事前に読んでおくこと。 復習：基礎演習で行ったディスカッションについて振り返ること。						
教科書	受講者と相談のうえで決定する。						
成績評価	ディスカッションへの参加態度：100%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		田中 里美	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		大学で研究することの基礎を学ぶ。まず、資料の収集の仕方や図書館の使い方を学ぶ。次に、社会科学をテーマとした自己の研究テーマを探究し、決定する。そして、2 年次演習で卒業論文を作成するためのレポートをまとめる。研究テーマの探究の過程やレポートは一人一人、授業において報告をすることで、各人の研究を進めていく。					
到達目標		1 研究の仕方について学ぶ。 2 各人の研究テーマを見つける。 3 研究レポートを作成する。					
回	学習内容						
1	ガイダンスー基礎演習で学習したい事の確認						
2	図書館の使い方や経商コースでの学習の仕方について						
3	会計学を学ぶにあたって						
4	各人の研究テーマの探究ー決算書（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
5	各人の研究テーマの探究ー比率分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
6	各人の研究テーマの探究ー経営分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
7	各人の研究テーマの探究ー内部留保分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
8	各人の研究テーマの探究ー粉飾決算（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
9	会計学的視点からのディスカッション						
10	経営分析的視点からのディスカッション						
11	2 年次演習に向けたレポートの報告 業界の経営戦略						
12	2 年次演習に向けたレポートの報告 業界分析						
13	2 年次演習に向けたレポートの報告 業種別分析						
14	2 年次演習に向けたレポートの報告 業種比較						
15	2 年次演習に向けたレポートの報告と提出						
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す。自分の研究テーマを考える。 復習：研究テーマのレポートを作成する。						
教科書	初回の授業で指定する。						
成績評価	授業への積極的な参加と報告、発言 20%、レポートの提出 80% 合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	ゼミ生同士の親睦も深めたいと思うので、積極的な参加を求める。 ゼミ生の人数により、スケジュールが変わることがある。 正規時間外に学習を行うことがある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		鷲尾 和紀	演習	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的		後日揭示					
到達目標							
回	学習内容						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
予習内容 復習内容							
教科書							
成績評価							
実務経験							
その他 特記事項							

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治経済学	深井 英喜	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経済学の基本的な考え方である理論経済学には、近代経済学と政治経済学（または社会経済学）という2つの体系があります。この講義では、政治経済学の体系を学習します。具体的には、マルクス経済学、ポスト・ケインズ派経済学、そして制度学派経済学といった経済学の考え方を扱います。経済学や経営学の考え方の基礎を学習することが、この講義の目的です。					
到達目標	理論経済学は、経済学そして経営学の考え方の基礎となります。経済学が資本主義社会をどのように見るのか、その基礎的な考え方を学習することを通して、学生は、経済学や経営学を学ぶための基礎を習得します。					
回	学習内容					
1	ガイダンス : 経済学を学ぶということについて。また、経済学が考えようとしている課題について。					
2	商品と価値 : 資本主義社会の基本的な特徴①					
3	貨幣の諸定義 : 資本主義社会の基本的な特徴②					
4	価値と価格① : 市場の働きとその役割について考える					
5	価値と価格② : 市場競争の役割と、市場がうまく働く条件について考える					
6	資本主義的生産の仕組み					
7	剰余価値の生産① : 利潤はどこから生じるのか					
8	剰余価値の生産② : 利潤が増えるメカニズム。また、その結果、社会はどのような影響を受けるか。					
9	資本の蓄積と再生産① : 社会はどのように維持されるのか（単純再生産）					
10	資本の蓄積と再生産② : 経済はどのように成長するのか					
11	技術革新と雇用① : 技術の進歩によって経済はどのように成長するのか					
12	技術革新と雇用② : 技術の進歩によって社会はどのような影響を受けるのか					
13	生産様式と労働の包摂 : 資本主義社会と労働環境について考える					
14	金融市場の構造とメカニズム : “お金”とは何か。そして、“お金”はどのようにして生まれるのか					
15	講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習として日頃から社会経済ニュースに関心をもつ。 復習は講義の内容を自らのノートにまとめる。					
教科書	レジュメを配布する。					
成績評価	中間課題 30%。期末試験 70%。 ミニツツペーパーの内容で10点を上限に加点。					
実務経験						
その他 特記事項	非常勤のため、講義の後の休み時間をオフィスアワーとする。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
日本経済論		鈴木 伸	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この授業では経済学の観点から日本経済の変容を捉えていくことを目的とする。日本経済は 1990 年代を境い目に転換期を迎え、格差拡大に代表されるように様々な課題を抱えている。将来を考えていく上でこうした問題を自分の頭で考えていくことは必要不可欠といっても過言ではないだろう。授業では経済学の分析視角を学ぶとともに、日本経済に関する幅広い論点を取り扱っていく。また日本経済を分析し自らの意見を述べる方法論についても扱っていく。						
到達目標	①多様な観点から日本経済について複合的に見ていくことができるようになる。 ②経済学の分析視点を身に着け、日本経済を論じることができるようになる。 ③得た知識と分析枠組みを用いて、日本経済について自らの考えを述べられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：日本経済をどう捉えるか						
2	世界経済はどこで歪んだのか						
3	日本経済の歩み：日本型経済システムの成立と解体						
4	平成の「失われた 30 年」と日本経済の構造変化						
5	キャッシュレス経済の現状と課題						
6	グローバル化は国民を豊かにするのか：変質する自由貿易の理念と通商政策						
7	劣化する労働環境と「働き方改革」						
8	ベーシック・インカムは社会保障の核となり得るか：現金給付の意義とは						
9	国民皆保険制度は本当に持続的か：制度危機の処方箋の検討						
10	農山村の内発的発展と財政：林業・木材産業をケースに						
11	経済成長・格差・少子高齢化						
12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化：NPO、社会的企業、CSR、ESG 投資のゆくえ						
13	情報化、IoT 時代がもたらす未来社会の「姿」						
14	日本経済はどこへ行くのか？（全授業のまとめとレポートの書き方について）						
15	ディスカッション：日本経済を論じよう						
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、毎授業提出のコメントシートに疑問点を書く。 復習：授業後にコメントシートを提出し、授業で学んだことを提出する。						
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済（仮）』鉾脈社						
成績評価	コメントシートの提出：40% 授業で別途出す課題：20% 最終レポート：40%						
実務経験							
その他 特記事項	コメントシートはオンラインベースで行う。また 15 回目のディスカッションはプレゼンをしてもらう予定だが、受講生数等を踏まえ最終的に決定する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際経済論		石原 洋介	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	・現代グローバリゼーションの特徴と課題を探るため、ブレトンウッズ体制の成立と崩壊過程を概観し、日本と東アジアにおいてグローバル化が与えてきた経済・金融・政治への影響を解説する。 ・国際社会の一員またはアジアの一員としての視野を身につけ、レポート作成を通じて、現代の国際的課題に関する認識を深めるとともに、課題に対する考察力を伸ばす。						
到達目標	・現代グローバリゼーションの特徴、問題点を理解することができる。 ・国際社会や東アジア地域が現在取り組んでいる課題を理解し、今後の日本の関わり方について自分なりに考察し、自分の考えを論述できるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（評価方法、レポート課題等）						
2	自由貿易理論と保護貿易理論、比較生産費説と幼稚産業保護論						
3	戦後ブレトンウッズ体制①——IMF（国際通貨基金）——						
4	戦後ブレトンウッズ体制②——世界銀行——						
5	戦後ブレトンウッズ体制③——GATTからWTOへ——						
6	新自由主義理論の台頭						
7	アジア通貨危機① 危機発生 of 諸要因						
8	アジア通貨危機② 危機発生 of 諸要因（つづき）と危機の拡大過程						
9	アジア通貨危機③ 通貨危機への対応の2つの道						
10	アジア通貨危機④ 通貨危機再発防止への取り組み						
11	グローバリズムとリージョナリズム① FTA急増の背景						
12	グローバリズムとリージョナリズム② 日本のFTA戦略						
13	グローバリズムとリージョナリズム③ TPPを考える						
14	グローバリズムとリージョナリズム④ TPPと食の安全						
15	新たなグローバリズムの可能性						
予習内容 復習内容	予習：事前配布するレジュメに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。						
教科書	特定のテキストは使用しない。単元ごとにレジュメを配布する。						
成績評価	毎回提出する質問カードの内容（30％）、課題レポート（70％）						
実務経験							
その他 特記事項	普段から新聞・ニュースを見る習慣を身につけること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済政策		熊澤 大輔	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		本科目は、資本主義経済の特徴を理解することで、現代的な諸問題（不況、失業、格差、財政赤字、少子高齢化など）について考察するために必要な基礎知識を身につけることを目的としています。授業前半では、資本主義経済の運動（成長と景気循環）、市場のメカニズムについての理論的な説明を行います。授業後半では、前半の知識を活かしながら、統計資料を読み解き、1980 年以降の日本経済について景気と経済政策の関係を中心に分析していきます。数学的な手法を用いる場合がありますが、図解してなるべく平易に解説するよう努めています。					
到達目標		・資本主義経済の運動について理解する。 ・市場における分配のメカニズムを理解する。 ・景気に応じて適切な経済政策を考えられるようになる。					
回	学習内容						
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済学説の発展）						
2	資本主義経済の特徴（成長と分配）						
3	資本主義経済の長期的運動（蓄積、拡大再生産、労働生産性の上昇）						
4	市場のメカニズム①生産可能性集合、交換の利益						
5	市場のメカニズム②労働力の交換、所有分布の偏り、比較優位						
6	市場のメカニズム③利潤最大化、労働の搾取						
7	資本主義経済の短期的循環運動（景気循環発生のメカニズム）						
8	景気のコントロール①金融政策（利子率の決定、買いオペ、売りオペ、インフレ目標政策）						
9	景気のコントロール②財政政策（限界消費性向、租税、乗数効果）						
10	景気のコントロール③一般均衡モデル（労働市場と財市場の関係）						
11	日本経済①1983-1993 バブル形成と崩壊						
12	日本経済②1993-2003 長期不況と財政赤字						
13	日本経済③2003-2013 構造改革と雇用環境						
14	日本経済④2013-現在 アベノミクスの功罪						
15	総論（復習、まとめ）						
予習内容 復習内容		予習内容：授業用資料の確認					復習内容：授業用資料の復習。分からない点を重点的に。
教科書		毎回パワーポイントを配布する。					
成績評価		出席時に提出する質問・要望・感想（10%）					中間レポート(40%) 期末レポート(50%)
実務経験							
その他 特記事項		レジュメの配布や出欠管理・レポート提出などすべて Google の Classroom を用いて行います。授業内容は簡単ではありませんが、経済が日々の生活に直結する身近なものと意識できるような内容になっているかと思います。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域経済学		南 慎二郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	我々の日常生活において最も密接に関わるものとして地域経済社会がある。地域といった場合、一定の狭い空間範囲で区切られたローカルの存在であるが、一方で、現代におけるグローバル化・分権化・人口減少の潮流の中で地域は直接的に影響を受けることとなる。そのような地域における経済社会をどのように維持・発展させるかは、誰にとっても直面し、取り組まねばならない課題である。本講義では地域経済の理論やこれまでの学説、現実の地域経済の課題や政策を検討する。						
到達目標	①地域経済に関する基本的な概念や問題を幅広く理解し、説明することができる。 ②具体的な地域経済に関する問題を把握し、論じることができる。						
回	学習内容						
1	地域経済学とはなにか：地域概念、地域経済学の構成、都市と農村						
2	地域の経済理論：チューネン等の立地論の系譜とその理論						
3	地域経済の分析法、産業連関、費用便益、地域の政治経済学						
4	地域経済と地域システム：立地論からシステム論へ、地域システムと企業システム、産業クラスター						
5	地域経済と都市論：都市の経済学的定義、田園都市論						
6	地域経済の都市化：集積利益、社会的分業の進行						
7	資本主義と地域経済：都市化の進行、グローバリゼーション						
8	地域経済と都市問題の深刻化：集積不利益、公共政策の拡大、現代的貧困						
9	地域問題と地域政策：地域政策効果の考察、政府の失敗、TVA(テネシー川流域開発公社)の実践						
10	地域政策と内発的発展論						
11	日本の国土開発の歴史と地域経済：全国総合開発計画、国土形成計画						
12	日本の大都市圏の現状と展望：首都圏						
13	地方都市の内発的発展：石川県金沢市						
14	農山村の内発的発展：岡山県新庄村、大分県由布院						
15	創造都市論：イタリア・ボローニャ						
予習内容 復習内容	予習：参考書や講義内で提示する参考資料・URLを読む。 復習：その回に指示した参考文献、その回の講義資料を読む。						
教科書	教科書は使用しない。講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。						
成績評価	授業内で実施する小課題 50%、レポート課題 50%						
実務経験							
その他 特記事項	全般的に関係する参考文献として以下を紹介しておく。宮本憲一、横田茂、中村剛治郎(編)『地域経済学』有斐閣、1990年。中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、2008年。岡田知弘、川瀬光義、鈴木誠、富樫幸一『国際化時代の地域経済学〔第4版〕』有斐閣、2016年。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方財政論		南 慎二郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	グローバル化・分権化・人口減少のなかで、地方自治とその経済的側面である地方財政への関心が高まっている。分権時代の自治体のあり方や公共政策を考えるためには、地方財政について学ぶことが不可欠である。本授業では、日本の地方財政のしくみと特質を解説するとともに、具体的な地方財政に関する問題や課題を検討する。						
到達目標	①地方財政に関する基本的な概念、法制度を理解し、説明できる。 ②実際の自治体の地方財政に関する問題や課題を把握し、論じることができる。						
回	学習内容						
1	地方財政論の対象領域・特徴・課題、地方財政と地方自治について						
2	地方自治と地方財政の歴史：明治～戦前						
3	地方自治と地方財政の歴史：戦後						
4	予算論：財政民主主義、予算循環、予算制度改革						
5	経費論：地方経費の規模と役割分担、地方経費の概要、地方経費の歴史的動向や今後						
6	地方税：地方税の意義と体系、日本の地方税制度の構造						
7	地方交付税：地方交付税制度の意義、地方交付税のしくみ						
8	国庫支出金：補助金制度、国庫支出金、特定財源保障、国庫補助負担金改革						
9	地方債と財政統制：地方債計画、地方債協議制度・許可制度、自治体財政健全化法						
10	公共事業と公共施設：公共投資の意義・目的、公共投資の制約と公共施設老朽化問題						
11	地方公営企業、地方公社、第3セクター						
12	公営企業による社会資本整備のケース・スタディ：上下水道						
13	自治体再編と地方財政：広域行政、市町村合併、都市制度、道州制や圏域行政						
14	災害・環境対策や社会保障と地方財政						
15	福祉・医療と地方財政、地方財政の展望						
予習内容 復習内容	予習：参考資料の次回テーマの該当箇所を読む(各回最後に指示)。 復習：その回の参考資料の該当箇所や講義資料を読む(各回最後に指示)。						
教科書	講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。						
成績評価	授業内で実施する小課題 50%、レポート課題 50%						
実務経験							
その他 特記事項	地方財政は身近な行政サービスのあり方を規定するものです。我々の生活に直接的に影響し、さらには流動的に動向や制度は変化するものでもありますので、新聞やニュースでの財政や地方自治体運営に関する最新の話題にも関心を向けておいてください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済学史		田添 篤史	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経済学の歴史を学ぶことで、現代の経済学がどのような思想的流れの中で生み出されたのかを理解し、それを通じて経済学の基本的な考え方を把握することを目的とする。 また経済学のなかには主流派のミクロ・マクロ経済学とは異なる多様な考え方があることを知り、経済を様々な視点から捉えることができるようになることについても目的とする。						
到達目標	1 経済学の歴史を学び、どのような学派が存在するのか、それぞれにどのような特徴があるのかを理解した上で、それについて説明できるようになる。 2 現実の経済問題に対して、様々な視点から意見を表明できるようになる。						
回	学習内容						
1	経済学史とはどのようなものか、それを学ぶ理由						
2	アダム・スミス(1)：階級と所得の対応関係、自由取引の利点、分業と生産性						
3	アダム・スミス(2)：萌芽的な労働価値説						
4	リカード(1)：価値構成説と価値分解説						
5	リカード(2)：差額地代説、比較優位論						
6	マルクス(1)：資本主義社会の捉え方						
7	マルクス(2)：公正な賃金であっても発生する搾取						
8	マルクス(3)：物質代謝論						
9	限界革命：方法論の転換						
10	マーシャル(1)：需要曲線の考え方						
11	マーシャル(2)：供給曲線の考え方						
12	ケインズ(1)：新古典派批判とその独自性						
13	ケインズ(2)：有効需要の原理						
14	ケインズ経済学の衰退と新しい古典派						
15	格差と経済成長の要因をめぐる最新の議論						
予習内容 復習内容	予習：授業中に指定された文献を読んでおくこと。 復習：配布資料および授業ノートを整理すること。						
教科書	特になし。授業中に資料を配布する。						
成績評価	毎回の授業で提出するコメントシート:30% 課題レポート:70%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営管理論		奥田 友枝子	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現代の企業の経営管理には、物的資源、人的資源、資金的資源、情動的資源の管理が存在します。本講義では、その管理の仕組みについて学ぶ事を目的としています。特に、企業経営はあくまでも企業内部の人間（ヒト）が主体となってこれら諸資源を利用する時、はじめて企業活動に貢献するという点が特徴です。従って、本講義では「ヒト」の管理に重点を置いています。						
到達目標	① 経営管理論における基礎的な概念を理解することができる。 ② 経営管理論の歴史的展開について主要な学説をもとに理解することができる。						
回	学習内容						
1	はじめに 講義の紹介と授業進行に関する諸注意						
2	管理問題の発生と展開						
3	科学的管理法について フレデリック W・テイラー						
4	科学的管理法と労働問題						
5	大量生産方式の確立（フォード・システム） ヘンリー・フォード						
6	人間関係論 エルトン・メイヨー						
7	欲求階層説 A. H. マズロー						
8	X理論・Y理論 ダグラス・マクレガー						
9	動機づけ＝衛生理論 フレデリック・ハーズバーグ						
10	組織の基礎概念と組織形態 C. I. バーナード						
11	管理的活動について アンリー・ファヨール						
12	管理過程論について ハロルド・クーンツ						
13	企業戦略論 全社戦略 H. I. アンゾフ						
14	企業戦略論 競争戦略 M. E. ポーターほか						
15	本講義のまとめ（総括）						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献を読んでおくこと。 復習：授業のまとめ、考察をノートに書き込んでおくこと。						
教科書	中原翔『経営管理論—講義草稿』千倉書房、2023年。その他、適宜プリント教材を配布します。						
成績評価	出席時に提出する小レポートの内容 30% 学期末課題レポート 70%						
実務経験							
その他 特記事項	授業の進捗状況によって授業内容を変更することがあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営財務論		上木 敏正	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経営財務論は、企業における資本の調達と運用を検討対象とし、財務意思決定者の意思決定をサポートすることを目的としています。講義が進むうちに理解できると思いますが、検討領域は企業内のみに留まらず、外部資本市場を含む包括的なものになります。企業経営に必要な不可欠なこの分野を学習することにより、資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養って下さい。						
到達目標	・経営財務の知識を習得する。経営財務の意義を理解する。 ・経営財務の諸理論を学ぶことにより、論理的思考を身に付ける。 ・資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養う。						
回	学習内容						
1	第 0 章 講義内容ガイダンス 第 1 章 経営財務の本質(前編)						
2	第 1 章 経営財務の本質(後編) 第 2 章 経営財務の目的(前編)						
3	第 2 章 経営財務の目的(後編) 第 3 章 財務計画(前編)						
4	第 3 章 財務計画(後編) 第 4 章 運転資本管理(前編)						
5	第 4 章 運転資本管理(後編) 第 5 章 投資決定(前編)						
6	第 5 章 投資決定(中編)						
7	第 5 章 投資決定(後編) 第 6 章 長期資本調達(前編)						
8	第 6 章 長期資本調達(後編) 第 7 章 資本コスト・資本構成の理論(前編)						
9	第 7 章 資本コスト・資本構成の理論(後編) 第 8 章 配当政策(前編)						
10	第 8 章 配当政策(後編) 第 9 章 企業評価(前編)						
11	第 9 章 企業評価(後編) 第 10 章 ポートフォリオ理論(前編)						
12	第 10 章 ポートフォリオ理論(後編) 第 11 章 資本資産評価モデル(前編)						
13	第 11 章 資本資産評価モデル(後編) 第 12 章 デリバティブ(前編)						
14	第 12 章 デリバティブ(後編) 第 13 章 その他トピックス(前編)						
15	第 13 章 その他トピックス(後編) 講義内容のまとめ						
予習内容 復習内容	予習：配付されたレジュメ・資料を読む。練習問題がある場合は分かる範囲で解いてみる。 復習：学習内容の確認。練習問題があった場合はその解き方などを中心に確認する。						
教科書	テキストは使用しません。レジュメ・資料を配付します。参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	第 15 回講義までのうち合計 10 回以上出席した受講生を対象に、定期試験(100%)で評価します。なお、必要に応じて通常の平常点(出席など；プラスにもマイナスにもなり得る)と「株式学習ゲーム」への参加状況に関する平常点を評価に加味します。						
実務経験							
その他 特記事項	講義の具体的な方針等は第 1 回講義時に説明します。なお、2024 年度は、上記講義内容の学習と並行して「株式学習ゲーム」を活用した学習も予定しています。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
人的資源管理論		奥田 友枝子	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現代社会において、企業は様々な財やサービスを提供することで利益の獲得を目指しています。ここで注意しなければならないのは、物的資源、資金的資源、情動的資源はあくまでも企業内部の人間（ヒト）が主体となってこれら諸資源を利用する時、はじめて企業活動に貢献するという点です。本講義では、企業の「働き方」と「働かせ方」を管理する仕組みについて学習することを目的としています。						
到達目標	① 概念としての人的資源管理の特徴と課題を理解することができる。 ② 日本における人的資源管理の特殊性とその二面性を理解することができる。 ③ 人的資源管理の最新動向とその背景について理解することができる。						
回	学習内容						
1	管理問題の発生と展開						
2	内部請負制と科学的管理法						
3	管理の構造と発展						
4	人事管理論について						
5	ヒトの管理を巡る変遷						
6	労働時間と裁量労働制						
7	従業員の採用と昇格の管理						
8	企業内教育訓練・能力開発の課題						
9	賃金管理と処遇問題						
10	終身雇用制度と退職金問題						
11	女性労働・高齢者雇用について-男女共同参画社会に向けて-						
12	経営戦略の展開と人的資源管理						
13	多様な紛争解決システムと労働組合						
14	日本型人的資源管理の行方						
15	本講義のまとめ（総括）						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献を読んでおくこと。 復習：授業のまとめ、考察をノートに書き込んでおくこと。						
教科書	澤田幹・谷本啓・橋場俊展・山本大造『ヒト・仕事・職場のマネジメントー人的資源管理の理論と展開ー』（ミネルヴァ書房、2016年）						
成績評価	出席時に提出する小レポートの内容 30% 学期末課題レポート 70%						
実務経験							
その他 特記事項	授業の進捗状況によって授業内容を変更することがあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論Ⅱ		鷲尾 和紀	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		後日揭示					
到達目標							
回	学習内容						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
予習内容 復習内容							
教科書							
成績評価							
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
起業論		山川 敏	講義	2		1, 3, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	株式会社三十三総研コンサルティング部の部長（主席コンサルタント）として、日々の企業コンサル業務や企業研修の講師業務等を通じて得た経験をもとに、現在の企業を取り巻く環境の変化等に即した内容の講義を実施します。また、グループ討議等による学生参加型の講義を実施する予定です。						
到達目標	学生による普段生活下での自主的な学習意欲や好奇心を醸成させ、社会人になってからも役に立つ心構えや企業運営を行う上で大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点等を養うことを目標とします。						
回	学習内容						
1	未来を予測して仮説をたてる①：起業の意義と外部環境把握①						
2	未来を予測して仮説をたてる②：外部環境把握②						
3	未来を予測して仮説をたてる③：外部環境把握③と仮説①						
4	未来を予測して仮説をたてる④：外部環境把握④と仮説②						
5	お客様の満足を考える						
6	事例研究①：新製品の考察						
7	事例研究②：新サービスの考察						
8	起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察						
9	自分研究：自分の特長、将来やってみたいこと						
10	経営理念の立て方：基本理念と行動理念						
11	マーケティングと経営戦略①：マーケティングの意義						
12	マーケティングと経営戦略②：勝つための仕組みづくり						
13	決算書の見方と資金繰り①：B/S と P/L の仕組み						
14	決算書の見方と資金繰り②：資金繰表の作成と検証						
15	ビジネスプラン作成						
予習内容 復習内容	予習：日々のニュース（新聞等）に目を通すこと。 復習：毎回の講義を深掘りして考察すること。						
教科書	教材・テキスト等は、当方でレジュメを用意します。						
成績評価	講義終了 10 分前に、当日の理解度を確認するレポートを提出してもらいます。①レポート提出をもって出席確認 2.5 点、②レポート評価で最高 2.5 点（15 回まで満点の場合 5 点×15 回＝75 点）また、ビジネスプランの提出及び評価で最高 25 点、以上の合計 100 点で採点します。						
実務経験	現在、株式会社三十三総研のコンサルティング部長として企業コンサルをはじめ、各種研修会の講師等、現役で業務を行っています。こうした実務経験を活かして、実際のビジネスを取り巻く環境等を十分に理解できる鮮度ある講義になるよう努めます。						
その他 特記事項	一方的に教えるというのではなく、学生同士が共に影響し合いながら考える力を養成する参加型の授業を目指します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
税務会計論		田中 里美	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		税務会計論では、まず課税の概念について学習し、次に企業の法人課税を中心に学習する。加えて消費税について課税の公平の観点から考える。 課税の概念は、憲法から課税の公平について学ぶ。公平の概念には複数あり、どのように課税の公平について考えるのかは重要な課題である。次に、法人課税の仕組みについて学ぶ。益金損金の仕組みや、企業会計とのつながりについて考える。最後に、日本の法人課税の実態を分析する。					
到達目標		1 課税の公平について学ぶ。 2 企業課税の仕組みについて学ぶ。 3 現在の法人課税状況について学ぶ。					
回	学習内容						
1	ガイダンスー税務会計論で学ぶこと。						
2	課税の公平についてー応能負担原則						
3	課税の公平についてー所得税と消費税						
4	企業課税の仕組みー確定決算主義、租税法律主義						
5	企業課税の仕組みー法人課税の歴史						
6	企業課税の仕組みーシャープ勧告						
7	これまでの総括と中間レポート						
8	法人課税の実態ー実質法人税負担率の算定の仕組み						
9	法人課税の実態ー実質法人税負担率の分析結果と推移						
10	内部留保と法人課税						
11	減価償却制度と法人課税						
12	受取配当益金不算入について						
13	租税特別措置						
14	これまでの総括と期末レポート						
15	中間・期末レポートの解説と講評、学生からの意見の集約と講評						
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通しておく。 復習：ノートの整理と、教科書に目を通す。						
教科書	初回授業時に指定する。						
成績評価	中間レポート 50%、期末レポート 50% 合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	会計学を履修していることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
工業簿記及び原価計算		藤田 美咲	講義	2		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品原価の計算についてその基本を理解することを目的とします。						
到達目標	日本商工会議所簿記検定 2 級の工業簿記レベルの実力を修得する土台として、原価計算の基本である個別原価計算と総合原価計算の手法とのその帳簿記入を習得することができる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、原価とは						
2	工業簿記の基礎概念、勘定連絡						
3	材料費、労務費						
4	経費、予定消費単価、予定賃率						
5	個別原価計算						
6	製造間接費の予定配賦、差異分析						
7	部門別個別原価計算						
8	単純総合原価計算						
9	仕損品が存在する場合						
10	工程別総合原価計算						
11	組別総合原価計算、等級別原価計算						
12	財務諸表の表示、本社工場会計						
13	直接原価計算						
14	CVP 分析						
15	まとめ講義						
予習内容 復習内容	予習：前回内容を振り返り、今回内容の前提を確認しておいて下さい。 復習：授業中に扱った問題をもう一度解きなおして下さい。						
教科書	(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記」 TAC 出版						
成績評価	出席は毎回とります。全授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると、評価の対象外とします。 試験 80% に平常点 (出席状況、講義中の態度、問題に取り組む姿勢) 20% を加味して判定します。						
実務経験	公認会計士・税理士として監査法人及び税理士法人での財務諸表監査、決算書作成、税務申告、経営指導、M&A などの実務経験を有する。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。						
その他 特記事項	講義には電卓をご用意ください。 本講義は簿記 3 級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
上級簿記		岡本 大佑	講義	2		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	簿記の知識は資格試験のためだけでなく、実務に役立つものとして多くの企業から求められております。また、企業経理の場面だけでなく、金融・投資・為替など様々なお金の流れを把握できるツールとしても活かすことができます。本授業では、日商簿記 3 級程度の知識を前提として、主に日商簿記 2 級商業簿記の内容を取り上げ、授業と演習を繰り返し行うことにより簿記の能力の定着と向上を図ります。						
到達目標	高度な商業簿記を習得することにより、企業の活動や経営内容を財務諸表の数字から把握することができる。また、机上の知識だけでなく実務に即した簿記知識を身につけることができる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、財務諸表						
2	商品売買						
3	現金・預金（銀行勘定調整）、債権・債務（手形・電子記録債権）						
4	有価証券						
5	有形固定資産（1）						
6	有形固定資産（2）、リース取引、無形固定資産・研究開発費						
7	引当金、外貨換算会計						
8	税金、税効果会計						
9	株式の発行、剰余金の配当と処分、決算手続（1）						
10	決算手続（2）、収益認識基準						
11	本支店会計						
12	合併・事業譲渡、連結会計（資本連結 1）						
13	連結会計（資本連結 2）						
14	連結会計（成果連結）						
15	製造業会計、総復習（全体のまとめ）						
予習内容 復習内容	予習：テキストの授業範囲に目を通しておく。 復習：授業中に扱った問題を再度解き直しておく。						
教科書	初回の授業時に指定します。（日商簿記検定 2 級用の書籍を予定）						
成績評価	定期試験（70%）、平常点（30%）で評価します。 平常点は出席状況や講義に取り組む姿勢等で総合的に判定します。						
実務経験	現在、税理士（名古屋税理士会所属）として税理士事務所とコンサルティング会社を経営しております。税理士の実務経験に基づき、簿記知識がどのように社会に活かされるかを解説していきます。						
その他 特記事項	授業には電卓（10 桁以上のもの）をご用意ください。 本授業は日商簿記 3 級程度の知識があることを前提としております。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論		田中 武士	講義	2	社会福祉士	1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現代社会における生活問題は複雑化、多様化している。このような生活問題について、様々な文献や新聞記事、映像等から現代社会に生きる人々の姿を丁寧にとらえていく。生活上の様々な困難を強いられる人々への眼差しと想像力、共感の姿勢を重視する。憲法 25 条（生存権）にある「健康で文化的な生活」とは何かについて深く考える力と共に、それを論理的に自分の言葉で語ることのできる力の獲得を目的とする。						
到達目標	①現代における社会福祉をめぐる諸問題および社会的背景について関心がもてる。 ②社会保障、社会福祉の制度や政策を検討し、それらに対する自らの意見をもつことができる。 ③憲法 25 条の理念を元に人間らしい生活のあり方について、論理的に考えることができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）						
2	社会福祉とは何か（路上生活者に学ぶ）						
3	現代社会における市民の生活実態						
4	社会福祉と子どもの権利						
5	社会福祉と障害のある人の権利						
6	社会福祉と高齢者の権利						
7	精神保健福祉とは何か						
8	精神保健福祉における課題						
9	精神保健福祉における人権						
10	社会福祉の歴史（社会福祉の理念と思想）						
11	社会福祉の歴史（朝日訴訟、いのちのとりで裁判から学ぶ）						
12	ソーシャルワークとは何か						
13	ソーシャルワークの理論と方法						
14	社会福祉における倫理						
15	まとめ（これからの社会福祉を考える）						
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。						
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。						
成績評価	・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数の 3 分の 1 を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。						
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。						
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会思想史		伊藤 信也	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この講義では、日本の社会思想の歴史に注目して学んでいきます。日本の社会思想の理解を通じて、世界と日本の現代社会のあり方を見直すことを目的としています。近代の歴史に対する理解を深め、誤解を改めるきっかけとなることでしょう。また、この講義では「貧困からの解放」というサブテーマを設定し、そのテーマに沿った社会思想も取り上げていきます。思想家の人間観や、そこから生まれた社会理解を通じて、私たち自身の現代社会に対する理解を再検討することが、社会と私たちとの関係の本質を理解することにつながります。						
到達目標	①日本の社会思想の起源とその誕生、展開から現代的様相までを理解すること。 ②日本の社会思想が、貧困問題や格差問題と関連していることを理解すること。 ③「印象」や「傾向」で社会を見るのではなく、「明確な展望をもって社会と向き合える能力」を養うこと。						
回	学習内容						
1	イントロダクション：社会思想史と日本						
2	18 世紀江戸の民衆思想：日本の「社会思想」以前の思想（新井白石、安藤昌益）						
3	幕末の社会思想：開国要求による幕末の始まり（高野長英、渡辺崋山）						
4	幕末の社会思想：社会運動の本質的問題（佐久間象山、吉田松陰）						
5	明治前期の社会思想：西洋文明との対峙（「明六社」の活動家たち）						
6	明治前期の社会思想：啓蒙の光と影（福沢諭吉）						
7	自由民権運動の思想：自由への探求（中江兆民、植木枝盛）						
8	自由民権運動の思想：女性解放思想の誕生（中島俊子、福田英子）						
9	近代日本キリスト者の思想：内村鑑三の思想と活動						
10	映像学習日：近代日本の貧民救済の歴史（予定）						
11	大正デモクラシーの思想：母性保護論争（平塚らいてう、与謝野晶子、山川菊栄）						
12	大正デモクラシーの思想：社会主義、無政府主義（幸徳秋水、大杉栄）						
13	「昭和」の社会思想：「戦前」思想の諸相（北一輝、戸坂潤、河上肇）						
14	「昭和」の社会思想：「日本」を総括する思想（丸山眞男、竹内好、加藤周一）						
15	全体総括：「令和」の社会思想を考える						
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。						
教科書	なし（毎回プリントを配布します）。必要な資料等はプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は 40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は 40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は 20%）						
実務経験							
その他 特記事項	1. ドキュメンタリーの上映など、映像による資料を随時使用していきます。2. 授業で取り上げる思想家を変更することがありますが、その場合は随時告知します。3. 第 1 週に詳細な「授業計画」ならびに「成績評価方法」、講師への問合せ方法を告知します。履修予定者は第 1 週にできる限り出席しておいて下さい。4. 現代の社会問題に関心の高い受講生の履修を求めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論 I		小野寺 一成	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう、活性化の手法やあり方などを理解することが、本講義の目的となる。 本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、三重県及び県内市町村などの具体例をあげながら講義する。						
到達目標	我が国、特に地方都市において、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン						
2	社会資本の歴史とその役割						
3	社会資本を取り巻く社会の状況						
4	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー						
5	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー						
6	社会資本に関する国土交通行政の方向						
7	観光立国と美しい国づくり						
8	講義前半のまとめと中間試験						
9	東日本大震災からの復興に向けた取り組み						
10	美しく良好な環境の保全と創造						
11	安全・安心社会						
12	競争力のある社会						
13	心地よい生活空間づくり						
14	地域活性化の推進						
15	全講義のまとめ						
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。						
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。						
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。						
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6 判)を予定。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論Ⅱ		南 有哲	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。						
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。						
回	学習内容						
1	はじめにー生物多様性とは何か						
2	生態系サービスとその重要性について						
3	獣害問題についてー現状の概観、特に三重県について						
4	獣害問題についてー背景と対策						
5	林業を考えるー日本林業の現状						
6	林業を考えるー生物多様性保全における林業の役割						
7	外来生物問題ー現状の概観						
8	外来生物問題についてー政府の政策と求められる対策						
9	土壌の問題について						
10	農業とは何かー農業の本質について						
11	農業の多面的機能と生物多様性						
12	日本の食料政策と食料自給率						
13	工業的農業＝資源・エネルギー多投型農業の光と影						
14	水産資源の乱獲問題についてー世界的動向の概観						
15	水産資源の乱獲問題についてー日本における現状と課題						
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。 復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。						
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。						
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%						
実務経験	なし						
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境政策論		南 有哲	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。						
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。						
回	学習内容						
1	はじめに―「人新世」としての現代						
2	自然と人間の関係について						
3	環境問題の一般的構図						
4	環境破壊の人類史―先史時代から中世まで						
5	工業化について						
6	市場経済と共同体						
7	市場経済の必然的所産としての環境問題						
8	市場経済と国家―環境政策の必然性						
9	南北問題の史的背景―新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配						
10	南北問題の現状と環境破壊						
11	気候政策の国際的展開―気候変動枠組条約と京都議定書						
12	気候政策の国際的展開―パリ協定とそれ以降						
13	日本における気候政策の展開―旧自公政権期から民主党政権まで						
14	日本における気候政策の展開―新自公政権期以降						
15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために						
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。 復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。						
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する						
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%						
実務経験	なし						
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報技術論		笠 浩一郎	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを目的とする。講義は、情報技術の基本となる内容が中心ではあるが、専門的な知識も多く紹介する。また、IT パスポート試験、及び、基本情報技術者試験の対策にもなる授業内容である。						
到達目標	コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。						
回	学習内容						
1	コンピュータの歴史、コンピュータの構成						
2	情報の表現 1（2 進数）						
3	情報の表現 2（16 進数、文字コード）						
4	論理演算と論理式						
5	論理回路						
6	ネットワーク 1（LAN と WAN、無線 LAN）						
7	ネットワーク 2（ネットワーク機器、TCP/IP）						
8	ネットワーク 3（WWW、電子メール）						
9	データベース 1（関係データベース、正規化）						
10	データベース 2（SQL、排他制御、障害管理）						
11	アルゴリズムとデータ構造 1（構造化プログラミング）						
12	アルゴリズムとデータ構造 2（データ構造、ソート）						
13	情報理論 1（情報量、符号化）						
14	情報理論 2（オートマトン、形式言語）						
15	機械学習（ニューラルネットワーク、強化学習）						
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。 ほぼ毎回、前回の復習の小テストを実施するので、復習しておくように。						
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。						
成績評価	毎回の小テスト（50%）、期末試験（50%）						
実務経験	なし						
その他 特記事項	なし						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		柏崎 早陽子	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		本演習では、受講生を主体として、文献や判例の研究・報告を通じて刑法の諸問題について検討し、理解を深めます。前期は、興味を持つ研究テーマを選択してもらい、そのテーマについての報告をおこなってもらいます。後期は、前期に選択したテーマについての研究を深め、その内容について報告をおこなってもらいます。本演習の総まとめとして卒業論文の執筆を目指します。					
到達目標		報告や議論、卒業論文の執筆等を通じて、①法的な問題点を発見することができる、②他者を納得させる形で自己の意見を主張することができる、③物事を論理的に説明する力を身につけることができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	前期ガイダンスー本演習の進め方、評価方法等			16	後期ガイダンスー卒業論文の執筆に向けて		
2	法律文献の探し方			17	卒業論文の進捗報告		
3	判例の探し方			18	卒業論文の構成を練る		
4	構成要件該当性について再確認する（※）			19	卒業論文の文献の収集		
5	違法性について再確認する（※）			20	卒業論文の判例の収集		
6	有責性について再確認する（※）			21	卒論報告用の資料作成①：文献の整理		
7	興味のある研究テーマを選択&テーマ報告			22	卒論報告用の資料作成②：判例の整理		
8	卒業論文の執筆方法と研究倫理			23	卒論報告用の資料作成③：学説の整理		
9	報告レジュメの作成方法			24	卒論報告用の資料作成④：結論の整理		
10	卒業論文の中間報告①：文献の報告			25	卒業論文を形にする		
11	卒業論文の中間報告②：判例の報告			26	卒業論文の最終報告①：個別報告&質疑応答		
12	卒業論文の中間報告③：学説の報告			27	卒業論文の最終報告②：個別報告&質疑応答		
13	卒業論文の中間報告④：結論の仮報告			28	卒業論文の最終報告③：個別報告&質疑応答		
14	夏期休暇中の卒業論文の進め方			29	卒業論文の最終報告④：個別報告&質疑応答		
15	前期のまとめ			30	後期のまとめ		
予習内容 復習内容	報告用資料の作成等を通じて予習し、演習内で扱った用語や論点等をふり返ることで復習する。新聞などを通じて時事問題にも触れるのが望ましい。						
教科書	教科書は特に指定しない。ただし、最新の六法を毎回必ず持参すること。その他、演習内で適宜紹介する。						
成績評価	①報告・報告用資料の作成（50％）、②授業への参加態度（50％）とし、①・②をもとに総合評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	発言や報告の内容が間違っていたら恥ずかしい？友人や教員の意見に迎合しないとマズイ？・・・そんなことはありません。間違いをおそれず、素朴な疑問でも何でもぶつけて楽しく演習を進めていきましょう。※マーク＝演習内で扱う内容や判例等については、適宜変更する可能性があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		鎌塚 有貴	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		「憲法Ⅰ・Ⅱ」の講義中では詳細に扱うことのできなかった事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。 各回担当者による報告形式とし、卒業論文の執筆を最終目標とする。					
到達目標		一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理について			16	選挙権		
2	人権総論			17	選挙制度		
3	幸福追求権			18	統治総論		
4	法の下での平等			19	国会の仕組み		
5	思想・良心の自由			20	委員会制度		
6	信教の自由			21	国政調査権		
7	表現の自由			22	議院内閣制		
8	身体の自由			23	外交		
9	経済的自由権			24	裁判所の組織		
10	生存権			25	司法権の独立		
11	教育を受ける権利			26	違憲審査制		
12	学問の自由			27	地方自治		
13	大学の自治			28	財政		
14	婚姻の自由			29	平和主義		
15	国籍			30	天皇制		
予習内容 復習内容		新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書		加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）、その他授業中に指示するもの。					
成績評価		報告 50%、授業への参加態度 50%。					
実務経験							
その他 特記事項		授業計画は適宜変更の可能性がある。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		川上 哲	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		この演習では、政治学や行政学の立場から現代日本の政治・行政の諸問題を扱っていく。前期は主に公共政策や公務員に関わる文献輪読を通じて議論を行い、自らの問題関心を深める。後期は四大公害病、特に四日市公害について理解を深めることと卒業研究を仕上げる。「四日市公害と環境未来館」の見学も行う。適切な質問や議論は自らの問題意識を深める格好の機会であることを学んで欲しい。					
到達目標		①日本の政治や行政への問題関心を深める。 ②自らの見解を分かりやすく伝えることができる。 ③卒論作成を通じ、科学的な態度を身に付ける。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ゼミ概要と評価方法並びに研究倫理に関する講義		16	『四大公害病』① 水俣病			
2	『入門 公共政策学』① なぜ公共政策学か		17	『四大公害病』② 新潟水俣病			
3	『入門 公共政策学』② 問題		18	『四大公害病』③ イタイイタイ病			
4	『入門 公共政策学』③ 設計		19	『四大公害病』④ 四日市公害			
5	『入門 公共政策学』④ 決定		20	『四大公害病』⑤ 公害病と二十一世紀			
6	『入門 公共政策学』⑤ 実施		21	四日市公害と環境未来館の見学前準備			
7	『入門 公共政策学』⑥ 評価		22	四日市公害と環境未来館の見学			
8	『入門 公共政策学』⑦ 公共政策の改善		23	卒業研究の内容についての個別報告			
9	『職業としての官僚』① 日本の官僚の実像		24	資料の収集状況についての個別報告			
10	『職業としての官僚』② 平成期公務員制度改革		25	卒業研究の構成についての個別報告			
11	『職業としての官僚』③ 英米独仏 4 か国からの示唆		26	卒業研究についての個別指導			
12	『職業としての官僚』④ 官僚論から現代への示唆		27	卒業研究についての個別相談			
13	『職業としての官僚』⑤ 結び		28	卒業研究—研究内容の個別報告			
14	卒業研究のテーマ報告		29	卒業研究—質問と討議			
15	卒業研究の方法論報告		30	後期のまとめ			
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。						
教科書	○秋吉貴雄『入門 公共政策学—社会問題を解決する「新しい知」』(中公新書、2017 年) ○嶋田博子『職業としての官僚』(岩波新書、2022 年) ○政野淳子『四大公害病』(中公新書、2013 年)						
成績評価	評価は出席時の発言内容(50%)と報告内容(50%)で評価する。また卒論提出は必須である。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること(無断欠席は大きく評価を下げる)。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。指定された教科書を事前に購入すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		照井 遥瑛	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、著名な判例、著名な学者の論文等から、受講生が興味のある民法に関わるテーマを選択し、報告をしてもらう形式を採る予定です。民法の学習において基礎的知識の修得は勿論大事ですが、特に重要なことは、「ある問題に対する考え方は一つではなく、さらには時代や人が変われば結論も変わる可能性がある」という目線を持つことです。調査・報告・議論を繰り返し、研究成果を卒業論文として残すことは、そのような目線を持つことができるようになるだけでなく、論理的思考力や報告能力の向上にも繋がりますし、どのような進路に進むにしても必要な修練です。						
到達目標	①文献調査・報告等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力を身に付けること。 ②卒業論文の執筆を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	前期ガイダンス（演習の進め方、成績評価方法の説明など）			16	後期ガイダンス（卒論の執筆についてなど）		
2	研究倫理について学ぶ			17	夏休み中の研究成果を報告		
3	判例検索の仕方を再確認			18	卒論の目次を作成してみる		
4	論文検索の仕方を再確認			19	売買後に規制された物質による土壤汚染の判例について検討		
5	各受講生から関心のあるテーマについて報告			20	未成年者の不法行為と監督義務者の責任の学説について検討		
6	執筆計画を立ててみる			21	内縁・事実婚をめぐる法的問題について検討		
7	報告資料をレジュメで作成してみる			22	子の引渡請求をめぐる法的問題について検討		
8	報告資料をパワーポイントで作成してみる			23	無権代理と相続をめぐる法的問題について検討		
9	卒論進捗報告			24	卒論の序論に焦点を当てた報告		
10	各受講生の卒論テーマを決定する			25	卒論で扱う判例に焦点を当てた報告		
11	民法 94 条 2 項の類推適用の判例について検討			26	卒論で扱う学説に焦点を当てた報告		
12	民法 177 条と第三者の学説について検討			27	卒論の結論に焦点を当てた報告		
13	卒論中間報告			28	最終報告用の資料を作成してみる		
14	夏休み中の執筆計画を各自報告			29	卒論最終報告		
15	前期まとめ			30	後期まとめ		
予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジュメ、ノート等で確認すること。						
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、報告テーマを決める上で有意義な書籍については開講時に紹介します。						
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジュメや卒業論文等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、家族法を履修していることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		西川 昇吾	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、労働法学に関する争点・課題について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一同となって研究・討議し、それらを成果として最終的に文章化する。具体的には、毎回、原則として学生1名が、自ら決定した主題に関する判例や法律文献等について報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。 それにより、労働法学に関する諸問題について調査・考察しうる力を養うとともに、自説の打ち立てられた卒業論文を作成することが、本演習の目的である。						
到達目標	① 自己や他者の主題に対して、直観的立場や分析視角をもつことができる。 ② 自ら決定した主題についての結論を得るために、資料を検索する技術等を身につける。 ③ 自己の主題に対する自説を構想し、それを文章で表現・説明しうる力を獲得する。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	研究倫理の確認／賃金カットに関する判例の研究			16	時間外・休日労働に関する法律文献の研究		
2	中間収入の控除に関する判例の研究			17	過労自殺に関する法律文献の研究		
3	労働時間の意義に関する判例の研究			18	男女雇用機会均等法に関する法律文献の研究		
4	労働者の損害賠償責任に関する判例の研究			19	内部告発に関する法律文献の研究		
5	時間外・休日労働義務に関する判例の研究			20	割増賃金に関する法律文献の研究		
6	過労自殺に関する判例の研究			21	採用内定に関する法律文献の研究		
7	男女雇用機会均等法に関する判例の研究			22	卒業論文の執筆方法		
8	内部告発に関する判例の研究			23	争議行為と賃金に関する卒業論文の報告		
9	割増賃金に関する判例の研究			24	中間収入の控除に関する卒業論文の報告		
10	採用内定に関する判例の研究			25	労働時間の意義に関する卒業論文の報告		
11	法律文献の研究手法			26	労働者の損害賠償責任に関する卒業論文の報告		
12	争議行為と賃金に関する法律文献の研究			27	時間外・休日労働義務に関する卒業論文の報告		
13	中間収入の控除に関する法律文献の研究			28	過労自殺に関する卒業論文の報告		
14	労働時間の意義に関する法律文献の研究			29	均等法・内部告発に関する卒業論文の報告		
15	労働者の損害賠償責任に関する法律文献の研究			30	割増賃金・採用内定に関する卒業論文の報告		
予習内容 復習内容	ゼミ生みずからが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。						
教科書	ジュリスト増刊『新・法律学の争点シリーズ7 労働法の争点』（有斐閣、2014年）、および『六法』が必要である。						
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、卒業論文（調査結果の整理、論点の解明、自説の展開等の可否）50%により、成績評価を行う。						
実務経験							
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、自己の主題だけでなく、他者の主題に関する基本的な知識についても、事前に理解したうえで、演習に臨んでほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		古畑 淳	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		共通テーマとして、社会保障行政を舞台として行政法の論点について学習します。また、ゼミ生各自が関心を寄せる行政分野の裁判例について議論、検討します。以上の学びを通じて、行政法の基礎知識を確かなものとするとともに、各行政分野の特性を知り、憲法が定める理念の実現のための行政及び行政の法のあり方について学習します。					
到達目標		文献の講読、裁判例の検討、ゼミでの報告を通じて、行政法の論点を自身の言葉で説明できるようになること。また、多様な考え方を理解した上で、自身の見解を文章で表現できるようになること。その総まとめとして、自身が関心を寄せる行政分野について、裁判例を素材として卒業研究をまとめること。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	前期ガイダンス（授業概要・演習の進め方・評価方法等についての説明）		16	後期ガイダンス（演習の進め方と卒業論文の執筆について）			
2	研究倫理について		17	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告①			
3	行政と行政法の最近の話題について		18	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告②			
4	法学文献の調べ方と読み方		19	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告③			
5	行政判例の調べ方と読み方		20	共通テーマ：福祉行政をめぐる行政法の論点①			
6	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点①		21	共通テーマ：福祉行政をめぐる行政法の論点②			
7	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点②		22	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告①			
8	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点③		23	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告②			
9	ゼミ生の活動：関心のある行政分野の裁判例を探す		24	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告③			
10	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告①		25	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告①			
11	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告②		26	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告②			
12	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告③		27	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告③			
13	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告④		28	ゼミ生の活動：卒業論文の報告資料の作成			
14	卒業論文の書き方		29	卒業論文の報告			
15	前期まとめ		30	後期まとめ			
予習内容 復習内容	報告レジュメを作成する。共通テーマで扱う裁判例、参考文献を読む。 報告と討論で得た学びを整理し、卒業論文の執筆を進める。共通テーマでの学びを整理する。						
教科書	教科書、参考文献等は初回講義時に提示します。 『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨んでください。						
成績評価	ゼミでの自身の報告（準備したレジュメの内容や報告での工夫等）とゼミへの参加状況（報告者に対する発言やゼミ運営への協力の姿勢等）を評価します（60％）。また、卒業論文等の成果物を評価します（40％）。						
実務経験							
その他 特記事項	行政法と地方自治法の授業を受講していることが望ましい。 学生の関心やゼミの進行状況により、各回の学習内容が変更となる場合があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		浅野 和也	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえて、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察しグループディスカッション（GD）を通じて理解を深めていきます。同時に、自分の関心のあるテーマで卒業論文の完成をめざします。						
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。また、企業の施策が社会に何をもたらすのか、課題を抽出し自分の考えを卒業論文にまとめること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス：演習の進め方		16	卒業論文の進捗状況報告			
2	テーマの選定		17	文献通読：能力開発			
3	問題意識の確認		18	報告：能力開発			
4	論文執筆の意義		19	GD：能力開発			
5	論文の起承転結		20	文献通読：ワーク・ライフ・バランス			
6	文献通読：雇用		21	報告：ワーク・ライフ・バランス			
7	報告：雇用		22	GD：ワーク・ライフ・バランス			
8	GD：雇用		23	文献通読：労使関係			
9	文献通読：賃金		24	報告：労使関係			
10	報告：賃金		25	GD：労使関係			
11	GD：賃金		26	文献通読：ブラック企業			
12	文献通読：労働時間		27	報告：ブラック企業			
13	報告：労働時間		28	GD：ブラック企業			
14	GD：労働時間		29	卒業論文の最終確認			
15	卒業論文の進捗状況報告		30	総括：卒業論文の発表			
予習内容 復習内容	予習：資料・GDのテーマについて自分の考えをまとめておく。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて卒業論文のブラッシュアップを進める。						
教科書	未定。卒業論文のテーマ等に合わせて紹介・決定します。						
成績評価	毎回の出席は必須。通読のレジメや報告：30%、卒業論文：70%						
実務経験							
その他 特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生の皆さんです。積極的な発言・主体的な行動を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		石原 洋介	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		・経済及び金融の基本的理解を得られるようにする。特に日本銀行の役割と金融政策の現状をテーマの柱の一つとして学習する。 ・日本経済・金融システムが抱える諸課題に対して、学生がテキストに基づいて報告し、討論を通じて理解を深めていく。 ・金融に関するテーマで卒業論文を執筆し、論理的に自分の考えを展開できるよう指導する。					
到達目標		・日本銀行が日本経済の中でどのような社会的機能を果たし、どのような金融政策を実施しているのかを理解し、討論の中で自分の考えを述べることができる。 ・現代の金融に関する課題に対して論理的に考察し、卒業論文の中で自説を展開することができる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス、研究倫理		16	卒論中間報告 夏季休暇における進捗確認			
2	第1章 ここまで弱くなった日本経済		17	第1章 各国のロシア制裁とその効果 ウクライナ情勢を通じて学べること			
3	避難訓練（予定）		18	第1章 各国のロシア制裁とその効果 SWIFT と CIPS			
4	第2章 円安に襲われた日本の惨状		19	第2章 資源高とインフレ 世界的インフレの理由			
5	第3章 30年間の円安政策が日本を弱くした		20	第2章 資源高とインフレ インフレと金利の関係			
6	第4章 異次元緩和の本当の目的は 上がると説明された物価は上昇しなかった		21	第3章 通貨と為替と国力 為替レートの仕組み			
7	第4章 異次元緩和の本当の目的は 異次元緩和は日本経済を活性化しなかった		22	第3章 通貨と為替と国力 通貨覇権の行方			
8	第5章 急激な円安はなぜ起きたのか？		23	第4章 今後の世界情勢を占う 今後のリスク			
9	第6章 矛盾だらけの経済政策		24	第4章 今後の世界情勢を占う 米中金融覇権争い			
10	第7章 行き詰まった異次元緩和 国債市場に異変		25	卒業論文中間報告 初稿発表			
11	第7章 行き詰まった異次元緩和 資本市場の歪み		26	卒業論文中間報告 修正方針の確認			
12	第8章 日本経済は新しい段階へ		27	第5章 資産形成と投資について考える 資産形成の目的と考え方			
13	第9章 新しい金融政策を 物価目標の取り下げを		28	第5章 資産形成と投資について考える 海外への投資			
14	第9章 新しい金融政策を 科学的手法の導入		29	卒業論文指導 論文の体裁の統一			
15	卒業論文指導 課題設定		30	卒業論文指導 最終稿の確認			
予習内容 復習内容	予習：テキストの輪読箇所を読み込み、疑問点をもってゼミに臨むこと。 復習：学んだ内容が現実の社会でどのように現象しているのか、新聞やニュースで確認すること。						
教科書	・野口悠紀雄『日銀の責任 低金利日本からの脱却』PHP 新書、2023 年。 ・戸田裕大『ウクライナ侵攻後の世界経済』扶桑社、2022 年						
成績評価	ゼミでの報告及び討論への参加（50％）、卒業論文(50％)						
実務経験	なし						
その他 特記事項	・春季または夏季に日本銀行・貨幣博物館・東京証券取引所の見学に行く予定。 ・出版状況や学生の興味関心に応じてテキストは変更する可能性がある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		大畑 智史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	地方創生は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方創生に関する議論などの取組みを通じ、履修生が、日本の地方が抱える問題の解決策を専門的に考えられるようになることを目標とします。						
到達目標	①地方創生の基礎的概念を理解できる。 ②地方創生の取組みなどの現状を理解できる。 ③地方創生策について専門的に考察することができる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーション：地方創生概観、研究倫理		16	文献講読、卒論経過報告、地方分権			
2	文献講読、卒論テーマ、国家財政		17	文献講読、卒論経過報告、公民連携			
3	文献講読、卒論テーマ、地方財政		18	文献講読、卒論経過報告、公共財			
4	文献講読、卒論経過報告、人口減少		19	文献講読、卒論経過報告、予算			
5	文献講読、卒論経過報告、少子高齢化		20	文献講読、卒論経過報告、社会保障			
6	文献講読、卒論経過報告、人口移動		21	文献講読、卒論経過報告、ふるさと納税			
7	文献講読、卒論経過報告、移民		22	文献講読、卒論経過報告、租税原則			
8	文献講読、卒論経過報告、ICT 活用		23	文献講読、卒論経過報告、国税			
9	文献講読、卒論経過報告、産業集積		24	文献講読、卒論経過報告、地方税			
10	文献講読、卒論経過報告、まちづくり		25	文献講読、卒論経過報告、国債			
11	文献講読、卒論経過報告、地域資源		26	文献講読、卒論経過報告、地方債			
12	文献講読、卒論経過報告、観光		27	文献講読、卒論経過報告、特定補助金			
13	文献講読、卒論経過報告、農業		28	文献講読、卒論経過報告、一般補助金			
14	文献講読、卒論経過報告、六次産業化		29	文献講読、卒論経過報告、財政健全化			
15	卒論経過報告会：地方創生策		30	卒論最終報告会：地方創生策の効果			
予習内容 復習内容	予習：次回の報告テーマについて調べる。 復習：今回の議論の内容と自分の卒業論文の内容との関連性について考え、これを整理する。						
教科書	教科書は特に指定しません。本演習関連の文献については、適宜紹介します。						
成績評価	出席（演習時の発言）：20% 卒業論文関係（報告・議論・提出）：80%						
実務経験							
その他 特記事項	・できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。 ・学外学習を実施する予定です。 （参考）2023 年度訪問先：明和町、鳥羽市 2022 年度訪問先：津市美杉町奥津、熊野市						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		田添 篤史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	現代の社会には様々な課題がある。それらを考えるために、現代社会について様々な面から取り扱った経済学系のテキストを輪読し、自分の担当回の発表およびゼミ全体でのディスカッションを行う。そのうえでゼミ生が自ら卒業論文のテーマを決定し、それに関する調査および報告を行い、卒業論文を完成させることを目的とする。						
到達目標	① 現代の経済に関して重要と考える研究テーマを自ら設定し、テーマ設定の理由について説明することができるようになる。 ② 自分で設定したテーマに関して、卒業論文を完成させる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	演習の目標、評価方法の説明			16	卒業論文のテーマ発表		
2	経済の仕組みと経済政策			17	テーマを決定した理由についての発表		
3	日本の経済政策の歴史			18	テーマ選択の妥当性についての検討		
4	国土開発政策			19	先行研究の調査		
5	中小企業政策			20	先行研究についてのまとめ		
6	農業・食糧政策			21	先行研究に対する批判的検討		
7	労働政策			22	卒業論文の全体構成についての発表		
8	医療政策			23	卒業論文の構成についての検討		
9	住宅政策			24	主張の展開とその根拠づけについて		
10	コミュニティ政策			25	根拠づけの妥当性に関する検討		
11	財政政策			26	結論部分の発表		
12	金融政策			27	結論の妥当性についての検討		
13	科学技術政策			28	今後の課題について		
14	通商政策			29	卒業論文の発表		
15	開発援助政策			30	卒業論文に関するディスカッション		
予習内容 復習内容	予習：指定された文献について読んでおくこと。 復習：演習で行ったディスカッションをまとめておくこと。						
教科書	受講者と相談のうえで決定する。						
成績評価	ゼミでの発表およびディスカッションへの参加：60% 卒業論文：40%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		田中 里美	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	大学で研究することの応用を学ぶ。社会科学をテーマとした自己の研究テーマを決定し、そのテーマについての資料収集を行う。そして、卒業論文を作成するために授業で報告し、教員やゼミ生からのアドバイスを基にして2年間の大学生活の集大成となる卒業論文を完成させることを目標にする。						
到達目標	1 卒業論文の報告 2 卒業論文のディスカッション 3 卒業論文の提出						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンスー会計学分野での卒業論文の作成			16	経営分析的視点とディスカッション		
2	資料やデータ収集の仕方			17	内部留保分析視点とディスカッション		
3	教科書の報告 貸借対照表			18	粉飾決算分析的視点とディスカッション		
4	教科書の報告 損益計算書			19	卒業論文を作成するにあたって		
5	教科書の報告 キャッシュフロー計算書			20	卒業論文の執筆の注意事項（引用の仕方）		
6	教科書の報告 株主資本等変動計算書			21	卒業論文の執筆の注意事項（注の付け方）		
7	教科書の報告 その他付属明細書			22	卒業論文の報告 固定比率		
8	会計学的視点の総括とディスカッション			23	卒業論文の報告 回転率		
9	税務会計論的視点の総括とディスカッション			24	卒業論文の報告 売上高利益率		
10	卒業研究テーマの設定とディスカッション			25	卒業論文の報告 有価証券報告書の解説		
11	研究テーマの報告 ROA			26	卒業論文の報告 有価証券報告書の分析		
12	研究テーマの報告 ROE			27	各人の卒業論文の総括 業界分析		
13	研究テーマの報告 資本利益率の総括			28	各人の卒業論文の総括 業種分析		
14	研究テーマの報告 流動比率			29	各人の卒業論文の総括とディスカッション		
15	研究テーマの報告 当座比率			30	卒業論文の提出と全体総括		
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す。 復習：卒業論文にまとめる。						
教科書	初回の授業で指定する。						
成績評価	卒業論文の提出 80%、演習での積極的な参加や発言 20%、合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	ゼミ生同士の親睦も深めたいので、積極的な参加を期待する。 ゼミ生の人数により、スケジュールが変わることがある。 正規時間外に学習を行うことがある。						